

みんなのポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

国立民族学博物館蔵 篠田 統 資料目録 I

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2010-02-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石毛, 直道 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/3475

フ ィ ー ル ド ・ ノ ー ト

〔解説〕

ここでフィールド・ノートと分類した資料のおもなものは、野外調査のさいに記した観察メモ、聞書きの類である。調査地で古文書や戸籍などを手写した資料もこのなかにふくまれている。ただし、手写ではなく、写真複写した古文書はⅡの「古文書目録」の部類に収録されている。また、研究ノート、訳稿もこのフィールド・ノートの分類のなかにおさめられているが、その冊数はすくない。

フィールド・ノートの大部分はB5判の手製本の体裁のものである。すなわち、二つ折りにしたワラ半紙の本文に厚紙の表紙をつけて和綴じにし、表紙および背にうす茶色のハترون紙を貼りつけて製本してある。背表紙には『西のせ村 1 昭二四・二五』といったぐあいに調査地、一連のフィールド・ノートのあるときには通しナンバー、調査年などを、おおくの場合フェルトペンで書いて、タイトルとしている。本文ではひとまとまりの記載事項が変わるごとに、見出しのタイトルを記した中扉の頁を挿入し、中扉頁の天と束の部分に朱塗りにして、本文頁と区別して合本している。表紙のつぎに目次頁があり、そこには中扉に記入した見出しタイトルが順に記されている。これが標準的なフィールド・ノートの体裁であるが、すべてのノートがこの体裁を採用しているわけではない。

おそらく篠田先生は調査のさいには二つ折りにしたワラ半紙を持ちあるき、それに聞書きなどをノートしたものと思われる。このようにして記録の書きこまれたワラ半紙を関連資料と共にテーマ別に大型の封筒にいれて保管しておき、そのテーマについての資料のまとまりがついた段階で、製本をしたものと思われる。そのさいサイズの小さな関連資料はワラ半紙に貼りつけて、パンフレット類はそのまま本文といっしょに綴じて製本している。そのうち製本するつもりで置いているうちに、病床についたために未製本のまま残されたものと考えられる、ワラ半紙のノートや資料類を封筒にいれたものも残されている。それらは先生が健在ならば当然合本されたはずのものであるので、この目録には「未製本」というただし書きを付して収録している。

先生が精力的に野外調査をおこなったのは、大阪学芸大学在職中の昭和20年代中頃から30年代後半にかけてであり、この時代のフィールド・ノートがおおい。それは高度成長経済の影響で日本人の生活様式がすっかり変貌する直前の時期にあたる。伝統的なくらしや民俗の最後の記録として、これらのノートは貴重な資料である。

先生はある地域についての調査をおこなうとき、その調査の目的とするテーマについて観察記録や聞き書きのノートをするばかりではなく、対象地域の全般的な情報を克明に記載することをこころがけていたようである。調査時点での人口や世帯数、集落の概観、寺社、農作物、産業、職業の種類、野生動植物、年中行事とその食物、講、婚姻の習俗や通婚圏、葬墓制、家屋形式、民謡、伝説、商店で売る品物の種類などが記されている。その地域の全体像の理解のうえにたって、目的とする調査テーマをうかびあがらせようというアプローチである。それはまた、すべての物事におうせいは好奇心をもち、いくつもの研究分野の交差するところに独自の説を立てられた先生の学風をしめすものでもある。

そこで、これらのノートはおなじ地域を将来調査する者にとってはかけがえのない基礎資料として役だつはずである。いまでは消滅してしまい、そのことを知る老人もほとんどいなくなった、その地域に関する総合的な情報が記録されているのである。おなじ地域を調査したり、研究するさいには、まず先生のノートを読むことによって失われた村のありさまやくらしについて知ることができる。

メモ魔とでもいうべき先生のことである。調査記録ばかりではなく、その調査に関する先生の行動についての記録があわせて合本してあるノートもおおい。それには旅程の記録、汽車やバスの時刻表を写したり貼りつけたもの、旅費、宿泊費、旅先での買物などを記した会計録、「道中献立」と題する調査期間に食べた食事の献立を記録したものなどがある。これらは風俗史の資料として利用価値がたかい。

このようにきわめて資料価値のたかい記録であるが、それを読みとるのはかならずしも容易ではない。フィールドでのなぐり書きのものがおおいので、判読に苦労することがあり、老化して変色したワラ半紙にエンピツで記されているものは現在でも読みづらく、将来の保存に関してはなんらかの処置をこうじなくてはならないと考えている。筆跡の読みづらさだけではなく、内容に関する解読のむずかしさがある。字名だけで記された記録などは、市町村合併や地名改正ののちの現在となっては、それがどこでの調査記録であるかをあきらかにするだけでもひと苦労であった。また、なかにはラテン語を使用した記述などもある。

内容が多岐にわたるこれらのノートの「解題」を、図書分類目録のような客観的な項目を設定して記述することはむずかしい。そこで、キーワード方式とでもいったやりかたで、それぞれのノートに記されている内容を抄録することにした。すなわち、「解題」の【内容】という項では、まずひとまとまりの記録の小見出しを付したあとで、その記録の内容をしめす語彙をならべて読者にその項に記されている内容を想像して

もらえるようにした。その具体例をあげてみよう。

向之倉——風俗聞書き：畑作物，山仕事，寺，縁組，神社と神事，講，兎，祭りの食事（五目鮓），干物，火祭り，簡易水道，医者，衛生，菜種，猪よけ，風呂，暖房，間取り図。

これは『武奈カルスト台地——昭二六』と題したノートの[内容]の一部である。この部分には向之倉(地名)での調査が記されているということを小見出しにつけ——ダッシュのあとにキーワードをならべてある。キーワードとして採用したことばはノートに書かれていることばをなるべくそのまま使用するようにつとめたが，もとのノートにはないことばをつくって記した場合もおおい。たとえばこの例では，もとのノートにはアワ，キビ，ソバ，ゴボウについて記されている部分を「畑作物」ということばを使って総括して表現している。

このような記述法ではノートを読みとった者の主観が反映されることになる。また複数の者が読みとり作業にしたがった場合の記載方式や重要と思われる項目の選びかたなどの不統一はまぬがれない。ノートの約半分は石毛が読んで解題作業にあたったが，一冊を処理するのにときとしては一日がかりとなることもある仕事なので，何人かの人がとに読解，記載を手伝ってもらっており，そのための記述の不統一が生じている。また，原本に記された先生自身の記述も表記の統一がとれていないものである。「鮓」と表現したり，「すし」と書いたりしてあるし，先生独自のことば使いもある。読者に了解可能なかぎり，原文のニュアンスをなるべく伝えることにしたので，さまざまな表記法がまざっている結果になった。そのような不備があることを承知のうえで，この「解題」を利用されたい。フィールド・ノートの原本にあたるための手がかりとしての役目をはたすことが，この「解題」の使命であり，それ以上のくわしい情報はフィールド・ノートそのものを読んでもらうことである。

「解題」の記載形式については，つぎの凡例を参照されたい。

[凡例]

フィールド・ノートの一冊ずつについて，整理番号，タイトル，判形，縦書き・横書きの別，頁数，概要，目次，内容について記載してある。

1) 整理番号と配列

整理のためにつけたもので，原本にはない。原則として，年代順に配列してある。原本に年代の記してないもので，記録作成時がおおよそ推定できるものは年代順の配列にいらておいた。

昭和30年から昭和39年までのあいだに記録された「車窓日記」はまとめて分類番号133～146までのあいだに収録してある。「車窓日記」というタイトルは付していないとも、旅行のさいに車窓から観察して専用の記録用紙に書きこんだ資料もここにまとめておいた。「車窓日記」の調査結果の一部は『暮らしの知恵—考える生活科学』（玉川出版部1978年 所収）にまとめられている。

記録時が不明のフィールド・ノートは以後にタイトルのアイウエオ順に配列してある。

2) タイトル

原本の背表紙に記されている題名をそのまま記している。未製本のものは封筒に記されていた題名をタイトルとして採用している。原本の題名に調査年月が記されているものがおおいが、その表記法は一定していない、漢数字を使用したもの、アラビア数字を使用したものが混在する。ここでは統一をせずに原題どおりに記してある。なお、タイトル以外の部分では、フィールド・ノートのなかには書き写されている文献の題名に漢数字が使用されている場合などの例外をのぞき、アラビア数字で統一してある。

3) 判形

ほとんどがワラ半紙を二つ折りにして手製本したB5判のものである。製本されずに封筒にいれられたままのものは「未製本」と記しておいた。

4) 縦書き、横書きの別はそのノートの大部分が縦書きになっているか、横書きであるかをしめすものである。したがって、横書きと記されているノートでも一部が縦書きである場合がある。

5) 頁数

おもての表紙のあとで最初に文字の記されている頁からはじまり、うら表紙の直前の本文頁までをかぞえて記してある。その間に中扉などで文字の記されていない頁もかんじょうにいれてある。

6) 概要

そのノートに記録されている調査の場所、年代、それに関連する先生の論文名などと内容の概略を記載してある。

7) 目次

原本に目次頁があるときは、そこに書かれている目次をそのまま記載し、原本に目次頁はなくとも中扉頁に大見出しが記されているものについては、それを順に記載して目次として使用している。未製本のものなど原本に目次、見出しのないものについては、まとまった内容ごとに編者が目次を作成した。

8) 内容

目次の小見出し，あるいは原本を読む作業にあたった者の判断で，ひとまとまりの内容の記録についての小見出しをつけ，ダッシュのあとに内容をしめすキーワードを配列した。小見出しは頁順にそって配列されている。キーワードも原則として原本における記載順にならべてあるが，おなじキーワードで表現すべき事項が前後してでてくる場合には一方が省略されている。

9) []

編者が推定して記入した事項は[]にいれて表記した。また読みとれない文字は，□で表記した。

001 支那の生物と農業と

B 5 判（横帳） 縦書き 194頁

昭和14年から16年の間に出版された産研調査資料なる中国の産業・自然などについての報告書を適宜、抜書きしたものを合冊、内扉には「支那 Biota」とある。

[目次]

1. 昭和十四年度 四川省農産統計 2. 山西農業事情 3. 山東省特用林産物 4. 河北定県土壤調査 5. 新疆のビオータ

[内容]

昭和十四年度 四川省農産統計——内扉に「(昭和十四年の調査) 重慶 抗戦力 調査日記室鉄平 昭十八・五月 人文閣」とある。重慶を中心とする鉄道図、県ごとの農産物、物産のとれ高を記す。

山西農業事情——最初に「山西省農業事情報告書 長谷川信美 産研調査八 昭十四・九月」とある。位置、累年気温、降水量、土地ごとの気温・水量を記す。

山東省特用林産物——最初に「山東省の特用林産物 華北産研調査一六 昭十六・六月 阪本智」とある。桐、胡桃、栗、竹、木炭、香末と神香の六項目について学名、呼称、産県などを記す。

河北定県土壤調査——最初に「河北省定研土壤調査報告 管野一郎 産研調査一八 昭十六・十二月」とある。植物・気候を記す。

新疆のビオータ——内扉に「S. P. ナザロフ 著 齊藤大助訳 新疆省から印度へ 昭十八・六月 大和書店」とある。文中に登場する動・植物と土地の形状等が抜書きされている。また、ヤルカンドからスリナガルまでの手書きの地図が収められている。

002 二瓶 松田 北支の農具調査 昭和17年

B 5 判（横帳） 横書き 88頁

内扉に「北支の農具に関する調査 二瓶貞一、松田良一 華北産研調査報告 No. 13 昭17・12月」とある。北支における農具の種類・用法・主要作物の収穫法・調整法などを記したものの写し。

[目次]

1. 綜説 2. 各論 3. 主要作物の収穫と調整

[内容]

綜説——農具を耕墾用、攪碎用、肥料用、播種用、鎮圧用、中耕除草移植用、灌水用、収穫用、脱穀脱桴用、選別用、穀物加工用、乾燥貯蔵用、特用作物加工用、養畜用、運搬用、其他に分類、末尾に註及び参考資料を付す。

各論——農具の解説・適宜図を入れる。名称にはそれぞれ中国語の読みを付す。全94種。

主要作物の収穫と調整——小麦，高粱，玉蜀黍，粟，豆，水稻の収穫法と調整法を記す。

003 脚気史

B 5 判 横書き 20頁

おそらく講義に使用するために作成したと思われる孔版印刷（ガリ版）の資料を製本したもの。おおくの表，グラフ，化学構造式をふくむ。昭和23年前後に作成したものと推定される。

[目次] なし

[内容]

脚気の症候 (Symptom)，脚気病因 (Etiology)，諸説，高木兼寛の考へ方，榊順次郎の考へ方，今までの結果の要約，不足栄養分の探究，健康と Vitamin B₁，食餌の種類と Vitamin B₁ 需要，現在日本（1947）に於ける摂取実情，Vitamin B₂ 所要量，Folic Acid, Cholin, Vitamin C, Vitamin A, Vitamin K，酵素の構造，Hyper Vitaminosis，三浦守治の考へ方。

004 西のせ村 1 昭二四・二五

B 5 判 横書き 116頁

先生は大阪府豊能郡西能勢村の調査をしばしばおこない，大阪学芸大学の研究室でもこの地方の総合調査を手がけていたようである。「能勢街道」，「天王大阪七曲り」，「土ヶ畑民俗」（『風俗古今東西』社会思想社 1979年 所収）に能勢調査の思い出が記されている。本巻は昭和24・25年の調査記録を製本したものである。

[目次]

1. 長谷にて（昭和24年5月） 2. 天王（昭和25年） 3. 北摂・領主表 4. 宗門帳・戸籍婚姻圏 5. 農協統計 6. 水棲昆虫消長表 7. 西のせ大概・総合調査座談会 8. 総合調査各種集計

[内容]

長谷にて——長谷で数人の人々に集ってもらい西能勢の年中行事と食事や民俗について語ってもらった聞き書き：年中行事と食事，雨乞い習俗，小字，名月姫，養子，日常の食事，祭りの食事，学童の弁当，味噌，サンショウ，川魚，野生動物，クリ，水田，祠，棄老伝説，結納，多い姓，寺，各集落の概観，伊勢音頭，浄瑠璃音頭，江

州音頭、浄瑠璃、スモウ、長谷の戸数・世帯数・農家数・平均耕地面積・山林面積、農家の間取り図1。「大阪府豊能郡西能勢郡西能勢村正月風俗」森本弑・中田一郎・田中好・多田加寿子共著『生活文化研究』別刷（1954年7月）全8頁と多田加寿子氏の篠田先生あての注釈が貼りつけてある。その巻尾に「お願い」というタイトルで年中行事の食事、妊娠中・出産後・授乳中の食風俗について読者から情報を寄せられるよう篠田統名でのコラムがのせられている。

天王——B5判の罫紙6頁に縦書きで天王の地誌概略が記されている。里程、戸数、職業、田畑面積、米の供出量、多い姓、寺、狩猟頭数、墓制、神社、年中行事、寺名。

北摂・領主表——能勢を含む北摂地域の領主別に各村の石高を記した表を作成したもの。

宗門帳・戸籍婚姻圏——山辺、神山、長谷、栗栖地区を対象に宗門帳および明治以後の戸籍から配偶者の出身地を記した表を作成して通婚圏を集計している。

農協統計——西能勢村農業協同組合の第2回通常総会提出議案（昭和25年4月30日）、第3回通常総会提出議案（昭和26年5月13日、8頁）をとじこんである。これに農協の会計関係のさまざまな数字が記されている。ほかに手写した数字で、一般配給農家と転落農家数、農家人口、食塩販売量、作物面積と生産量、作物・果樹の生産量と生産者価格などが記されている。

水棲昆虫消長表——横欄に地名、縦欄に29種の水棲昆虫が学名で記されており、時期をたがえて、これらの昆虫の有無を記したものと水質検査のためであろう、6ヶ所で採水したさいの天候、気温、水温、pHを記したもの。

西能勢大概・総合調査座談会——おそらく、共同調査をしたさいに資料整理のためまとめの座談会を開き、その発表をノートしたものと推定される。人口・戸数・耕地面積などの数字、職業別戸数、教育、道路、ウシの飼料、高野豆腐、学童の長欠、方言の特徴、頼母子、講、進学率、高等教育、浄瑠璃、旧家、各地区の祭りの習俗、猪の子餅、祇園はやしの文句、その他の唄の文句、社寺、日常の食事、非農家の職業別人口、酒屋、荷物運搬、炭の輸送、クリ、昔の商業圏、村々の関係、結婚習俗、株、神社と祠の祭り、田植の儀礼、山ノ神、雑煮、山菜、西郷村の歴史と民俗を郷土資料から写す、「多田家嫡流枝葉御家人旧略記」の写し。

総合調査各種集計——学童の尿検査表、職業別戸数、年令階層別人口表、夫婦年令差の表、女の初婚年令表、親族・姻族間婚の表、室数・畳数・一人あたり畳数の表、家の方角の表、年令別家族構成の表、世帯主と家族の職業、出世時の体重などを各地区で集計している。ほかに村全体の集計表にしたものに、土地利用区分、農家戸数と

人口、自作と小作、定住世帯員と労働耕地状態、家畜頭数、ニワトリ・タマゴ、雑穀、カキの集計、農村工業の経営規模、村の会計に関する表、起立性蛋白尿の地区別の表がある。

005 西のせ宗門帳 長谷

B5判 横書き 274頁

年代不明ではあるが、「004 西のせ村1」“宗門帳・戸籍婚姻圈”の集計に使用した宗門帳の写しの内容と同一地区であるので、この順番にいらてある。内扉には「天保8酉年」とあり、次の頁に「長谷宗門帳 大植佐治郎蔵」とある。摂州能勢郡長谷村の宗門帳の写しの合本である。

〔目次〕

長谷宗門帳 1.文化14年（断簡） 2.文政12年（断簡） 3.天保6年（断簡） 4.天保8年（断簡） 5.天保14年 6.弘化2年 7.嘉永2年 8.嘉永5年

〔内容〕

文化14年（断簡）——扉には「文化14年 宗門帳 残簡 長谷」とある、それぞれの家の宗派、年齢、氏名、家族人数を記す。

文政12年（断簡）——扉には「文政12年 宗門帳 残簡 長谷」とある。記載内容・形態は上に同じ。

天保6年（断簡）——扉には「天保6年 宗門帳 残欠 長谷」とある。記載内容・形態は上と同じ。

天保8年（断簡）——扉には「天保8年 宗門帳 残欠 長谷」とある。記載内容・形態は上に同じ。

天保14年（断簡）——扉には「天保14年 宗門帳」とあり、記載方法も上に同じ、ただし本文書は名前を列挙した最後に檀那寺院を記す。

弘化2年——扉には「弘化2年 宗門帳 長谷」とある。記載形態・内容は上と同じ。

嘉永2年——扉には「嘉永2年 宗門帳 長谷」とある。さらに次の頁にまた、「嘉永二酉年 能勢郡長谷村宗門改帳 法華・禅・浄土」とある。記載形式・内容は上と同じ。宗派、年齢、氏名、家族合計人数などの項目がその内容である。

嘉永5年——扉に「嘉永5年 宗門帳 長谷」とあり、次の頁に「嘉永5 子年三月廿七日 大うえ左次郎」と記されている。本文書も先の宗門帳と同じく、宗派、年齢、氏名、合計人数が家族ごとに記されている。

006 西のせ宗門帳 神山 山辺 栗栖

B 5 判 横書き 186頁

「005 西のせ宗門帳 長谷」同様年代不明であるが、地域が重複するので同時期に作られたものと判断してこの順番に記載することにする。内扉には「西のせ 戸籍宗門帳 2～2 神山, 山辺, 栗栖, 古仲寅太郎蔵」と記されている。五人組帳, 戸籍, 宗門帳を写したものの合冊。

[目次]

1. 神山——慶応2年五人組帳, 明治2年宗門帳, 明治3年宗門帳, 明治4年宗門帳, 明治4年戸籍, 明治5年戸籍 2. 山辺——嘉永4年宗門帳, 明治4年戸籍 3. 栗栖——明治4年戸籍

[内容]

慶応2年五人組帳——内扉に「慶応二年寅三月五人組帳 能勢郡神山村」とある。

明治2年宗門帳——内扉に「明治2年5月宗門改帳 能勢郡神山村」とあり, 各家の石高, 家族構成, 年齢を記す。

明治3年宗門帳——内扉に「明治三年四月午御宗門御改帳 摂州能勢郡神山村」とある。各家とも檀那寺, 家族構成, 年齢, 石高を記す。

明治4年宗門帳——内扉に「明治四年辛未三月宗門改帳 神山村」とある。記載内容は明治3年のものと同じ。

明治4年戸籍——内扉に「額田県 明治4辛未 12月 戸籍 卷3 神山 桜井谷支配所」とある。家族氏名, 年齢を記す。

明治5年戸籍——内扉に「明治5歳十一月改 摂津国能勢郡第叁区神山村戸籍 戸長大植佐治郎支配」とある。家族氏名, 年令を記し, 最後に男女人数合計(年令別人数), 職別人数を記す。

嘉永4年宗門帳——内扉に「嘉永四年寅三月 宗門改帳山辺村 古仲寅太郎蔵」とある。戸籍と同じ記載形態をとり, 最後にそれぞれの檀那寺を記す。

明治4年戸籍——扉に「額田県 明治4辛未年 戸籍 桜井谷支配所 卷2 山辺」とある。各家族とも氏名, 年齢を記す。

明治4年戸籍——扉に「額田県 明4辛未 12月 桜井谷支配所 戸籍 第一栗栖」とある。各家とも氏名, 年齢を記す。

007 [西能勢村 家別石高・家族調査票]

B 5 判変形 (153×252 mm) 2枚

年代不明(昭和24・25年ごろと思われる)。フィールド・ノートの「西のせ宗門帳

神山・山辺・栗栖」に写した「明治4辛未三月宗門改帳 神山村」の内容を整理するために作った孔版印刷の表。各家の持高（石斗升合）と明治2～4年の家族構成を関連させた表である。

008 病床探訪録 昭二五

A5判 横書き 249頁

病院で入院患者からの風俗の聞き書きを綴ったものと、昭和28年4月19日から5月8日までの患者食の献立がある。

[目次]

1. 近江・高月 2. 阿佐 3. 土佐・本山 4. 阿波・美馬 5. 丹後・網の 6. 山城・三山木 7. 遠州・浜松 8. 筑前・田川 9. 京・松原 10. 紀伊・阿田和 11. 丹波・三ノ宮 12. 越後・塩沢 13. 近江・大原市場 14. 丹波・保津 15. 伯耆・大山 16. 石州・波子 17. 加賀・金沢 18. 越前・敦賀 19. 近江・岡山 20. 加賀・江沼 21. 因幡・岩美 22. 安芸・広島 23. 紀州・高野山 24. 因州・鳥取 25. 越前・福井 26. 丹後・宮津 27. 石州・岡見 28. 患者食献立 目次をつくってあるが、後の小タイトルと必ずしも一致していない。

[内容]

伊香郡・高月——片桐弥重氏：青年団，正月の行事食・雑煮，年中行事，雨乞い等の聞き書き。

阿波——新名看護婦君：すしについての聞き書き。

丹後——田中広亮氏：すし，年中行事，講等についての聞き書き。

山城・三山木——木原夫人：年中行事と行事食，講等についての聞き書き。

遠州・浜松——野入看護婦君：すしについて。

福岡・田川郡（香原と飯塚のマンナカ）——野中看護婦君：すしについて。

京都・松原——伊佐早千代子氏：すしについて。

紀伊・阿田和——丹波三宮のオバサン：すし，年中行事について。

新潟県・塩沢——農家食について。

甲賀・大原市場——井用昇氏：行事食，講，雨乞い等についての聞き書き。

保津——大西辰夫氏：祭，講，行事等についての聞き書き。

西伯・大山村・赤松——伊沢快伸氏：年中行事について。

金沢——金田看護婦君：すし，行事食について。

岩見——田中さん：行事食について。

広島——西田操氏：行事食について。

石州・国美村——石本寛一氏：魚，行事，特産物等についての聞き書き。

患者食——昭和28年4月19日より5月8日までの献立。

009 近江

B5判 横書き 272頁

内扉に「近江路」と記されている。昭和25・27・31・38年に滋賀県でおこなった聞き取り調査および文書調査の記録。先生自身が目次を付けているが内容の小タイトルと必ずしも一致していない。

[目次]

1. 堅田 2. 草津 3. 大曲 4. 幸津川 5. 野洲 6. 老蘇 7. 甘呂 8. 松原 9. 息長
10. 岩脇 11. 名和田

[内容]

堅田——昭和27年9月 宮川氏より，とある。「於堅田大宮社 中年中諸役并下行儀式」(永禄5年の日付あり)抄録。年間の供物，下行物の内容を記す。

草津——北川藤九郎氏談：手織，藍染め，型置き職人，繊維製品の価格，馴れ鮓。湖南バス時刻表。北川夫妻談：染色，阿波の藍の前は地藍，年間の仕事，瓶。

五条・下笠——中年女性達の談：青花，野菜，仲買。

水口・干瓢(飯田喜代子・尾崎千恵子・小泉恭子同道)昭和38年8月19日——中山寺家の子供談：干瓢をむく道具(挿図)，干し方，用途(自家用・贈答用)。松田食物店での聞き書き：干瓢むきの道具，農協。徳野曠平氏談：干瓢作りの歴史，播種，草かき，収穫，採種，作付，出荷，干瓢むき，漂白，燻蒸，野洲との比較，用途(すし，大豆と煮るなど)。福田善造氏談：皮むき，干し場。伊勢亀山市役所の小使いさん談：亀山の概況。

近江・車中 紺喜(下田)昭和31年——開発，内田秀雄氏からの葉書を貼る。中村氏出書信の写し(水口の干瓢作りについて)をとじる。汽車の窓から見た女子労働服の統計(区間：犬上一神崎，蒲生一栗太，他)。紺喜(甲賀郡下田)での聞き書き(1956年2月)：瓶数，地藍，近在の紺屋。三雲一八幡間国鉄バスより見た景物。

大曲——山本氏談：神社の祭礼(百姓筋，武士筋，伊勢講，坂迎え，献立，神輿，式内社，手織，酒，兵主神社，新川神社，各地域の神社，八幡の左義長，日振八幡の祭礼)。

幸津川——村の概況，酒のみ祭り，宵宮，神輿渡し，すし，新川神社，隠居，神酒(以上話者の記載なし)。プリント(幸津川 新川神社例祭に舞われるかんこの舞の説明と歌詞，楽譜の2枚)をとじる。

野洲（さらし）——鈴木喜太郎氏宅調査：蔵書の一部の目録を記す。遠藤家の「日並帳」（元治2年とあり）より献立の抜書き。「流水帳」。「県公報」。

野田 川口——川口林蔵氏談：修業（おそらく紺染めの）、自家藍、農家の副業、間取り図、藍染にかかる費用、藍栽培、竜骨車、水車、裏作、ヌカ。

老蘇——井上多喜二郎氏談：鎌若宮とその祭礼、山車、津島さん、マチャラコ（仁王会）、山の神、内野の山の神、天智離宮の伝承、駒野長者、石寺、近在の村落の概況、正月の食事、正月祭り、初詣、火伏、伊勢参り（坂迎え、神明講）、村の組、年中行事と行事食、鮓（早鮓、巻鮓、鯖鮓）、衣服、婚姻、二毛作、煙草、鮎鮓、山行のしたく、学校、百姓。

甘呂——昭和27年6月調査（タイトルページのみ）。

松原——昭和27年6月調査。75家族の戸主氏名、生年、家族（続柄、氏名、生年）、転入出のある場合は転入元、転出先、檀那寺などについての記載がある。

息長——昭和27年6月調査。末子相続、鮎すし、すし、寺社、おこない、青年団、縁組、旦那、年中行事と行事食、医者、学校。

岩脇——昭和27年6月調査。24家族の戸主氏名、生年、年齢、父の氏名と続柄、家族（続柄、氏名、生年月日）、転入出のある場合は転入元、転出先、檀那寺などについての記載がある。

多和田——昭和27年6月調査。16家族の戸主氏名、両親氏名と続柄、生年月日、家族（続柄、氏名、生年月日）、転入出、婚姻などについての記載がある。

近江・坂田（東黒田 志賀屋）昭和29年2月——東黒田 志賀屋での聞き書き：年中行事と行事食、いなりずし、のり巻、漬物、餅、縁組。

今西・尾上・山本——今西にて：農具（図あり）、おこない、白髭明神、生業、鮎、鮎鮓、馴れ鮓、漁、旧家、今西城址。尾上にて漁業組合での聞き書き（昭和28年4月）：漁業、獲れる魚の種類、小江神社、正月雑煮、おこない。山本にて魚吉こと松田吉男家での聞き書き（昭和28年4月1日）：鮎の種類、塩切り、鮎鮓、鮎以外の魚の鮓、魚の調理法。

雄琴 山下文書——筆者、年代不明の巻紙に書かれた文章の写し、神事に関する雄琴村官年寄と壬生官務配下大石郡司の間の往復書状4通（某年正月8日付2通、某年卯月3日付2通）の写し、祭礼奉仕に関する内容を持つ某年6月5日付の書状の写し、「頼母子講前書三則」「積立仕法帳」（万延2年）、「相続講仕方帳」（文久2年）、「口演・仕法書」（明治14年）の写し。

010 武奈カルスト台地 昭26

B 5 判 横書き 254頁 B 4 判アンケート用紙もあわせてとじる

内扉に「武奈 昭26調」と記されている。昭和26年8・10月に滋賀県彦根市の武奈をはじめ周辺地域でおこなわれた聞き取り調査の記録。戸籍の写しと思われる記載を含む。小・中学校でおこなわれたアンケート調査資料もある。

[目次]

1. 昭和26年8月19～22日——武奈，明幸，男鬼，樽ヶ畑・甲頭倉・屏風・後谷 2. 昭和26年10月16・17日——入江，鳥居本・小野，善谷，米原中・鳥居本小資料 3. 昭和26年10月18～20日——芹谷一般，桃原，向之倉，下村・安養寺，入谷・今畑，落合・武奈，芹谷中・後谷小・落合小資料

[内容]

武奈——8月19日武奈で木ノ本の28代の醤油屋岡平左エ門天津氏より聞き書き：漁村の床，上草野の板碑。澤増雄氏談：武奈・明幸・男鬼の戸数及び寺院数，畑の面積，畑作物，炭焼，桑，[炭焼釜]の見取図，郵便配達，セタ（背負子），ササミ（炭焼用），聞き取図，娯楽，武奈，厳因寺，明幸，明満寺。昆虫7種，鳥8種，植物10種の名称を列挙する，正月について，年中行事と行事食（彼岸，野休み，秋祭り，報恩講など），嫁とり（通婚圏），結納，仲人，結婚式，披露，里帰り，出産，病人，家族規模，青年団，読書会，作業着，畑作，葬式，雨乞，飲料水，相続，山林，栽培作物，火事，姓と戸数，魚，野味，豆腐，木の実，樹木，炭，穀類の調理。藤川氏談：村の由来，安政4年の村の概況[文書からの写し]，[買物帳]の写し。「安政4年殿様御農廻り御小休諸事留記（庄屋勘左衛門の記）」，5月12～15日の旅程の写し，炭，菜種油，縁組，明治・大正・昭和人名書上げの転写，杉，暖房，イモ干し，梅干，弁当，山仕事，縁組。

明幸（めうこ）——谷口専一氏談：比婆神社，養蚕畑，谷口家聞き取り，学校，雪かき，神社（神明さん），縁組，古文書（法名2巻・売買文書の年代のみ記す）。

男鬼——村の概況，穀物，縁組，元禄12年の法名書上げあり，祭り，年中行事と行事食，大工，みそ・醤油，汁，油，桑，相続，親方，戦死，計18戸の世帯構成者の氏名・年齢を記す，炭焼，有用植物，屏風。阪本長人談：猿の害，薪炭，学校，鮎鮓，縁組，みそ・醤油，菜種油，寺。

樽ヶ畑・甲頭倉・屏風・後谷——樽ヶ畑での聞き書き：概況（戸数，寺，耕作面積，縁組，カンジキ）。甲頭倉での聞き書き：概況（戸数，寺，神社，炭焼，畑作物，耕作面積，長寿者，大工）。後谷での聞き書き：概況（寺，神社，セメント会社寮）。

入江——話者不明聞き書き：入江の開拓，ガス，畑作物，出荷，魚，入植者，牛，井

戸，入植者の出身地，耕作面積，漁業，各地区の戸数と概況，排水ポンプ。

鳥居本・小野——小野での聞き書き：講，八幡社，山羊・豚など家畜，祭りの食物，鮎鮓，縁組，養子，祭り，宮座，火送り，太鼓踊り，盆踊り，地藏盆，寺，報恩講，番方講，尼講。

善谷——風俗聞き書き：畑作物，茸，炭，麦，菜種油，天婦羅，戸数，寺，井水，婚姻，天津神社，山の神，花祭り，報恩講，尼講，氏神祭礼，地藏盆，子供のおやつ，祭りとその食物，結婚式，結納，風呂，間取り図。

鳥居本小・中学校資料——鳥居本小学校，米原中学校の生徒の氏名，居住地域とおそらく弁当のおかずと思われる品目のアンケート280件とその集計。

芹谷一般——昭和26年9月現在の14地区につき世帯数と人口と1世帯あたりの平均人数を記す。聞き書き：河内八幡，踊り，寺，神社，町村合併，ポンプ代，簡易水道，子供達のこと，学校教育，衛生，健康，葬式，墓地，食用油，野菜，蚕。

桃原——風俗聞き書き：戸数，人口，田・畑，畑作物，炭焼，割り木，浄光寺，永法寺，日吉社，祭礼と食事，魚，猪，猟師，山祭，講（報恩講，尼講，番方講），縁組，親方，結納，みそ汁。

向之倉——風俗聞き書き：畑作物，山仕事，寺，縁組，神社と神事，講，兎，祭りの食事（五目鮓），干物，火祭り，簡易水道，医者，衛生，菜種，猪よけ，風呂，暖房，間取り図。

下村・安養寺——下村にて：寺，鯖，地藍，行者講，おこない。安養寺での聞き書き：おこない，親方，隠居，結婚，開山忌，山神，亥の子，盆，畑，魚干物，油，だんご，虫，土葬（両墓制），衛生，井水，野神，博奕，冬の仕事，相続，八幡社，大人衆。

入谷・今畑——尾田義雄氏談：村の概況（戸数，人口，寺），衣服，蚕，油，猟，縁組，フゴ，タニ神社，祭礼と食物，おこない，報恩講，亥の子，飲料水，間取り図，年齢階梯制，披露宴，婚期，冬ごもり，博奕，了眼寺のおこない，講，火葬，菜の塩漬。昭和26年10月大字入谷人口構成。今畑での聞き書き：寺，おこない，報恩講，蚕，猿害，ゆるり，亥の子，祭と食物，神社，年齢階梯制，エゴマ，畑作物，猟師。

落合・武奈——風俗聞き書き：神社，寺，おこない，火事，成人式，親方，火葬，両墓制，亥の子，畑地面積，畑作物，猟師，冬の仕事，みの笠，くど，ゆるり，炭，落合神社，嫁取，婚期，山林，穀物，油，洋服，漬物，祭りの食物。武奈での聞き書き：もろと，隠居，宮の世話，宮若衆。

芹谷中，後谷小，落合小資料——芹谷中学校，後谷小学校，落合小学校の生徒の氏名とおそらく弁当のおかずと思われる品目のアンケート171件とその集計。

011 [武奈カルスト台地 家族調査 昭26]

B 7 判 未製本

昭和26年12月に行なった滋賀県湖東地方における世帯別出生年調査。書類袋に、B 7 判サイズの手製メモ用紙で1世帯1枚に家族全員の出生年、世帯主との続柄を調べたものを地域別にこよりでとじたものと、他にこれを表にしたものが入っている。

[内容]

山女原（河内）16世帯、下村（河内）12世帯、宮前（河内）13世帯、中村（河内）13世帯、今畑（霊仙）11世帯、落合14世帯、向之倉15世帯、入谷24世帯、上水谷20世帯、下水谷12世帯、屏風38世帯、甲頭倉21世帯、後谷20世帯。

012 [武奈カルスト台地 健康]

昭和19～26年の湖東地方、年度別死因・出生者一覧（手写し）、及びその資料を使用するにあたっての作業過程のメモが書類袋にまとめられたもの。

[内容]

年度別死因調査一覧 B 4 判用紙 26枚

年度別出生者一覧 B 4 判用紙 39枚

集計するために孔版印刷で作った地域・出生月・男・女別調査表 B 5 判 42枚
作業上のメモ 13件

013 朽木、芹谷

B 4 判 横書き 92枚 B 5 判 横書き 52枚

昭和19年～26年にわたる滋賀県朽木、芹谷地方の出生死亡記録。手書きの表となっている。製作年代は不明であるが、調査地域が「武奈カルスト台地」と重複しているのでこの順番に並べた。

[内容]

朽木保健調査表、朽木村概要（朽木・芹谷の封筒の中にさらに朽木の封筒あり）

鳥居本・多賀出生死亡記録——昭和26年の鳥居本、多賀の出生死亡記録。町ごとに9×12.5 cm のメモとして綴ってある。それをまとめた表が付加されている。

昭和21年～25年にわたる鳥居本の死亡因集計票。

014 近江の鮓 昭二六、二七

B 5 判 横書き 220頁

滋賀県の各地での鮓の作り方を聞き書きしたもの。馴れ鮓の記事がおいしい。鮓づくり

のほかの記事も混じっている。先生自身で目次をつけているが必ずしも後の小タイトルと一致していない。

〔目次〕

昭26——1.魚市・ヒコネ 2.中島・カタダ 3.進藤・木の浜 4.北村・大みぞ 5.森野・海津 6.竹中・ちくま 7.山本・大曲 昭27——1.長命寺 2.常楽寺 3.三津屋 4.柳川 5.長浜 6.南浜 7.塩津 8.今津 9.大津

〔内容〕

魚市（昭和26年12月4日）——彦根の「魚市」の69才の老主人：フナ、ハス、ワタカ、オイカワ、アユ、マス、モロコ、鯛、鯖、ウナギ、鯉、ボテジャコ、ウグイの鮓のつくりかたを聞く。

堅田（12月15日）——中島七郎兵衛氏談：間取り図、鮓鮓、モロコ、イサザ、ハス、鯖の鮓のつくりかたを聞く。堅田伊勢屋（12月15日）：鮓鮓、モロコ、ワタカ、ハス、イサザ鮓、鴨。

木之浜——木之浜の進藤新兵衛氏：フナ、ワタカ、ハス、モロコ、ハイ、ガンゾ、サバの鮓、早漬、祭りの鮓、正月、亥の子餅、農業、漁業。

大溝——大溝の北村氏から粕漬けの鮓、祭、正月の食物について聞く。

海津——海津の森の五一郎氏：粕漬けのフナ鮓、祭り正月の食物について聞く。

筑摩（昭和26年12月18日）——筑摩の竹中吉次氏：間取り図、フナ、オイカワ、ハス、ワタカ、イサザ、小鮓の鮓の作りかた、祭りのすし、フナの漁法と料理法、正月の食物、講、元服、葬式。

大曲（昭和26年12月15日）——大曲の山本庄作氏：大曲村の壇那寺と戸数、村の歴史と概況、作物、正月、年中行事と食物、鮓、カンゾの鮓、講、元服、神事、食習慣、住居、縁組、相続、隠居。

長命寺（昭和27年1月7日）——某氏母子より：フナ、ワタカ、モロコの鮓の作りかた。

安土常楽寺（昭和27年1月7日）——村野信三・妻君談（魚屋）：鮓鮓について。矢部義夫：鮓鮓、祭りの食べ物、今漁れる魚。下豊浦老婆：ボテのめずし、他のすし。能登川「米定」本店：鮓鮓と鮓について同店の「鮓鮓の由来」が貼りつけてある。

三津屋（昭和27年1月8日）——乙造さんより：魚屋、フナ、ハス、オイカワの鮓のつくりかた。

柳川（昭和27年1月8日）——仙波さんに聞いた（自転車屋さん）：魚屋、フナ、ハスの鮓のつくりかた。

長浜——田中屋（元彦根楽々の板場）：鮎鮓のつくりかた。米庄：鮎鮓のつくりかた。

南浜（昭和26年1月8日）——「魚政」主人中川氏：モロコ、フナ、マス、コアユ、ハス、ウグイ、ウナギ、ナマズの鮎つくりを聞く。また、南浜の歴史、本膳料理、講、社寺についての聞書きもある。

塩津（昭和26年1月9日）——フナ鮎のつくりかた、湖魚の料理法、間取り図。

今津（昭和26年1月9日）——「魚友」にて：フナ鮎つくりの聞書き。

大津——「阪本屋」内田太七氏：フナ鮎、甘露漬について聞く。

大溝町「喜多品」の鮎甘露漬のチラシ、堅田中島七郎兵衛氏の鮎鮓にたいする明治28、36年の勸業博覧会褒状のチラシが巻末に張りつけてある。

015 伊香郡

B 5 判 横書き 364頁

昭和26～27年に滋賀県の伊香郡で調査したさいの聞書きと戸籍関係文書の筆写が主である。内扉に「伊香野調 昭26—27」と書き込まれている。先生自身で目次をつけているが必ずしも後の小タイトルとは一致しない。

[目次]

1. 古橋 2. 宗門帳 3. 明治以後の戸籍 4. 戸籍 5. 死因表（高時） 6. 川合 7. 佐波加刀神社縁起 8. 大見 9. 丹生 10. 南富永 11. 塩津

[内容]

木之本——山路清平からの聞書き：桑酒，酒，容器。

古橋——高橋竜治郎：間取り図，鮎，ばい・榧・柴栗等の利用，神社，祭礼，年中行事，葬式，初潮，行事献立，小鮎のヘシコ，馴れ鮎，マスのナマス，大鮎の焼き干し，オオサンショウウオ，食用獣，猟鳥，肉食別火，落花生，山菜料理，ごぼう，祠堂，山の神祭り，講，林業，縁組，寺院，方言，鯖鮎。

明3宗門帖——明治3年「切支丹宗門御制禁寺清帳近江国伊香郡古橋村」の筆写。

明治以後の戸籍——明治5年「古橋村戸籍」の抄録。

戸籍古橋——古橋村の戸籍の抄録，人名と続柄，出生，死亡年を筆写したもの。

死因高時——昭和15～26年のあいだの高時村における死亡者を男女別，生年，死因，大字，死亡月の項目を集計したもの。

川合——民俗聞書き：年中行事と食物，頭屋制，出生，婚姻，医者，葬式，農地，鮎，野生動物，猟師，家畜，調味料，主食，職業，社寺，行政，祭，左義長，寺踊り，桜踊り，間取り図，田畑面積の変遷，くされ鮎，講，住居，集落図。

川合戸籍——川合における53戸について、明治時代から調査時点の戸籍を抄写したもの。

川合——「佐波加刀神社御由緒」，「村社佐波加刀神社略記」，「佐波加刀神社（資料）」（孔版印刷）を綴じこんである。

大見——民俗聞書き：間取り図，地域の概要，作物，野獣，林業，大見の生産物，神社，学校，人口，田畑面積，年中行事と行事食，戸数，結婚，出生，葬式，食事慣行，電灯，ラジオ・ミシン台数。

丹生——民俗聞書き：間取り図，五衛門風呂スケッチ，台所スケッチ，結核，雑煮，アユ。

南富永——古文書写し1通，戸数，神社，宝永7年の戸数・人口など，祭り，相続，隠居，年令集団（前髪，若い衆），通婚圏，慶応2年宗門帳の写し，明治2年の戸籍の写し，明治2年の縁付送り手形の写し，昭和26年改正の神事規定の写し。

塩津——民俗聞書き：青年団，寺，講，縁組，雑煮，節句。

016 伊香 坂口村 田畑文書

B5判 縦書き 348頁

内扉に「伊香郡坂口村 東野重治郎文書」と記されている。伊香は、近江国伊香郡である。この伊香郡坂口村の江戸後期の作高調書を写したものを合冊する。「015 伊香郡」の調査地域と近いので製作年代不明であるがこの順番に並べた。

[目次]

1. 作高調書（天保6） 2. 一朱銀在高調書（天保13） 3. 作高調書（嘉永6） 4. 作高調書（安政1） 5. 作高調書（安政2） 6. 作高調書（文久3）

[内容]

作高調書 天保6——内扉には、「作高 天保6 一朱銀在高 天保13」と記されている。これは目次の1と2にあたる。「天保六年御田畑作高 伊香郡坂田村」写し，「天保十三年 一朱銀御停止ニ付御調帳 寅八月廿四日 坂口庄屋重右エ門」写し。

作高調書 嘉永6——内扉には「作高 嘉永6」とある。「伊香郡坂口村 田畑作高調書（嘉永六年）」写し。

作高調書 安政1——内扉には「作高 安政1」とある。「伊香郡坂口村 田畑作高取調書 嘉永七年寅四月十日（朱書で安政元年卯七月）」写し

作高調書 安政2——内扉には「作高 安政2」とある。「伊香郡坂口村 田畑作高調書 安政二年卯五月日」写し

作高調書 文久3——内扉に「作高 文久3」とある。「伊香郡坂口村 田畑作高調書 文久3」写し。

017 西のせ村 2 昭二六・二七

B5判 横書き 194頁

昭和26・27年の調査での西能勢村各地での聞き書きと文書の写し、西能勢村関係のパンフレット各種を合本してある。

[目次]

1. 日野（昭和26年） 2. 田尻（昭和26年） 3. 宿野（昭和26年） 4. 千ヶ畑（昭和26年） 5. るり溪・天王（昭和26年） 6. 山辺（昭和27年3月12日） 7. 長谷（昭和27年4月7日） 8. 栗栖（昭和27年4月8日） 9. 山辺 10. 山辺（人別送り状） 11. 山辺（畑中文書） 12. 大黒（昭和27年4月11日） 13. 能勢一汎

[内容]

日野——東老人：集落の概観，正月行事，三人衆，祭礼と年中行事，若い衆，講，家柄，庄屋，猪の子，餅各種，山ノ神，五月の節句，栗節句，月見，すし，縁組。

田尻——民俗聞き書き：神社と祭り，山林，寒天，クリ，寺，田，縁組，米の供出量，菜種油，ムギ，寄生虫，医師，民家間取り図4。

宿野——ある農家の経営規模，養鶏。

千ヶ畑——山内三郎：ある農家の経営規模，縁組，墓，寺，バクチ，山ノ神，天道花，神社と神事，雨乞い，六人衆。

瑠璃溪・天王——戸数，出造り，『巨嶺山長杉寺略史』（東満三著 7頁 孔版印刷 昭和26年9月）と『天皇農事暦』第3号（天王中学編著 14頁 孔版印刷 昭和26年）をとりこむ。

山辺——寺と檀家数，寺関係文書名の写し，庄屋と初期の村長，年中行事と食事，講とその食事，村の株，正月初めの山仕事の行事，すし各種，虫送り。

長谷——向所 住宅の間取り図。

栗栖——栗栖の能勢弘氏の古書籍の蔵書目録を記す。

山辺——山辺の玉泉寺の『当院寺務古例記』（文化12年）から「当院寺務併田畑山林竹木茶藨寄付之事」を写す。文中に食物や献立の記事もある。

山辺の人別送り状——元禄8年から安政5年までの人別送り状の抄録。山辺の森口氏の古書籍の蔵書目録を記す。

山辺の畑中文書——嘉永4年から安政2年までの間の人別送り願い，変死者の報告

など代官所に届け出た戸籍関係の文書7通の写し。

大黒——多田夫人：年中行事と食事，初節句，嫁入り，村株，講とその食事，亥の子。

能勢一汎——『能勢の自然と文化—能勢郷土文化研究会会報』第4号（孔版印刷12頁 昭和26年6月）と書名不明の西能勢村の概況と西能勢中学校の概要を記したパンフレット（おそらく西能勢中学校刊のもの 孔版印刷 23頁）をとじこむ。

018 参河

B5判 横書き 162頁

昭和27年2月に愛知県北設楽郡下津具（現在の地名は津具村下津具）で花祭の調査をしたさいの記録が主である。このときの調査結果の一部は「山家に残る家父長権」（『暮らしの知恵—考える生活科学』玉川大学出版部 1978年 所収）にまとめられている。ほかに，昭和29年2月に愛知県でおこなった聞き取りが収録されているが，それは，おそらく上京のさいに途中下車をして得たものと推定される。内扉に「東海道中」と記されている。

[目次]

1. 昭27——下津具，花祭，漢医蔵書，死因表 2. 昭29——江戸，東海道線，三河支線，伊勢

[内容]

下津具（昭和27年2月）——年木，部落名，民家スケッチ，花祭。夏目氏聞き書き：宮人，通婚圏，交通，流入，木地師，淡水魚，花祭，五平餅，ハチの子とり，作物，土葬，花祭行事次第，弥生時代遺跡，門松，婚姻，隠居，行者，講，年中行事，出産，節句，行事食，昔の食生活，いも，イロリ，役畜，果物，野生堅果，山菜，ばくち，草刈り，医師。女中の話：行商人，五平餅，芝居，映画，嫁入りとその食事，年中行事とその食事，狩猟鳥獣とその料理，猿の子，田植の食事，里帰り，正月のまりつき歌，盆踊り，酒宴の歌，呪師，神社，いいつたえ，民間信仰とまじない，虫，学校。瀧沢義一校長の話：花祭，学校の規模，進学先，食生活，医療施設，疾病，青年活動。

花祭（昭和27年2月）——さまざまな舞の種類とそれぞれの服装をスケッチ，曲の調子をローマ文字で記したものを付して記述する。各地の花祭と神楽，婚礼，葬式，いろいろの座，間取り図，田植，櫛のコモ，ひいなスケッチ。

漢医蔵書（昭和27年2月）——下津具の漢方医の蔵書をリストにしたものと思われる。322種の漢籍，和本，明治初期の教科書等の書名と冊数が記されている。そのうちの約三分の一が医書である。

下津具死因（昭和27年2月）——昭和21～27年のあいだに死亡した者185名を集落名、男女別、生年、死因別のリストにし、それを集計した表も作成している。

三河の祭——三河の各地の祭りの名と地名、祭りの日をリストにしたもの、三谷の祭の食事。

三河の支線（昭和29年2月）——西浦の祭りの食事。吉田の金物屋の話：雑煮、吉田の川祭、祭りの食事、正月の食事、亥の子、講、屋敷神、醸造、塩浜の神、鳥羽の火祭り、婚姻、女のよばい、秋葉信仰。舉母の祭りの食事。一色の漁業と祭りの食事、雑煮。

019 1952

8.6×14.3 cm 横書き 196頁

昭和27年4月4日から9月12日までの日記とメモ。

[目次] なし

[内容]

日記、揚州料理の作り方。バスの時刻表。書評。弓・弩・砲について等。

020 江州玉緒村 昭二七

B5判 横書き 136頁

玉緒村は現在滋賀県八日市市になっている。昭和27年9月に調査したものと思われる。この村の死亡届けから死亡原因を抜き書したものと、各集落における古文書を筆写したものが主である。

[目次]

1. 玉緒村全般 2. 土器・同文書 3. 瓜生津 4. 上大森 5. 下二俣 6. 紫原南 7. 芝原 8. 尻無

[内容]

玉緒村全般——人口、戸数、昭和23～27年までの死亡届けから、死因等を抜き書きしたもの。昭和23～27年の出産数。

土器・文書類——延宝7年検地帳からの人名の抜き書き、祭り、結婚、相続、講、年中行事、死因の表とグラフ。「天保4年天神講神主宿帳」、「嘉永2年人数覚」、「文久2年人数覚」、明治9年～昭和4年までの神主、講宿の人名、「明和3年天神講覚帳」、「明治41年改正供物其他諸事口帳」、「文久2年定書改」の筆写。

瓜生津——人別（幕末から明治はじめにかけての人別）、愛宕講、神明講、年中行事、元服、縁組。

上大森——文化・文政年間の人名，寺，神社，講。

尻無——寺，神社。

下三俣——村田佐次郎氏からの聞書き：年中行事，講，寺，神社。

紫原南——「文化13年氏神造榮ニ付諸造用留帳」，「三力村村方与貰物之覚」，柿渋関係文書12通，玉作慶榮よりの書状1通，法性寺領近江国蒲生郡玉緒郷御菌保之内荘之事につき近江国庁宛奉書一通，「法性寺三綱衆訴状」と「同断訴状」各1通，「社再興之覚書」，「上大森社之記」，「正長3年棟下し」，「明応6年棟札」，「柴原郷大宮十禅師大明神再興棟札」，「柿運上下知状」，「蒲生豚弾守殿御許書」，「近淡海国蒲生上之郷玉緒御菌保之内荘来由記」。

芝原——戸数・人口，宗門帳。

021 三島郡

B 5 判 横書き 302頁 書簡便箋2枚

昭和27，32年，大阪府下，旧三島郡各地域でおこなわれた聞取り調査および文書調査の記録。文書については人別帳，宗門帳などの写しを載せる。

[目次]

1. 三ヶ牧／一般 2. 三ヶ牧／信楽寺・洞泉寺 3. 桂本／一般・文書控 4. 柱本／人別送り等 5. 郡家 6. 東天川 7. 郡家一覧 8. 東天川宗門帳 9. 見山村 10. 養畑
11. 安元／香奠帳

[内容]

三ヶ牧／一般——聞書き：年中行事と行事食（正月の雑煮，七草，福わかし，小豆粥，節分，八日び，彼岸，さなぶり，盆，祭礼，亥の子，月見，大晦日），盆踊，縁組（通婚圏），結婚，仲人，人生儀礼（子供，若い衆入り），神社（宮人足），講（伊勢講，愛宕講，行者講），漁（漁夫，獲物，販売），燃料，川島鴨神社，狐の寒施行，田面積，還暦祝，寺，桂本他3地域の戸数と多い姓。篠田あて田阪正昇書信（3月6日付，家庭栄養調査についての相談）

三ヶ牧／信楽寺・洞泉寺——昭和27年7月調査信楽寺：十二日講，肝煎り，宗派別寺院数，小字別戸数，畑作物，里氏子，三島鴨社，神宮寺，野神さん，安政5年と明治7年の全戸数と女性戸主の戸数，西面概況。洞泉寺；概要，農業，手織り。聞取り図。明治11年墓碑銘の写し。

柱本／一般・文書控——昭和27年3月調査聞書き：茶船，屋号，三箇牧の由来。「嘉永7年書故田中平右衛門履歴」の抄出，「天保13年柱本村年寄平右衛門口上書」写し（部分），古文書目録 1. 村経済関係48点 2. 祝儀関係7点 3. 供養遠忌関係22点。

柱本／「惣百姓歴代控」，「人別送り控」——昭和27年7月調査惣百姓歴代控柱本村：名前，出自，配偶者及その出自，子供の名及生年，異動他について記す。元禄3年から明和8年の御改に及ぶ。「安政六乙未年二月日 田中幾之助人別宗旨寺送り寺請・村送り村請控」田中氏蔵文書の写し。

郡家——昭和27年調査並川家：化政期の組頭・庄屋，幕末期の年寄と庄屋の名を記す。文書目録（「毛見帳」：天明8年から明治4年まで7点。「免割帳」：寛文8年から慶応4年まで30点。「年貢請取帳」など：安政9年から35点。訴訟記録・村方経済関係：貞享4年から）。下村家聞書き：地図，文書，相続講，逮夜講，垣内，葬式，村概念図，公文書，葬式後の宴，長州改，人別送り控（享和～慶応にかけて約70名分の地名・人名・年齢・異動年を記す）。

東天川——高槻市森本悦子氏から篠田あての葉書貼付（内容は花見の習慣についての返答）。住居間取り図2。文書目録（東天川森田氏蔵「宗門帳」，「人数増減帳」：元禄13年から明治4年まで41点。「宗旨請状」：弘化2年のもの2点，家方揚豚論先哲用，諸家膏劑）。聞書き：縁故，天川概況。宗旨証文控8点分，他82とあり。聞書き：寺檀家数，子守歌，春日明神，小烏の森・小烏大明神とその祭礼，禁忌，船，祭礼のダンジリ，行事食，鯖ずし，統計（元禄～寛政期数字が列記されるが不明）。住居間取り図1。

郡内旧家一覧——字ごとに旧家名を記すが，未記入部分多い。

「東天川宗門帳」——天保3～6年人数増減表（出生，婚姻，死亡等による異動74件につき戸主，続柄，本人の名，月，関係地を列举）。「慶応三卯年五月十日東天川村宗旨御改帳控」（66世帯23名），「明治二巳年七月十日東天川村宗旨御改帳控」（53世帯），「明治三午年東天川村宗旨御改帳控」（51世帯），「明治四未年東天川村宗旨御改帳控」（53世帯），以上の文書からそれぞれ年齢・名前・世帯主との続柄を記す。

見山村——昭和32年夏調査 藤波氏からの聞書き（8月6日）：忍頂寺（貞観2年開創）の歴史「永禄12年信長寺領安堵状」，五輪塔，「寺役免許願書」，竜龍山龍王神社・宝池寺，藍村大門寺の高塚，木村常陸守墓，キシタンとその関連遺跡，絶海国師，略地図。忍頂寺中学校古谷校長からの聞書き（6月28日）：車作の概況，水田開発，提灯測量，便所改良，衛生，畑作物，医師，切支丹遺跡。高雲寺梵妻からの聞書き（6月28日）：高雲寺，切支丹遺物は高雲寺の檀家のもの，下音羽の人情，愚痴，寺の切支丹遺物。

養畑——昭和32年8月6日調査 中西利作氏母からの聞書き：住居間取り図，年中行事と行事食（正月雑煮，ふくわかし，七日七草，小豆かゆ，餅，トンド，お頭祭り，初午，初節句，ツマキ，天道花，盆，松茸狩，善哉，鯖ずし，大晦日，年越し），

縁組，結納，親餅。元村長からの聞書き：村の概況，頭，出産，婚礼，浄瑠璃，若い衆，中老，大歳神社，八幡，火あげ，三日帰り，簀入り，伊勢講，坂迎え，妙見街道，手織，衣類，葬式，墓，同行焼，出産と宮まいり，箸はじめ，間食，猪の子，田植，サナブリ，鮎。

老婆からの聞書き——発火道具，使用人の寝所，野鍛冶，番太，髪結。

香奠帳 安元——「大正6年香料帳控」。

022 Science domestiques

B 5 判 縦書き 41頁

郡家，下村家の凶事，吉事を記した文書を写したもの。製作年代は不明であるが調査地が『三島郡』と重複するのでこの順番に並べた。

[内容]

「明治廿五年壬辰十一月十一日付，葬式一件簿」，「安政三丙辰年二月付 下村 弥太郎 出産配りもの并ニ祝受納録」，「安政六未年七月廿六日，下村頭十郎祝受納，髪置初餅配り宮参記帳」，「文久二戌年四月十日付，下村連祝受納，髪，初餅配り宮参記帳」他。

023 三箇牧 婚姻圈

B 6 判 横書き 128頁

昭和27年7月に行われた生活実態調査の時のノートらしい。大阪府三島郡三ヶ牧村での戸籍にもとづいて調査したと思われる婚姻圈に関する記録。嫁入り先，養子先，分家などの事例を，集落別に記してある。

024 三ヶ牧 田中 萩原文書 昭二七

B 5 判 縦書き 232頁

田中氏，萩原氏所蔵の婚姻，出産などの吉事にかかわる文書と病氣見舞，葬式などの凶事にかかわる文書の写しを合本したもの。

[目次]

1. 吉事
2. 病氣見舞
3. 凶事／幕末
4. 凶事／明治
5. 唐崎萩原氏／婚礼
6. 出産・初節句
7. 病氣見舞
8. 葬儀／法要

[内容]

吉時——内扉には「寛政七乙卯如月吉日 つ弥嫁入諸勘定帳入 田中氏」とある。「寛政七乙卯歳 つ弥嫁入諸色勘定併受納物帳 八月吉日 田中氏」（横帳），「天明七年 婚礼受納物覚 田中 未十一月朔日」，「文化2乙丑とし8月吉日 とみ嫁入請記

扣 田中氏,「文化13子年2月25日 亀治良縁□諸入用勘定帳」(横帳),「文政2卯年4月25日 木津村仁左ヱ門方へ幸治郎縁組諸入用勘定帳 田中氏」,「文久元年 婚礼諸色控 酉12月吉辰 ウラ田中弥太郎」「田中平右ヱ門 役蒙昇進扣帳入 ふくろ」,「天保十三壬虎十二月廿二日 蒙庄屋役ヲ天保十四卯二月朔日祝茶乃替ハリとして品物□ス帳 田中平右ヱ門」,「弘化2巳年十二月26日之御沙汰同三年午三月二賦□を到ス 蒙 士之組頭喜之記と賦連名帳併到来物扣 田中平右ヱ門」,「嘉永6癸巳年 郷簡頭格被為仰付候祝儀覚帳 正月吉日 田中平右ヱ門」。

病氣見舞——「文化十式亥六月病氣諸造用帳」,「戊二月 仁三郎病中到来物帳」(欄外に文政9Ⅲの記入あり),「明治八歳末十月併二忌中見舞記 老母病中諸控」。

凶事／幕末——「明和八辛卯九月拾三廻取越 了種院 妙立日 円信女忌 八月十五日 御経之節華翫童男 一周忌 八月十七日」,「天明六年午七月十九日死去 合掌院 妙受信女」,「円月宗遠 御悔帳 天明六酉午年閏十月八日卯上刻臨終」,「天明七歳 円解院常精日進 未六月十五日」以上は献立・もらい物・布施・供物などの覚を記す。「天明七未年六月十五日 御悔帳 真如円解院常精日進居士」,「天明七年丁未六月十五日 円解院常精日進信士 諸記」,「文化十三年子二月十四日 円是院常頼日信士五十回忌 田中氏」献立,「文化十五年寅二月十四日 円解院常精・円月院宗遠 三十三回忌」献立・くばり物・買物覚など,「文政四巳年二月十九日取越 円了院常遠十三回忌」料理献立・到来物,「文政九戌二月十二日卯上刻落命 葬式諸入用帳葬式ハッ時 円寿院久頼信士俗名仁三郎式拾壹才」,「文政九戌二月十二日卯上刻落命 葬式ハッ時 円寿院久頼信士 到来物帳」,「文政九丙戌歳四月朔日 七々日忌志併筐分 円寿院久頼日相信士仁三郎事 田中氏」,「文政十三寅年 円信院妙圓妙遠日了一周忌諸事控 七月十六日 田中氏」,「天保六乙未年四月十五日正当七月十六日 円信院妙遠日了 七回忌・円月院宗遠日観 正当十月八日五十回忌 田中平右ヱ門」献立・到来物・買物覚など,「天保七丙甲年 正当三月廿四日 覚応院一百遠忌 田中平右ヱ門優晴」献立,「天保拾二年四月十六日取越 父三拾三回・母拾三回 忌請色覚帳」志・献立・到来物など,「天保四巳年五月七日亥刻臨終 某林孩女葬式控 俗名さだ女 歳四才」袋入りであることが記されている。「天保四巳年五月七日亥刻臨終 俗名さだ女 葬式到来物控」,「天保四癸巳年 六月廿五日 某林孩女七七日忌志併筐分 俗名おさご事」献立,「天保四巳年 取越八月十九日 正当十二月二十日 円了院常遠日信廿五回忌諸事扣 田中氏」,「天保五午年二月十四日 円解院常精日進・合掌院妙受日精 五拾遠忌取越 揃勤候之扣並こん立 田中平右ヱ門」,「弘化貳巳年三月十五日取越 円信院妙遠日了拾七回忌 孩女拾三回忌 田中平右ヱ門」献立,「嘉

永二年酉九月二日 善知妙愍日慈童女一周忌」献立，「嘉永三戌年九月二日 善知妙愍日慈三回忌 田中氏」献立，「嘉永三戌年二月十二日 了種院妙立信女百五拾回忌 円寿院久頭日相式拾五回忌 田中氏」，「嘉永六癸巳年三月十五日取越 円信院妙遠日了廿五回忌 田中平右ヱ門」，「安政四巳年四月十九日取越 正当巳十二月廿日 円了院常遠日信五拾回忌帳 妙靈 林白瀾童女廿五回忌 当五月七日」，「萬延二酉年 円信院様 三十三回忌入用控 二月十五日取越」以上は献立を記す。「文治元甲子八月六日 孝運院様 三回忌諸入用控帳 並善知妙愍日慈十七回忌 田中性」。

凶事／明治——「明治八亥年十月廿一日 孝林院妙運日唱信女俗名房 行年六十八才」到来物・布施覚・献立，「明治八亥年十月 老母 中諸控尾二忌中見舞記」，「明治第九年旧九月廿三日正当 孝林院妙運日唱信女第一周忌営」，「明治十八年三月十七日午后四時終命 孝生院宗善日生葬一件記 俗名二郎行年廿二才」，「明治廿五年四月十三日午前五時落命 真唱院観浄日得葬式一件帳 俗名菊次郎 行年五十七年」，「明治廿七年，八月七日祥当 孝運院宗栄日久居士第卅三回忌営記帳 同廿七年四月十三日祥当 真唱院観浄日得信士第三回忌 田中性」。

唐崎萩原氏／婚禮——扉の前に萩原氏の家族氏名と思われるものを記した紙をはさんである。「文化七年 お勢婚礼諸事覚 午四月八日」，「文化拾一年 利兵衛入家諸事覚 戌九月八日」，「文化拾二年 お寿婚禮諸事覚 亥四月十七日」，「天保六未年 篠四郎引取諸入用之控 四月十一日」，「弘化3年午6月 大歳善左門娘，お定引取諸事扣」，「明治三年 おみち引取諸事扣」，「未四月 萩原氏 婚禮買物扣ヱ並日備覚」。

出産／初節句——「寛政十二甲正月廿一日 お品産之節參物之覚」，「文化十二年乙亥歳 久吉出生諸事覚 霜月廿九日夕七つ時」，「文化十三丙子年五月 久吉節句初諸事 萩原氏」，「文政三庚辰2月5日朝六ッ時出生 田鶴出生諸事覚帳 萩原氏」，「天保十年 芳三郎出生諸事覚」，「お志か初節句諸事覚」，「弘化四未七月四日辰五刻出生 久代出生諸事覚」，「弘化五戌甲歳 くよ初節句覚帳」，「嘉永五年戊正月八日巳刻生 寅吉出生諸事覚」，「嘉永5年 長蔵出生大宝永 壬子閏二月九日巳刻生」，「癸嘉永六五月 長蔵初節句覚帳」，「明治廿七年午四月廿五日午前三時出産 春枝出生諸事控 平尾氏」，「明治廿七年 納屋普請ニ付 到来物扣ヱ」。

病気／見舞——「文政十二年丑二月 田鶴ほうそう見舞 到来覚 萩原氏」，「丙 天保七甲之月 見舞物覚長」，「天保十年亥十月 芳三郎ほうそう諸事覚」，「弘化三年 お鹿ほうそう帳」，「明治九子九月廿日 父利兵衛病氣ニ付 見舞到来扣」，「亨病氣ニ付到来物」，「千代病氣ニ付入費及到来扣」，「ミチ病氣ニ付手伝及ヒ到来扣ヱ」以

上三通は年月日不明。

葬儀・法要——「寛政七卯九月廿一日 葬礼帳 釈貞保」,「寛政七卯九月廿一日 買物帳 貞保」,「文化二丑正月九日 釈浄妙死去之覚」,「文化八年 未五月十六日 諸色到来物扣」,「文化八年未五月十六日 買物帳」,「文化十三丙子六月七日七ッ時往生 釈浄智諸事覚 萩原氏」,「文化十年丁亥八月廿日取越 貞保 三十三回忌諸入用覚帳 萩原氏」,「天保四巳七月廿日 到来物覚帳 萩原」,「天保四巳七月廿一日 買物併諸入用控帳」,「天保七丙申年三月廿七日 釈妙専到来物覚帳」,「天保七申年三月廿七日 釈妙専 寺御布施諸入用」,「天保七丙申年三月廿七日 釈妙専 買物帳」,「天保十亥年十月廿四日 到来物扣 釈教親 俗名芳三郎」,「天保十四年 釈妙誓葬式一件 卯八月二日」,「天保十四年卯八月二日 釈妙誓葬式一件 未上刻往生」買物帳,「釈妙誓 到来もの帳」,「弘化三丙子年 釈妙信葬式一件 壬五月四日申下刻往生」,「嘉永元申年十一月六日辰上刻 釈妙貞葬式一件 生歳二才 俗名久代」,「嘉永三戌年正月廿五日 釈乗願葬式留」。

025 三島江 唐崎 柱本 宗門帳

B 5 判 横書き 276頁

内扉に「三箇牧戸籍」とある。内容から見ると、表題のような宗門帳ではなく、戸籍のようである。大阪府三島郡三ヶ牧村の大字三島江,唐崎,柱本の宗門帳。(一応,表題に従う)。製作年代は不明であるが,「023 三箇牧 婚姻圈」と同じ調査地域であるので,この順番に並べた。

[目次]

1. 三島江 2. 唐崎 3. 柱本

[内容]

三島江——当地の宗門帳。102戸,戸主,家族の氏名,生没年月日,続柄,婚姻関係を記す。

唐崎——当地の宗門帳。62戸,戸主,家族の氏名,生没年月日,続柄,婚姻関係を記す。

柱本——当地の宗門帳。6戸,戸主,家族の氏名,生没年月日,続柄,婚姻関係を記す。

026 西面 宗門帳

B 5 判 横書き 172頁 A 5 判 横書き 16頁

内扉に「西面」と記されている。大阪府三ヶ牧村大字西面のもの。表題に宗門帳と

記されるが、宗派は明記されていない。製作年代は不明であるが、調査地域が三ヶ牧であるのでこの順番に並べた。

[目次]

1～122のナンバーが氏名の前に青字で記されているのみ、特に目次はない。

[内容]

戸籍とはほぼ同じ、住所、氏名、生没年月日、家族構成、続柄、嫁ぎ先、嫁出身地、婚姻、除籍等をそれぞれ記す。

027 北陸鮓日記 昭27

B 5 判 横書き 238頁

昭和27年10月1日から同月8日に行なった美濃、飛騨地方、北陸地方、能登地方、すなわち岐阜、富山、新潟、石川の各県下における調査の記録。題名に見えるように鮓（燕ずし、糍づけ、なれずし等）に関する聞き書きが豊富。年中行事とその食事、食生活についても記録されている。内扉に同題あり。

[目次]

1. 美濃町／郡上八幡 2. 平瀬 3. 高山 4. 下呂／萩原・古川 5. 高岡・八尾 6. 富山 7. 五百石／中加積・魚津 8. 泊／入膳 9. 新湊／出町・城端・氷見 10. 糸魚川 11. 羽咋／松百・石崎 12. 七尾／飯田・町野 13. 輪島／三井・穴水 14. 剣地／赤崎・富来 15. 金沢／小松

[内容]

美濃町／郡上八幡(10月1日)——美濃町における聞き書き：祭りとし、正月の雑煮、鮓すし、くされすし、寺、宗派。八幡(郡上八幡)における菓子屋からの聞き書き：鮓、祭、薄茶、菓子、郡上踊り、酒屋。うどん屋からの聞き書き：祭りとし、正月の雑煮、年越し、鮓、鰻、山ノ芋、わらび、火災、くり、魚屋の値段。

平瀬——郷土料理（保存食の作り方、高山、金沢、白川の場合）、鮓（鯉の糍づけ）、精進すし、鯉以外の魚、蕨すし、筍・うど等の山菜、栃、栗、イナゴ、魚の調理、漬けもの、主食、雑穀類、平瀬の産業別戸数、高山行バスの時刻表、野生動物、帰雲城趾、子供のおやつ、医者、近村の住民の健康状態、大家族制、蚕、硝石、麻、衣類の材料、包み、山神、祭り（新潟、高山の例、白川の場合、豆腐、納豆）、塩ぶり、冬のわら細工、各戸の略歴、鉾山。山田先生からの聞き書き：いろり、ドブ酒、家の手入れ、現在の家族、合掌造りの特徴。

高山——うどん屋での聞き書き：鮓。高山高校の小島先生からの聞き書き：鮓のつくり方、強めし、豆腐、魚料理、正月雑煮、精進料理、漬け物、朴葉みそ、しょうゆ、み

そ、野生動物、ワラビ粉。

下呂／萩原・古川——下呂における斐太高校生からの聞き書き：正月の鮓、雑煮、七草がゆ、祭礼、高山の高校、高山の中学・小学校、高校からの進路・就職状況。萩原における益田高校の田中先生からの聞き書き：ねずし。社会科の小原氏からの聞き書き：高山市役所の古文書、宿場、百姓の暮らし、大家族制、近世の高山、雑食。薬屋での聞き書き：すしの作り方。酒屋での聞き書き：すしの作り方。古川の八百屋での聞き書き：ねずし、保存食、正月雑煮、料理。

高岡／八尾——高岡で車中のオバハンからの聞き書き：ねずし、年越し、雑煮、七草、報恩講。八尾の宮田旅館女将からの聞き書き：鮓の作り方、雑煮、ふぶきすし、黒作り（イカ）、初午、七草、報恩講、婚姻、凶事、赤ん坊、祭りと会席料理、正月料理、報恩講の料理、法事の膳、茸、笹のいすし、ホーキの実、踊り。八尾の吉田氏からの聞き書き：製紙業（原料、製品、流通）、鮓（早鮓、鮎鮓、吹雪すし）、茸、酒、みそ、山菜、ぶり、蛸いか、鰯、鯖、野生動物、豆腐、馴れ鮓、講の料理、祭りのすし、燕づけ、山菜、川筋、鮎なれすし。

富山——車中のオッサンからの聞き書き：鯖すし、鮎すし、吹雪すし、黒づくり、防風林、果物、正月雑煮、酒。前川商店での聞き書き：鮓の作り方（鮎、鱒、鮭）、馴れ鮓、燕すし、吹雪すし、黒作り、アラマキ、粕づけ、糍づけ、北海道のすし、鮎すし、鱒。八百屋での聞き書き：豆腐、茸、魚。

五百石 中加積 魚津——金剛正宗での聞き書き：なれすし。五百石のタバコ屋での聞き書き：なれすし、正月雑煮。中加積における聞き書き：馴れ鮓。魚津における聞き書き：馴れ鮓、漁法、カマボコ。

泊／入膳——車中のバアサンからの聞き書き（泊）：馴れ鮓、交通。入膳の元軍人からの聞き書き：馴れ鮓。

新湊／出町・城端・氷見——新湊での通行人からの聞き書き：さばすし。タバコ屋での聞き書き：鯖すし、燕すし。出町の中条屋菓子店での聞き書き：燕すし、正月雑煮、祭りと食物。出町の魚屋での聞き書き：吹雪すし、燕すし。城端での聞き書き：燕すし、吹雪すし。氷見での聞き書き：ふぶきすし、燕すし、酒。

糸魚川——風俗聞き書き：酒、海岸の特徴、農家のいろいろの図、かまど、炉、主食、かゆ、食生活、小ダイ、馴れすし、押すし、祭りともち、煮しめ、神宮寺の舞楽、祭礼の様子、棧敷、冬の野菜、漬物、ぶり、雑煮、七草、ばたばた茶、茶会、婚姻、報恩講、酒。

羽咋／松百・石崎——魚屋での聞き書き（羽咋）：燕すし、鯖すし。八百屋での聞き

き：鮓のつくり方。金田酒店での聞き書き：鮓の作り方，酒。松百での聞き書き：鮓について。松百のタバコ屋での聞き書き：祭りのすし，正月雑煮。石崎での聞き書き：魚を食べる上での禁忌，鮓のつくり，漁業権，加工未発達，産業，漁業，村の祭礼とすし，正月雑煮，魚料理，魚屋，冷凍さばの商売。

七尾／飯田・町野——七尾での聞き書き：蕪すし，祭りのすし，飯田における酒屋，菓子屋，干魚亦菓子屋，漁夫。バスの中の人からの聞き書き：鮓について。町野におけるバスの中の人談：茶屋。うどん屋からの聞き書き：鮓について。

輪島／三井・穴水——輪島において：魚屋，漁夫，下駄屋。オバアチャンからの聞き書き：雑煮，鮓について。

金沢／小松——金沢の菓子屋での聞き書き：鮓。小松の魚市の女性3人，角のオバハン，酒屋のおかみからの聞き書き：蕪すし，雑煮，卵の花づけ，鯖すし，巻すし。

028 京 大阪（二）

B 5 判 横書き 206頁

昭和27～43年のあいだの主として京・大阪でのさまざまな職業の人からの聞き書きを合本したもの。

[目次]

1. 京都市内——金瓢（秋山太一郎）昭和39年4月，箸（市原商店）昭和40年11月27日，野鍛冶（亀山老）昭和40年3月，鉄扇ぶし（瀬戸憲久老）昭和39年春，鳥井小路（藤島益雄書信）昭和39年5月，三幸放談（今堀友次郎）昭和38年2月，千鳥酢（村山忠次郎）昭和39年4月，山市みそ（山口市郎）昭和39年4月，鉄仙踊り（吉村福太郎）昭和40年1月 2. 山城——大蓮寺（島利兵衛）昭和43年7月，梅谷（上村正一）昭和43年9月 3. 大阪市中——鮓（阿部直吉書信）昭和27年6月ホカ，大阪鶏卵（伊木鹿十郎）昭和40年11月，あめ（奥山製飴所）昭和40年6月，鮓（小倉英一）昭和39年8月，鮓（久保登一）昭和39年8月，千人食献立（新阪急ホテル）昭和43年9月，タクシー雑談（タクシー運転手）昭和42年1月ホカ，大阪みそ（土屋勇）昭和39年2月，吉野鮓（橋本宗一）昭和39年10月，太鼓（坂本店）昭和38年12月，もやし（樋口松之助）昭和40年12月，播字海苔ばなし（長尾卯一）昭和38年11月 4. 摂津——原家史（井上老人）昭和39年7月 5. 和泉——阿問賀瀧・葛城ばなし（植田常信）昭和37年12月，塔の原（小山先生）昭和37年12月，泉南民俗（杉野唯雄）昭和31年3月，糠杜氏について（橋本杜氏）昭和31年 6. 城陽町史抄 * 目次として地域・人・題・年月日を表にしたものがある。

[内容]

金瓢——京都の日本酒メーカー「金瓢」の秋山太一郎氏から、酒造業界の現状、日本酒の味の画一化、同社の現状などについて聞き書き。

箸——京都四条通りの「市原平兵衛箸店」で箸のさまざまなことについて聞き書きをする。市原平兵衛氏が日経新聞に執筆した「日本の箸」という記事を貼りつけてある。

野鍛冶——京都出町の鍛冶屋の亀山老を2回訪問、野鍛冶の歴史について聞く。この結果は「近畿の野鍛冶」（『風俗古今古東西』所収）としてまとめられている。

瀬戸憲久老（市原）——京都の旧市原村の瀬戸憲久老から、洛北の村々でかつて流行った鉄扇節について聞く。

藤島益雄書信——資料についての問い合わせにたいする藤島益雄氏からの葉書を貼りつける。

三幸放談（昭和38年2月21日）——河原町蛸薬師の「三幸」主人今堀友次郎氏からの聞き書き（ナンバ垂水主悦宅にて）：フグ料理について、すしについて。庖集会発会式（於宗右衛門町菱富）。海苔屋「播字」主人からの聞き書き：最近の巻き鮓。橋本（吉野）弟：上方の巻き鮓。清水（姫路）：地元の鮓。堀内（幸ずし）：コブカズノコ。播字：莫大について。

千鳥酢（昭和39年）——京都東三条の「千鳥酢」の村山忠次郎氏からの聞き書き：好い酢、尾道造酢。

山市みそ（昭和39年4月16日）——京都縄手四条の「山市」の山口市郎氏からの聞き書き：店について、労務者、味噌の味、各種味噌の製法、味噌の利用法。

鉄仙踊（昭和40年1月）——京都北白川の吉村福太郎氏から、昔の鉄仙節とその踊りや歴史について聞く。

長池（昭和43年9月4日）——大連寺の住職からの聞き書き：サツマイモの普及に関係した人物である、島利兵衛の事跡について聞き、島利兵衛供養塔台石の銘文を筆写。

木津（昭和43年9月9日）——相楽郡木津町教委教育長の上村正一氏と下梅谷駒喜多芳大郎老から、梅谷新田についての事跡と農業について聞く。宝永8年の「梅谷新田開発記」からのノートが記されている。

蛸竹（阿部直吉）書信（昭和27年6月）——阿部直吉氏（『すしの本』柴田書店に「阿部直吉老人聞き書き（抄）」がある）からの書状3通を貼る。

大阪鶏卵（昭和40年11月20日）——大阪鶏卵社の伊木鹿十郎常務からの聞き書き：鶏卵業界、市場流通、雛の産地と産卵数、鶏の寿命、卵の等級、加工卵、養鶏業について聞く。同社の「会社経歴書」のコピーが貼りつけてある。

あめ（昭和40年）——城東区西鴨野の奥山製飴所で、あめづくりについての聞き書き。

鮎万——「鮎万」主人小倉英一氏から小鯛の雀鮎について聞く：鮎ねた、鮎の改良、職人、他地方の鮎。

美登利——鮎屋「美登利」の久保登一氏から聞き書き：鮎飯の炊き方、米、防腐剤、酢。

千人食献立（昭和43年1月）——新阪急ホテルの従業員1200人分の昼食、夕食の6週間ぶんの献立のコピーを貼りつける。

タクシー運転手——4人の大阪のタクシー運転手からの聞き書き：運転手の後ろの枕と怪我、追突、スピード、運転手の後ろのガラス。「タクシー運転手」（『風俗古今東西』所収）にまとめられている。

味噌（昭和39年）——大阪西区江戸堀の「大阪味噌食品株式会社」土屋勇社長からの聞き書き：同社の歴史、大阪人の味噌にたいする嗜好、全国の名産味噌の特徴。

吉野（橋本宗一）——大阪淡路町の「吉野鮎」主人からの聞き書き：巻き鮎の原料、精進料理について聞く。

太鼓（昭和38年）——大阪市電木津勘助町前の「坂本太鼓店」での聞き書き：玩具太鼓のつくりかたなどを聞く。「太鼓屋」（『風俗古今東西』所収）にまとめられている。

もやし（昭和40年12月4日）——大阪阿部野の「桶口松之助商店」での聞き書き：製造のさいの種麴である「もやし」づくりについて。

播字（長尾卯一）——大阪の「播字」長尾社長からの聞き書き：海苔の製造、消費など、海苔に関する全般的な聞き書きをする。また、昆布、カツオ節のダシに関する話もある。

原家史（昭和39年）——高槻市原家の歴史について井上老から聞く。

阿間賀瀧（昭和37年7月18日）——岸和田市阿間賀瀧で会った岸和田税務署員からの聞き書き：岸和田市の概況、税務、織屋、食生活などを聞く。阪和線の大和川～和泉府中間の車中日記の個条書き。バスの時刻表の写し。聞き書きの続き：願泉寺。葛城ばなし（祈年祭の直会の席で）：岸和田市阿間賀瀧の雨降神社祈年祭の直会のさいに、この地方の現況や民俗について聞く。「葛城ばなし」（『風俗古今東西』所収）にまとめられている。

塔の原（昭和37年7月18日）——東葛小学校分校の小山先生からの聞き書き：葛城山近くの塔ノ原、相川の概況と小学校について聞く。

泉南民俗（昭和31年）——杉野忠雄氏が泉南地方の特殊献立について発表したものをノートしてある。

糠杜氏（昭和31年）——「堺酒造」の杜氏である橋本氏に糠〔地名〕杜氏について歴史・人数などを聞く。

城陽町史抄——京都府の「城陽町史」から江戸期の領主，木津川の浜，寺小屋，講，宿場，産土神について抜書きをしたもの。

029 播磨

B 5 判 横書き 204頁

昭和27年から昭和32年にわたる播磨での風俗の聞き書きを綴ったもの。

[目次]

1. 姫路（島の鮓） 2. 加古川（島の鮓） 3. 前之庄（昭和29年） 4. 飾磨（昭和29年）
5. 家島（昭和29年） 6. 赤穂（昭和27年） 7. 龍野・佐用・大原（昭和32年） 播磨風土記（昭和29年） 8. 高砂 9. 妻鹿 10. 飾磨 11. 前之庄 12. 神崎郡志より 13. 書写 14. 山崎 15. 道中献立

[内容]

姫路（島の鮓10月10日車中にて）——車中のオバサンより：鮓，行事食，亥の子，祭りの食事。

加古川（島の鮓10月3日車中にて）——話者不明で鮓についての聞き書き。

前之庄（昭和29年）——壺坂氏よりの聞き書き：酒及び酒造法，杜氏，土地の歴史，米，祭，すし。

飾磨（昭和29年）——藍染めについての聞き書き。

家島（昭和29年）——小島・母オヤ：婚姻圏，行事食，漁船，船大工，紺屋，おはぐろ，島の産物，雑煮と正月料理，行事，冠婚葬祭。ジイサンより：船，魚，家計，講。中上氏：島の呼称，島の歴史，海賊，産物，水，西鶴，娘宿，若衆宿，旦那寺，主食，正月及び年中行事，講，まむし除け，嫁入り。

赤穂（昭和27年7月29日～30日）——田町の石井修一氏より：方言，魚，鮓，雑煮，行事食，冠婚葬祭，花岳寺。

龍野・佐用・大原（昭和32年）——佐用高校にて：佐用姫神社，祭，鳥。大原にて：植物，土地の古豪。高田や主人（教育委員）：大原劇場，灰焼き小屋。

播磨風土記（昭和29）と書かれた別表紙がつけられて後半と分けられている。

高砂（5月1日）——小南氏：杜氏，酒，甘酒。

妻鹿（5月1日）——岩崎氏：紺屋。民谷氏：酒造法，地杜氏。

飾磨（5月1日）——女中：行事食についての聞き書き。

前之庄（5月2日）——山崎壺坂氏より：間取り，賃金，年貢，酒。神崎氏より（5月2日）：機織，八幡，紺屋。壺坂正彦氏夫人より：行事食と日蓮宗の行事食についての聞き書き。

神崎郡志より——神崎郡誌からの引き写し，行事食について。

書写（5月2日）——東坂本の山中若主人：松食い虫，書写山正門。東坂本の菓子ヤの姐さん：祭，村の現状，雑煮。東坂本村のおばあちゃんより：雑煮，祭の鮎。

山崎（5月3日）——山崎の壺坂氏：鰯・播州杜氏，醸造，酒の種類。壺坂おく様：正月料理，行事食，祭，鮎，蕨，ぜんまい。福井さん：播州流酒造法，備中・安芸，スッポン仕込。長谷川さん：地杜氏，他の杜氏。前野さん：酒造法と歴史，杜氏。山崎・前野御隠居様：正月料理，行事と行事食，祭とその食事。

道中献立——5月1日から3日までの献立。

030 島の鮎

B5判 横書き 192頁

1953年10月3日から10月15日まで，主として瀬戸内海の島々を訪ね，主として鮎，雑煮を調査した記録。三津杜氏組合刊『昭和27年度 杜氏勤務先一覧表』（B5判4頁）を合本してある。

[目次]

1. 加古川 2. 川棚 3. 尾道 4. 三の庄 5. 土生 6. 田熊 7. 弓削 8. 岩城 9. 有津
10. 木の浦 11. 余所国 12. 宮窪 13. 津倉 附／幸・仁江 14. 今治 15. 御手洗
16. 豊島 17. 久比 18. 大長 19. 竹原 20. 安芸津 21. 木之江 22. 口総 23. 宮の浦
24. 井の口 附／好味 25. 瀬戸田 26. 高根 27. 三原 28. 笠岡 29. 鴨方 30. 姫路
31. 地酒・献立 *1. 加古川から，3. 尾道と，27. 三原から，30. 姫路には矢印が付けてあり他のフィールドノートに移したと思われる。

[内容]

目次のすぐ後に対象となる地域の手描きの地図がはさみ込んである。

地酒一覧（10月3日）——目次の最後の「地酒・献立」の部分が最初に組んである。地酒22銘柄の醸造元の名前，味にたいしてのコメントが羅列してある。10月3日から10月10日までの旅行中の献立を記してある。

三ノ庄（10月3日）——呉服屋のおかみ：氏神，鮎，甘酒，餅，雑煮。海岸の百姓3人：芋の豊作，肥料。酒屋のマダム：祭，甘酒，鮎，雑煮。下駄やのオバサン：鮎，雑煮。三之庄・下駄やの小母さん：雑煮，シバ鮎。

土生（10月3日4日）——雑貨食料品店（京城の法務関係上りの人物）からの聞き

き：酒，鮓，芋菓子。呉服兼酒屋のおやじ：客筋，酒。中山氏（酒造組合理事長）：島の酒造。魚や及おばさん達：しばすし，正月，祭。定期船の時刻表。果物やのおばはん：雑煮，正月料理，祭，しばすし。

田熊（10月4日）——木村のおばさん：祭，雑煮，行事食。

下弓削（10月4日）——神社，婚姻，すし，正月，芋，寺，祭，船。下弓削・横井さん：祭，おからすし，雑煮，甘藷。柴作りのおばさん：雑煮，鮓，甘藷，衣服。

岩城（10月4日）——杜氏，酒造，祭，すし，雑煮，産物。芋菓子や（吉岡）マダム：芋菓子の作り方，祭，鮓，雑煮，正月料理，衣服。鉢巻きのおっさん：雑煮，祭，甘藷，畑。

有津（10月4日）——おっさん：祭，雑煮。おばはん：祭，雑煮，正月，甘藷。

木浦（10月4日5日）——酒屋の三人女：祭と料理，雑煮，正月料理，行事。さらさ屋おかみ：芋，祭，鮓，正月料理，名物。

余所国（10月5日）——おちぐん杜氏，酒造，大島杜氏，若い衆，祭，正月料理，氏神。

宮ノ窪（10月5日）——招婿婚，芋，漁業。切符うり場のオバサン：雑煮，正月料理，祭。

津倉／幸・仁江（10月5日）——仁江の藤田氏：祭，雑煮，亥ノ子，盆，神社。津倉・果実・野菜・下駄やのオカミ：祭の鮓，雑煮，正月料理，甘藷，衣服。お菓子やのオバサン：雑煮，鮓。

今治（10月5日）——さらさ屋おかみ：雑煮，鮓，祭。瀬戸内海汽船時間表（木浦にて）。

御手洗（10月5日）——氏神，祭，鮓，雑煮。木村屋主人：漁夫，女郎，櫓，民謡，寺，行事と行事食。木村旅館マダム：祭礼，花見，雑煮，甘藷，鰯すし，おからすし，衣服，魚。時刻表（乗り物は何かわからない。）

豊島（10月6日）——豊島の現況，神社，祭礼，行事食，鮓，正月料理。ソコラの小母さん：雑煮，祭，漁夫，韭。コワイ小母ちゃん：五目すし，雑煮，衣服。

久比（10月6日）——祭，鮓，行事食，産物。

大長（10月6日）——鮓，小船。時刻表。回送店のオバサン：衣服，手甲脚絆，鮓と祭。

竹原（10月6日）——魚屋：アヅマスシ。うどん屋のオバサン：孕み鮓，鯖鮓，雑煮。

安芸津（10月6・7日）——三津杜氏組合概況。杜氏勤務先一覧表（昭和27年度）。

三津の概況，備中杜氏，大島杜氏，九州杜氏，三津杜氏，西条・呉・尾道の酒造メーカー。半農半漁，かべり，杜氏の分布。重田氏より聞書き：西条の酒，三津の酒屋の古い記録。行友翁：三津の酒屋，杜氏，ギオン社，魚，甘酒，ハラミズシ，御輿，フク，三浦氏（醸造元の名前）。安芸津本田老人：さつま，餅（雑煮用），バラスシ，異形握り鮓，祭礼の鮓，正月，花見，蛸の厚焼き，寺，ギオン祭，アツマスシ。漁協にて：雑煮，寒餅，祭りと鮓，主食，日常の食事，年中行事，衣服。

木之江（10月7日）——高田氏より：醸造，祭り，鮓，高校。お菓子屋の小母さん：雑煮，鮓，正月料理，行事食，主食，副食。

口総（10月8日）——船まちの子供連れのごケさん：畑縞，祭り，行事食，雑煮，寺，行事，山登り，講，魚，芋。

宮の浦（10月8日）——雑貨屋オバハン等より聞書き：正月，鮓，芋。

井の口・好味（10月8日）——井の口にて：醤油雑煮，鮓，縁組，麦。好味にて子供だいたオバハン：祭りと料理，雑煮。八五才老婆：同伴・手甲，衣服，食事，シバズシ，雑煮，村の学校，薬師さん，縁組，婚礼支度，魚。

瀬戸田（10月8日）——酒屋・菓子やオカミより：祭り，鮓，正月料理，寺。時刻表。

高根（10月9日）——オバハンより：衣服，主食，芋，産物，祭り，ミカン，除虫菊，雑煮，正月料理。

031 但馬 丹後

B 5 判 横書き 116頁

昭和28年から33年にかけての但馬，丹後での風俗の聞書きを綴ったもの。

[目次]

1. 舞鶴 2. 和田山 2a. 八鹿・豊岡（昭和28年） 3. 柴山・津居山 4. 和田 5. 村岡
6. 浜坂 7. 栗野・村岡・生野 8. 和田山・八鹿・津居山・香住（昭和29年） 9. 出石（昭和33年）

[内容]

舞鶴——建物の雑感を述べている。

和田山（昭和31年）——役場にて：栗氏の人数や行き先の聞書き。

八鹿・豊岡（昭和28年）——八鹿高校生より（6月14日）：祭り，正月雑煮。豊岡日下酒店：祭り，正月，酒。

柴山・津居山（昭和31年）——柴山の漁婦：漁業，雑煮，鮓。津居山にて：赤禪，正月料理，職業分布，伝説。付近の孔版刷りの地図がはさみこんである。

美方／和田（昭和31年）——川本数蔵さんよりの聞書き：杜氏の動向，簡易水道，昔の杜氏の給金，醸造法，忤，村の歴史，史跡，織物，紺屋，衣服，講，農作物，間取り，イロリ，若衆屋，行事食，正月，縁組。

村岡（昭和31年）——川本さん：弁当の菜，炭焼。田村町長：杜氏の数，精米，醤油。

浜坂（昭和31年）——中学校での聞書き（8月24日）：川下祭り，小豆雑煮，五月五日。

栗賀・村岡・生野（昭和30年）——栗賀村副島緑のレポートが一部はさんである。村岡“江戸常”老女将より聞書き：雑煮，正月料理，行事食，鮓，講，仲人，手機。生野高校にて教頭より：川裙祭り。

但馬・和田山・八鹿・津居山・香住（昭和29年）——香住多田氏より聞書き：くさりすし，へしこ，雑煮，祭り。津居山漁夫の主婦連3人：小豆雑煮，信州，いかめし，祭り。八鹿（2月28日）オフィスガール：雑煮，糍つけ，祭り，このしろすし。和田山（2月28日）農村の老・中婆4人づれ：雑煮，祭り，行事食。日本西国百ヶ霊場兵庫県香住町大乘寺座敷図がはさんである。

出石（昭和33年）——高山貞氏より聞書き：土族。

032 川裙祭 二八(昭二九)

B5判 横書き 296頁

近江，丹波，播磨の川裙祭のフィールドノートで，各地の川裙祭についての聞書きと地方文書や目録類の写しを記している。この結果は「川裙祭」（『風俗古今東西』所収）にまとめられている。

[目次]

1. 近江／知内 2. 丹波／香良 3. 丹波／香良文書 4. 丹波／伊佐口 5. 丹波／田中
6. 丹波／成松 7. 丹波／佐治 8. 播磨／杉原谷 9. 播磨／松井庄 10. 播磨／社 11. 丹波／立杭 12. 丹波／稲畑人形（昭和29年）

[内容]

近江／知内（昭和28年）——唐崎神社の鳥居神職からの聞書き：川裙祭について，日程・料理・行事等，神社のパンフレットを添えてある。

川すそ祭／丹波（昭和28年）——“経路とニュース源”のタイトルで昭和28年7月29日から8月2日までの旅程と聞書きの相手の名前が記されている。

香良——臼井芳郎氏より：川裙祭り，講，雑煮，正月料理，年中行事。葛の村／水神・幸世・川裙祭，苗代，田植，盆，年中行事，結婚，相続，出産，争議，香良の現

況，病氣，親方子方，醸造，文学，物相めし，間食，公民館。成松田中氏より：祭り，鮓，雑煮，正月料理，年中行事，行事食，沼貫の稲畑人形，神楽，横田，食生活，蛋白質。

丹波／香良文書——（紹）芦田氏：「宗門帳」断簡，「小物成」断簡，「質入証文」，「借用証」，「香尊帳」の書き写し。安田半耕文書／大叔半耕放人自筆「蔵書目録」，「書籍収集日記」（大正元年9月より大正15年2月まで），「養子祝儀来客控」（元治式正月），「婚礼到来品兼入費録（明治二十一年旧二月）」，「嫁入ニ付到来兼入費扣（明治二十三年旧十二月）」，長帳（初帰り）の他長帳類から献立に注目して書き写してある。

伊佐口——伊佐口：川すそ祭り，猪の子，トンド，年中行事，祭り，丹波木綿，囲炉裡。

田中——安田栗郷氏より聞書き：安田半耕蔵書。安田村長：立杭焼。

成松——小川神職より：供物の図解，川裙祭，厄落し，古文書。

佐治——酒の銘柄。つばめやの主人からの聞書き：猪の子，川裙祭，年中行事，行事食。

杉原谷——藤賀与一氏からの聞書き：検地帳，川裙祭，雑煮，年中行事，行事食，若い衆，講，囲炉裡。宇高弥三助氏（三谷）より：和紙，農家，川裙祭，山，田まつり，鳥獣，祭り，雑煮，地神，先祖講，7日盆。永井万次氏より：若い衆，古文書，地神，山之神，祭り，お頭，トンド，川裙さん。

松井庄——バスのおばさんから：川裙祭，祭りの料理。

社——肥田文主人よりの聞書き：雑煮，とんど，年中行事，行事食，猪の子，出産，講，川裙祭，庄屋。

上立杭——清水寅市氏からの聞書き：焼物，地神，祭り，すし，年中行事，山の神，正月，雑煮，講，墓。

味間——神社，すし，天道花，川裙祭。

033 湖北色盲調査—加田，息長，米原—

B5判 横書き 228頁

昭和28年頃，滋賀県の琵琶湖東岸地域を対象に色神異常の調査をおこなったさいの記録である。その結果は，「色盲の多い村の生態」（『滋賀県立短大雑誌 B3号』1954所収）および「色神異常」（『風俗古今東西』所収）にまとめられている。先天の色神異常の遺伝を調べるためであろう，戸籍関係の写し書きがおおい。

[目次]

1. 加田——加田・一般，聞書き茂森太四郎，聞書き加田老，聞書き中川・阪東・長尾，宗門帳文政12年 2. 息長——色盲例，関係戸籍 3. 米原・朝妻筑摩・多良——関係戸籍 4. 彦根——佐和山小 色盲例

[内容]

一般——長浜市加田の小学校において児童の既応症，色紙の識別テスト結果，保健関係について調査した記録。

聞書き茂森太四郎——茂森太四郎マダムからの聞書き：衣服，手織，麻。茂森新五郎氏（80才）より：麻，魚，ふなすし，いせ講，雨乞，祭り，神社，婚姻，正月，年中行事，若い衆，日常の食生活，講，神社，縁組，年中行事と食事，元服，若者宿，「明治34年香儀受納帳」，「大正12年香儀受納帳」，「大正12年病氣見舞」の写し。

聞書き加田老——加田老人からの聞書き：社寺，雨乞踊り，地藏盆，年中行事と食べ物，講，出産，宮参り，縁組，結婚，葬式，厄年，野神，虫送り，主食，女の仕事着，水。

聞書き中川喜一・阪東夫人・長尾巡査——中川喜一：ビロード。阪東夫人：地藏。駐在所長尾巡査：治安。

文政12年宗門帳下書き——「坂田郡加田村文政12年宗門御改下帳」の写し。

色盲例——色神異常の7家系に関するノート。

関係戸籍——色神異常者の家系を戸籍から調べた記録。

小中学校色盲現状——近江町息長の小中学校での色盲例を記す。

関係戸籍——色神異常者の家系を戸籍から調べた記録。

米原・朝妻筑摩・多良／関係戸籍——これらの地方における色神異常者の家系を戸籍から調べた記録。

034 [色盲調査 基礎資料]

B 4 判 横書き 未製本

年代不明（昭和28年ごろと推察される）。「033 湖北色盲調査 加田・息長・米原」に関連した調査資料を書類袋にまとめてある。家系及び家族構成，食事まで含めた調査で，地域は滋賀県下湖北・湖東地域のもの。

[内容]

B 4 判用紙に孔版印刷で表をつくり，氏名，職業，食事内容を調べたもの，無野用紙に家系図を聞書きしたもの，調査集計を書いたものなどがふくまれている。

035 中野死亡届

B 5 版 横書き 231頁 未製本

表紙に、「中野村[滋賀県八日市市] 死亡者綴 明治29年1月より昭和27年11月30日まで 註昭和8年一書類なし 明治31年一順序混乱」と書かれている。

[目次] なし

[内容]

明治29年より昭和27年までの、中野村の死亡者名・性別・死因・死亡年月日・生年月日・職業が書かれている。結婚に関するレポートが一部一緒に収められている。スクラップブックの形態ではなく袋につめられている。

036 志摩 昭二八

B 5 判 横書き 320頁

昭和28年夏、大阪学芸大学家政科研究室のスタッフが志摩の片田村を中心に、海女の生活実態調査をおこなったさいの記録である。7月に下調査に行き、8月に本調査がなされたものである。この調査結果の一部は「小豆雑煮—志摩国海女民俗断片」（『増訂 米の文化史』所収）として発表されている。

[目次]

1. 片田 2. 布施田／和具 3. 船越 4. 片田／下調査 5. 片田／タテガキ 6. 片田／民俗志

[内容]

片田——浜野佐太雄氏より聞書き(昭和31年9月5日)：真珠養殖。浜野夫人：稚貝、貝の選別、伊勢神宮寺社の配置図、オタイ、宗旨送り文書の抄録、紙ひなの折り方図、壁土の塗り方。片田村長田中氏の聞書き：漁網、海女の収入、アメリカ移民、真珠業者、海女の死因。奥野漁業組合長聞書き：風の名称、三蔵寺の大般若経と豊漁祈願、若者組の赤禪。大里の老婆の話：磯人の祭る神の種類、浜遊び、浜施餓鬼。田んぼで老人と海女に聞いたもの：海女の作業、食生活、芋、麦飯、コフゴ、海女の収入、天王祭、鮓の種類。浜口氏他海女から：海女、のみ、粥、食事、大磯人、嫁入り道具。吉田工場長より：ピンクパール、Caの影響。

片田文書——「物産表片田村」、「検地帳（慶長8年4月26日）」、「おみさ出入控帳（万延1年2月）」の写し。

布施田／和具——薬師、大念仏。

船越——北村先生・山深氏・中村村長より聞書き：地域の現況、婚期、冠婚葬祭、

寿司、雑煮、正月、磯祭り、講、年中行事、厄年、大念仏、春夏秋冬。大田・伊藤マダムより：手こね、節句、雑煮、大念仏。周辺で気付いたものをスケッチ。

片田7月下調査——山の木、風、講、みそ、村の予算。

志摩民俗志——村の概況、結婚、雑煮、鮓等のアンケート30枚がはさんである

下調査プリント——「志摩国片田村の下調べ」というタイトルのゲラ刷りがはさんである。

037 広島・山口

B5判 横書き 115頁

昭和28年から36年までのあいだに広島県、山口県での各地でおこなった聞き書きを集めたもの。

[目次]

1. 松永（昭和34年） 2. 尾道（島の鮓、昭和36年） 3. 三原（島の鮓） 4. 市（昭和28年） 5. 落合、下和知、十日町車中（昭和28年）[十日町は十日市のあやまり] 6. 三次（昭和28年） 7. 吉田（昭和34年） 8. 大朝（昭和30年） 9. 萩（昭和36年） 10. 佐々並（昭和36年） 11. 柳井津（昭和36年） 12. 佐々並道中献立 13. 玖珂（昭和28年） 14. 川棚（島の鮓） 奈古

[内容]

松永——下駄づくり、鮓。

尾道——鮓。

三原——鮓、酒造関係。

市——年中行事と行事食、鮓、妊娠・出産の食物禁忌、講。

落合、下和知、十日市——年中行事と行事食、キノコ、酒。

三次——酒造関係。

吉田——年中行事と行事食、酒造関係。

大朝——年中行事と行事食。

萩——スダレ製造販売。

佐々並——酒造関係。

柳井津——阿月風俗、尾道の造酢。

佐々並道中献立——昭和36年11月19日から22日までのおん。

玖珂——鮓、泊った旅館での献立。

川棚——鮓、年中行事と行事食。

038 豊能郡

B 5 判 横書き 208頁 A 5 判 縦書き 6 頁

内扉に「豊能」と記されている。昭和29～37年に大阪府下，旧豊能郡各地域でおこなわれた聞き取り調査および文書調査の記録。

[目次]

1. 豊中／山片文書 2. 麻田／旧藩事情 3. 池田／酒 4. 池田／林田文書 5. 土々呂美 6. 歌垣 7. 大里 8. 宿野 9. 能勢 10. 稲地／酒 11. 能勢／津田文書 12. 吉野・杉原

[内容]

豊中／山片文書——A 5 判 6 頁分に仙台藩の「御家中席順」，「御分領中郡名」を記す。「山片重芳 旅譚」（有坂隆道氏により昭和40年『史泉』第30号にて「升屋平右衛門山片重芳の寛政七年仙台下向日記」として翻刻・紹介されている）の抄録。仙台藩藩士等44人の氏名を列挙する。「山片重芳 旅譚」三月朔（寛政7年）条の写し。「天保6年起誓文」（手代の衣服に関する内容をもつ）の写し。

麻田／旧藩事情——昭和32年調査 藩主青木家子孫についての聞き書き。豊中郷土史学会（3月16日）・ノート：明治期の豊中のこと，青木家・藩旗・小学校の紋を記す。武家屋敷の間取り図16戸分。

池田／酒——吉田芳夫氏談（昭和32年秋）：古い酒屋，地室，朝あげ，半仕舞，シコミ，スクミドリ。西田倉之助氏談（昭和34年1月）：摂津の造酒屋，杜氏（備中・美方・越後），杜氏の条件，道具，麴。岸上氏老母談（昭和34年1月）：近在の家々の事情。造酒屋と酒の銘柄あるいは醸造規模をあらわすと思われる数字を過去の記録にさかのぼって列挙する（年不明，大正8，明和8，天保3，天保年間，元禄10年）。北村系図。

池田／林田文書——昭和37年5月調査，林田家についての聞き書き。「明治二年巳四月九日 祝儀帳」の写し（先代出生のコメントあり）。「明治六年林田松三郎出生につき祝儀帳」，「明治廿六年騎兵之徴記支人被贐」（林田松三郎徴兵に付き，贈物覚え），「明治29年婚姻賀儀到来記」（乾 静子結婚につき贈物覚え），「明治31年林田木一誕生につき祝儀帳」，「明治33年林田明三出生につき祝儀帳」，「明治43年再婚につき祝儀帳」，「明治10年納家上棟祝記帳」，「明治13年出店出火見舞納帳」，「明治43年結婚式につき床銘・膳部品目書上げ」（南新町都楼より林田家あて），「明治15年林田安平法事につき献立覚書」及び「香資覚え」，「櫛到来記」（明治31年林田木一死去につき），

「榊料到来記」(明治33年林田家嫁乾静子死去につき)以上の写し。

土々呂美——久保夫妻談(昭和37年7月):年中行事と行事食,ビワ栽培,みそ,炊事,土々呂美神社祭礼,秋祭の鯖すし・餅,伊勢講,観音講,愛宕講,出産,結婚,葬式,寺,公民館。石屋からの聞書き(昭和37年7月):豊中の石屋,石碑,材料石。

歌垣——子安寛一氏談(昭和29年2月):酒造,杜氏(垂水他),奥能勢の蔵,糠杜氏,広島杜氏,甘酒酛,室,酒粕,近在の酒屋,天秤棒,男柱,桶,本念寺,株,株の集まり(墓参りと正月),葬式(宗旨講),神主,事始め,杜氏の給料(明治29~34年頃)。

大里——昭和29年1月調査 大里:正月行事と食物,正月飾り,トンド,歳徳さん,野神さん,柴上げ祭り,粥占,伊勢講,さいの頭,達磨忌。幸世村:柳箸,しめかざり。山田村:しめかざり,雑煮の箸。

宿野——昭和29年調査 森上日向屋での聞書き:嫁入り(話者の経験)。2月10日夜の献立。津田氏談:部屋の名称,間取図,家の各部,国崎銅山,和紙。略地図。文政十一年五人組帳の一部写し。文政十三年宗門帳より宗派別の檀家数(男女別)を控える。聞書き:手織,株,八幡祭,屋敷神,村の概況(家数,人口等記すが,いつの統計か不明)。

能勢——森本氏談(昭和31年5月):西能勢山辺の大師講について(献立,酒宴作法,頭わたし,講の由来),観音講。

稲地,酒——「大正五年度酒類製造帳」(酒類製造主田和市作の名あり),「大正五年度酒類蔵出・割水・売上帳」(同田和市作の名あり),「大正六年度酒類製造帳」,「蔵出・割水・売上帳」,「大正七年酒造年度酒類製造受検簿・蔵出・割水・売揚帳」,「大正八年度受検簿・蔵出・売上帳」,「大正九年度受検簿・蔵出・売上簿」,「大正十年度受検簿」の写し。

津田文書(能勢)——「嘉永四年酒造明細書上帳」(能勢郡山田村酒造人三右衛門より高槻御役所あて),「酒造及び桶新調等について酒造人三右衛門の願書」4通(嘉永5年3通,嘉永6年1通),書状(養子に関する内容)の一部,「明治2年能勢郡山田村役人より同郡野間村役人あて引合書」,「能勢郡宿野村願書」,「安政二年能勢郡垂水村酒造人三郎右衛門願書」,「嘉永五年能勢郡吉野村酒造人三右衛門願書」,「天保八年去申酒造取調御出役様入用割賦」の写し。

吉野・杉原——子安貫一氏談(昭和34年5月):近在の医者・酒造家事情,酒(銘柄と味についてのコメント),株,株の墓,神主,子安家由緒,親戚筋の家々のこ

と、釈迦堂由緒，年中行事（天道花，山の神，トシフリ），伊勢講，御日待，妙見講，愛宕講，十二日講，鯖ずし，八幡放生会，婚礼，水田，裏作，麦，酒造米，酒男，五斗酹。妙花寺での聞書き（昭和34年2月）：関西身延，真如寺，清普寺，安穩寺，少林寺，湧泉寺，妙法寺。命尾氏談：家の由緒，地元の様子，釈迦堂，多い姓，歌垣神社，牛の神さん，人物評。杉原での聞書き（昭和34年2月）：仏称寺，戸数，薪炭，庄屋，雑煮，粽，亥の子，報恩講，永代経，彼岸，天神さん，祭の御馳走（鯖ずし，巻ずし，おこわ，餅），山ノ神，牛の神さん。

039 歌垣 子安文書 2冊ノ1—紅事

B5判 横書き 248頁

摂津歌垣の子安家にかかわる祝い事（結婚，婚礼，出産，還暦など）の文書を写したものの。病気の際の見舞控を写したメモと思われるものがはさまれている。年代は不明であるが，「038豊能郡 6.歌垣」の内容と一致するのでその項の調査と判断して次のノートとともにこの順番に並べた。

〔目次〕

祝儀 1.天保 2.弘化，嘉永 3.安政，万延，元治，慶応 4.明治 5.大正，昭和
6.年次不明 7.メモ記入分

〔内容〕

天保——「丁天保八歳 隠居門棟上祝儀物受納帳 酉 四月 廿九日 子安三右エ門」
写し，「天保4已12月21日 祝儀請控帳 子安しず」，「丁天保8歳 吉野村隠居門棟
上祝儀物受納帳 酉 4月29日 子安三右エ門」，「天保12年 祝儀受納帳 丑2月吉日
子安三右エ門」，「天保11年 安産祝受納覚帳 子3月25日生富士栄」，「上己雛受納」。

弘化，嘉永——「弘化2年 安産祝請納控帳 乙巳2月21日出生 子安小喜久」，
「嘉永元年 お信祝儀受納帳 并出産物扣置 4月23日」，「嘉永二乙酉年隠宅之階土
蔵，普請上棟祝儀，諸式扣 五月十六日主 子安三右エ門頼義代」，「嘉永3年安産祝
納帳 庚戌2月4日未ノ上刻出生ス子安浜五郎事」，「嘉永5年子閏2月6日押方 門
棟上祝儀受納扣帳 類」，「嘉永5年 寿枝祝儀儀受納帳」，「嘉永6癸丑年 安産祝請
納帳 12月3日卯ノ上刻出生ス寿津」。

安政，万延，元治，慶応——「安政2乙卯年 安産祝請納帳 6月5日午ノ上刻出
生ス 子安三次郎」，「安政4巳年 酒蔵建替上棟祝儀受納帳 子安頼義」，「安政6年
祝儀受納 未3月吉祥 子」，「庚万延元歳 安産祝請納帳 申九月八日辰ノ上刻出生
子安寿満」，「元治元 甲子年 東門上棟祝儀受納帳 九月7日子安氏」，「元治2年

安産祝納帳 丑2月5日 卯ノ上刻出生ス 佐太郎」,「慶応3歳 祝儀請納帳 卯4月27日」この文書は、「別の家のものらし」と但書が記されている。

明治——「已明次2年 安福出生 平産祝儀請納帳 巳五月十三日辰ノ刻出生」,「明治3年 土蔵棟上祝儀帳 午3月10日」,「明治7年1月吉日 祝賀六十一子安頼義 甲戌」,「明治8年 子安三右ヱ門 身延参詣見舞受納帳発足 亥四月廿五日」,「明治8亥年旧10月17日 安産祝儀帳 朝五ッ時誕生 子安義重」,「明治10年丑1月12日 買物帳 義重養子遣ニ附」,「明治10年丑旧11月15日 御祝儀受納 子安義重」,「明治11年旧3月16日 安産祝儀受納帳 已上刻出産 子安寿栄」,「明治15年旧4月8日朝誕生 安産御祝儀請帳 子安房乃」,「明治22年 祝儀受納扣 4月吉祥日 子安朝枝」,「明治22年旧11月11日吉辰ニ付 能多氏お祥嫁入ニ付祝ひ受納帳」,「明治22年旧12月9日誕生 安産祝記簿 子安艶女」,「明治24年旧9月3日甲子,日辰上刻生ル 安産祝請納記帳子安はる江」,「明治26年 乙丑日辰上刻生 安産御祝儀受納帳 己旧10月17日 子安頼義」,「明治28年3月吉日祝賀61子安三右ヱ門」,「明治31年12月22日午前1時出生 安産祝儀受帳 子安貫一」,「明治33年5月吉日 還曆内祝覚帳 子安フジ江」,「明治35年4月出生 安産祝儀受帳 子安ハヤ」。

大正・昭和——「大正9年4月16日 井村トミヲ迎へ 婚礼祝儀受帳」,「大正11年7月13日午後6時出生安産祝儀受帳 子安仁子」,「大正12年7月27日吉日 診察室上棟式祝儀受帖」,「昭和3年5月26日 貫一結婚祝受帳」,「昭和4年4月6日安産祝儀帳 子安春野」,「明治29丙申ノ年ハ同一日午後八時出生 安産祝儀受納帳 子安シカノ」,「昭和5年9月26日午後 寿郎安産祝受帳」,「昭和8年5月4日午前1時10分誕生 寿美子安産祝受帳 子安寿美子」,「昭和10年11月12日午後5時50分誕生 貴美子安産祝受帳 子安貴美子」。

年次不明——「還曆祝受帳 子安朝野 明治末ノモノ」,「3月25日 出産祝受納帳 子安礼子 大正11.7生レ 仁子の妹ナラン」,「御婚礼献立 頼義の折のものならん」,「伊勢まいりみやげもの覚帳」。

メモ記入分——「本守院清色鳳麟日出居士遺物覚」「同香奠帳」いずれも天保11年のもの,「鳳龍院顕真日如居士入用控」「同香奠帳」いずれも文政5年のもの,「大正10病 佐太郎」,「明治29 病(中風)三右ヱ門」,「明治20 病 頼義」,「明治22病 頼義」,「明治20 病 頼豪」,「明11 病」,「明治3 病 お丈」,「明治1 歌枝病」,「慶応2 病 八郎助」,「嘉永4 病 菊次郎」,「嘉永1 三右ヱ門 病」,「弘化4 痘 藤松,小喜久」,「弘化4 病 静」いずれも食品名と数を記す。おそらく見舞品の覚えを写したものであろう。

040 歌垣 子安文書 二冊ノ二 白事

B5判 横書き 164頁

摂津の歌垣の子安氏関係の病気見舞・葬式に関する文書の写しを合本したもの。歌垣周辺の自筆地図1枚がはさまれている。

[目次]

1. 病気見舞 2. 凶事／幕末 3. 凶事／明治 4. 凶事／大正・昭和

[内容]

病気見舞——「弘化4丁末年 静病気見舞請帳 十月 子安氏」,「弘化4丁未 庖瘡見舞受納帳并湯かけヲ扣」,「嘉永1年 病気見舞扣 申六月日 子安三右ヱ門」,「嘉永4亥8月19日 家之節見舞諸納帳 子安菊次郎」以上はいずれも見舞品としての食物とそれを持参した人の氏名を記したものである。「嘉永4亥8月19日薬之覚」,本文書は薬と医師の覚え書である。「慶応2年寅3月 御見舞受納覚帳 子安八郎助」,「明治元辰年 歌枝病気見舞品物留 十一月」,「明治3年4月 庖瘡見舞受納帳 子安丈」,「明治11年 病気ニ付見舞物受納帳」,「明治二十年七月頃ヨリ 病気見舞品其外恵贈品記 子安頼義」,「明治29丙申年9月 病気ニ付見舞受記 子安三右ヱ門」,「大正10年12月8日 子安佐太郎病気見舞受帳」以上は病気見舞の食品と持参した人を記したものである。

凶事／幕末——「文政5年 子安大三郎 鳳龍院顕真日如居士香奠帳 午5月22日」香奠品目とその数の控え,次に「忌中見舞」をも記す。「文政5年 鳳龍院顕真日如居士葬式 諸入用覚帳 午ノ5月22日 子安大三郎」京都,亀山での買物の覚え書,品目(食品が主),値段を記す。「天保11年 子安藤枝 本守院清邑鳳麟日山山居士香奠帳」米,赤飯,牛房などの食物を香奠,忌中見舞の別にその数を記したもの。なお,さらに「本守院様 遺物覚」を付す。「天保12年丑12月14日御命日 本守院様一周忌法事施行 香料料理物并盛物献立 子安三右ヱ門」内容の要約を記す。「天保13寅9月4日ニ取越改相勤メ候 本守院様三回忌法事施行 香料料理物請納盛物遣シ料理献立 子安三右ヱ門」請物の品目,9月4日献立,「本守院様法事施行7回忌弘化3年4月14日取越改相勤候香料・料理物請納并盛物遣ス,料理献立,客人名前記シ置頼義代」請物の品目,買物の覚を記す。「弘化4才 行年30才俗名静女 鷺峯院妙唱日禮大姉香奠帳 未11月24日 同26日葬式 子安三右ヱ門」退夜までと忌中見舞の香奠品目,寺への布施,買物覚,初七日香料,三七日香料,遺物を記す。以後,初盆,1周忌,3回忌,7回忌,13回忌,7回忌(17回忌の誤り),25回忌,50回忌の請物の品目,献立を記す。「文久3年 行歳4才 俗名寺満 智勇妙勝童女 亥6月18日同

19日葬式 香奠帳」忌中見舞の品目、葬式献立、一七日献立、買物覚、初盆の請物品目、三回忌、7回忌、13回忌、17周忌、25回忌、33回忌それぞれ献立表、供物覚など。「天保12丑6月3日 50年忌4月13日相勤 真性院宗利日解信士 寛政4壬子年 死去」供物、買物覚を記す。

凶事／明治——「明治7戊年 蓮乗妙空嬰子俗名ゆきへ行年3歳 陽暦8月8日子安三郎ヱ門」請物品目、初盆請物品目、一周忌布施、7回忌供物、他の法事覚、「明治9年陽暦12月6日 香奠帳 冬屋妙香大姉 俗名鵜飼おへと」葬式、忌中、五七日の請物の表、葬式買物覚、五七日買物覚、川施餓鬼、七七日・一周忌・三周忌布施、初盆買物覚、「明治11年7月29日 香料帳 蓮浄秀寛居士俗名鵜飼兼寛」葬式、忌中の布施表、「明治11歳 天勇院妙照日喜大姉 俗名子安宇多枝 寅11月7日式」葬式・忌中の香奠・布施表、拂方覚、葬式献立、一七日・五七日・百ケ日献立、葬式・一七日・五七日買物覚、遺物覚、百ケ日買物、供物、初盆・1周忌・3周忌、一周忌献立、「明治35寅年11月20日 天真院妙観日照大姉 俗名子安フジエ」庄内香奠記、他所香料、33回忌香奠控、他所香奠受納帳、「明治37年 仮香奠受納帳 真諦院 5月13日 俗名子安三右ヱ門」他に他所香料、3周年、25回忌の香料覚、他所忌中、「39年9月 香奠仮記入帳 俗名子安濱五郎」他に待夜の請物、待夜講中外手伝人の献立、入費記など。

凶事／大正・昭和——「大正12年12月 累徳院 俗名子安佐太郎 香奠帳」支拂先控、他所香料記、「大正10年12月 累徳院忌中見舞帳 俗名子安佐太郎」35日法会客、献立、布施、葬式当日献立、「大正11年8月盆 累徳院初施餓鬼供物受帳」、「昭和2年12月7日法事献立」、他に供物覚、「大正11年12月7日 累徳院1周忌香料受帳」献立、布施を記す。「昭和8年10月19日取越 累徳院13回忌法要香料受帖」、「昭和12年10月5日 法要香奠受帖」、「昭和8年3月23日卒 智信円乗孩子香奠受帳 俗名子安信彦」他に買物覚、35日供物、「昭和22年4月2日 温良院35日忌一周忌供物受帳」。

041 岡山

B5判 横書き 148頁

内扉には「山陽道（岡山）」と記されている。昭和28, 29, 34, 35, 36年に岡山県下および兵庫県の一部でおこなった調査の記録、ほかに「玉島・瀧沢文書」（A5判）を合本したもの。

〔目次〕

1. 勝間田 2. 月田（昭和36年）・落合（昭和34年） 3. 司真 4. 撫川 5. 高梁 6. 刑部（昭和36年） 7. 広瀬（昭和35年） 8. 唐松（昭和35年） 9. 高梁・成羽・地頭方・

本郷（昭和29年） 10. 玉島・乙島（昭和28年） 11. 玉島・瀧沢文書（昭和28年）・家計 12. 笠岡（島の鮓） 13. 鴨方（島の鮓） 14. 金光・鴨方

〔内容〕

勝間田——昭和32年に府立病院〔京都府立医大附属病院〕で岡山県英田郡（もと勝間田郡）出身者からの聞書き：正月雑煮，3月節句の食物。

月田——昭和36年の酒造関係を主とした聞書き：月田の歴史，酒造業者，水車，酒造技術と道具，明治・大正の酒づくり，鮓屋，山林，木地屋。

落合——昭和34年におこなった，おそらく学芸大学生からの聞書き：サバズシ，雑煮，正月の食事。

司真——現在熊山町に合併されている旧司真村の菓子屋のオバサンから聞いた年中行事の食事。

撫川——撫川領主戸川家の歴史，武家屋敷，武士の長屋の間取図2，社寺。

高梁——武士の住居間取り図3。武士の住居での聞書き：ウナギ，そば。

刑部——昭和36年に聞いたこの造酒屋の話のメモである。

広瀬——昭和35年の聞書き：年中行事と食事，出生に関する行事，仲人，庄屋，鮓。

唐松——昭和35年の聞書き：年中行事と食事，社寺，祭りのドブコックづくり。

高梁・成羽・地頭方・本郷——昭和25年に伯備線で旅行したさい列車のなかやバスで会った人々からの聞書き：高梁の雑煮，サバズシ，祭りの食事。成羽の雑煮，祭りの食事，卯の花すし。地頭の雑煮，すし，祭り，墓，社寺，青年の仕事，山中鹿之助の墓，米作，甘酒。本郷の祭りの食事，サバズシ，甘酒，五目すし，正月の食事，ちまき，3月の節句の重詰，4月8日の甘茶と天道花。

玉島・乙島——昭和28年の聞書き：ママカリすし，五目すし，オミソロ，粥，雑煮，山の神の祭り，正月の食事，若い衆の赤フンドシ，樵の習俗，天道花，月経小屋，備中杜氏，年中行事と食事，社寺，講，手機，正月15日のワラ馬，常食，換金作物の変遷，船乗り，魚売り，下人，株，「良寛さん」と題する孔版印刷のチラシ1枚（良寛は玉島の円通寺に20年居た），杜氏の聞書き，備中杜氏出稼先及び人数表1枚，備中酒造業者所在地と銘柄などを記した表1枚。

玉島・瀧沢文書（A5判）——「弘化2年大阪行諸入用控」，「弘化2年日記帳」，「弘化2年万覚帳」，「弘化2年諸入用控帳」，「弘化3年金銀出入帳」等の写し，以上は守屋勝太郎なる人物が京大阪へ旅行したときの記録である。

笠岡——備中杜氏の歴史や出稼先きなどに関する聞書き：年中行事と食事，通婚，女性の衣服の変遷，ヤレボウ行事。

鴨方——汽車のなかでオバサンから：年中行事の食事，すし，祭り。

金光・鴨方——山陽線の車中で：金光と鴨方の年中行事の食事。

042 玉島 宗門帳

B 5 判 横書き 138頁

備中国浅口郡乙嶋村の寛永から明治にわたる宗門改帳，人別送りなどの文書を写したものの。製作年度は不明であるが，地域が「041 岡山」と同一地域であるのでこの順番に並べた。

[目次]

1. 寛永廿年以降浅口郡之内乙嶋村家付人付帳 牛共々 其一 2. 寛永廿年乙嶋村家付人付牛共々 未ノ十二月二日 3. 寛永一明治年別集計 4. 正徳5年備中国浅口郡乙嶋村宗旨御改帳 未三月 5. 戸籍 6. 乙嶋村家付人付帳・宗門帳目録 7. 人別送り

[内容]

寛永廿年以降浅口郡之内乙嶋村家付人付帳牛共々其一——寛永20年から慶応4年にわたる乙嶋村の世帯数，男女人口，一世帯平均人数，職別人数，婚姻の月の表など。

寛永廿年乙嶋村家付人付牛共々 未ノ十二月二日——各家族の人数，氏名，年齢，家の間数，持牛の数を記す。

寛永～明治年別集計——乙嶋村における人付家付帳より家数，室数，人数，牛数の合計を記したもの。年次は正保2～4年，慶安1，2，4，5年，承応2～4年，明暦2，3年，文治2～4年，寛文2～12年，延宝3，4，8，9年，天和2年，貞享2年，元禄7年のものがある。（記載順）（その次には，同じく乙嶋村の家付人付帳があるが，これは頁全面に×印をして消している。）そしてその後「備中国浅口郡乙嶋村宗旨御改帳」の正徳5年のものがあり，ついで元禄7年の家人付帳，そしてまた弘化8年の宗門帳を記す，以後再び家付人付帳を記す。年次は文政3，11～13年，天保3，4，天保6年～明治3年まで，途中「安政3年の寺々」の表あり。

正徳5年備中国浅口郡乙嶋村宗旨御改帳 未三月——持高の有無，氏名，年齢，檀那寺院を記す。

戸籍——生年月日，氏名，年齢，職業を記す。明治5年。

乙嶋村家付人付帳・宗門帳目録——延宝4年の人付家付帳，正徳5年～明治3年にわたる宗門帳の編年目録，元治元年・文政13年宗門帳。

人別送り——出稼先の地名と年次を記したもの。末尾に地名ごとに件数を整理する。

043 土佐日記 上 昭29

B 5 判 横書き 102頁

昭和29年7月22日から8月1日までの四国旅行のさいの記録。「土佐日記 上」には7月21日から26日までのものをおさめる。

[内容]

7月22日——阿波那賀郡における行食事、鮓、酒、食生活一般、年中行事、結婚、漁業について。平谷（上那賀町）における行食事、鮓、餅、年中行事、住居、山仕事について。

7月23日——日和佐における年中行事、ソロバン玉製造、衣服、漁業について。甲浦における年中行事。

7月24日——佐喜浜（高知県）における年中行事、行食事、鮓、衣服。室戸崎灯台職員からの聞き書き：奈半利の年中行事と行食事、鮓、結婚、住居。

7月25日——安芸（高知県）での密造酒、鮓、魚飯、漁業。赤岡での酒造業、鮓。

7月26日——高知（市）での酒造についての聞き書き。

044 土佐日記 下 昭29

B 5 判 横書き 135頁

7月26日から8月1日までのものをおさめる。

[内容]

7月26日——田井（高知県）での講、農業、結婚、年中行事と行食事。長沢での青年団、焼畑、密造酒、鮓、年中行事と行食事。

7月27日——日比原（高知県）の雑煮と鮓。

7月28日——宇佐（高知県）での年中行事と行食事、皿鉢料理、高やづけ。須崎（高知県）の変遷。

7月29日——松葉川（村）での幣、ドブロク、年中行事と行食事、祭り、鮓、結婚、妊娠中の食物禁忌、酢。入野（松原）での年中行事と行食事、主食、味噌、結婚。

7月30日——中村（高知県）での酒造法。

7月31日——岩松（愛媛県）の鮓、雑煮。

8月1日——伊方（愛媛県）での地誌、年中行事と行食事、雑煮、鮓。

045 石見路 昭二九

B 5 判 横書き 128頁

日程等の月日は不詳であるが、石見旅行の時の風俗の聞き取り帳で地域別に綴じら

れている。

[内容]

美作勝山・備中新見——津山 Bus 網，勝山新村の老婆，今出屋老女，三浦藩主，勝山 Bus，新見高校の聞書き。

大田・大森——大田発の石見交通バス網，朝日屋主人，朝日屋女中かヨメさん等からの聞書きと役場での調査メモ。

浜田・三隅・津田——浜田 Bus，三隅，浜田のおかずの品名。三隅，津田での聞書き。

津和野——望月幸雄氏からの聞書き，古文書から。

046 瀧畑 I 一般，関屋，平井谷

B 5 判 横書き 150頁

昭和29年，当時主宰していた大阪学芸大学家政科研究室のスタッフ，学生約30名を引率して，現在の河内長野市瀧畑の調査をおこなったさいの記録。この調査の結果は『大阪学芸大学紀要』第3号昭和30年，『生活文化』第4冊に収録されている。5月と8月における聞書きのそれぞれ2篇と，文書別にわけた3篇を合本してある。

[目次]

1. 瀧畑（5月28日） 2. 瀧畑／8月聞取 3. 関屋その他 4. 平井谷 5. 宗門帳

[内容]

瀧畑（5月28日）——地区の概要，年中行事。

瀧畑／8月聞取り——河浦校長：地区の概要，生業一般，農作物，女の内職，方言，機織。辻之上教官：衣服，林業，婚姻，イロリ，教育。橋向こうのオヂサン：萱場と屋根ふき。西ノ村の山手のアンチャン：椎茸，炭。西ノ村のオバサン：葬式。西ノ村配給所ダイサン：葬式，養蚕，主食，相続，発電所，炭焼き。坂谷通夫氏・梶谷亀次氏より聞書き：寺，鐘，カクレゴ，方言。三浦玄良氏より：モンベ，揚梅，住居。西ノ村森下力松氏より：家計，聞取り図，婚姻。

関屋その他——「寛政十年戊辰九月吉日 山株附年貢盛分ヶ帳」，「宗旨送り文書 文久3年」，「元禄12年瀧畑検地帳」。

平井谷——妻君の談話：先祖，雑煮。「井谷家系図（寛政8年まで）」，「分銅員数帳（文政2，14年）」，「炭焼関係文書（文政9年）」，「訴状」，「大工取引続に関する文書（文政9年）」，「分配勘定目録（天明9年）」，「茶畑 梯木井山御年貢帳（寛文8年）」，「威鉄砲御改帳（文化14年）」，「年貢減免状（文政元年）」，「無宿人をおくまったことにつき村役人に提出した始末書（文政6年）」，「行倒人に関する始末書（享和3年）」以上の写し。

宗門帳——文化5～11, 13年, 文政2～11年, 弘化5年のものの写し。「人別送文書（寛政, 文化, 文政, 享和年間のもの）」写し。

047 瀧畑Ⅱ 大谷（村政）

B5判 横書き 110頁

天保以来平井谷氏に代って庄屋になった大谷家の文書の写し。

[目次]

1. 村政 2. 雨悦・雨乞・願ほどき 3. 村方懸り入用帳 4. 人別送り・往来手形・村役人表 5. 検使口上 6. 家出人跡付 * 本巻には1～3を収録, 4～6は『瀧畑Ⅲ』に収められている。

[内容]

村政——「相続に関する代官所の問合せにたいする返書（天保2年）」, 「借用証書（天保2年）」, 「売掛金支拂請求文書（天保9年）」, 「木附子密伐を禁じる文書（天保4年）」, 「子供組定め書（天保15年）」, 「宗旨請状（天保5年）」, 「宗旨請状」, 「仕法講覧之帳（慶応元年）」, 「明治3年村高」, 「奉公人請状（天保9, 10年）」, 「控貧之者書上帳（慶応2, 3, 4年, 明治3年）」, 「道造他力寄進帳（慶応元年）」, 「牛売買に関する一件文書（弘化3年）」, 「苗字帯刀の免許（嘉永3年）」, 「猪狩に関する申渡書」, 「所拂に関する文書類」, 「家出跡附帳（嘉永6年）抄録」, 「大般若経奉献関係文書（嘉永3年）抄録」, 「家出人の貨財にたいする口上」, 「家出人の跡附相続に関する願書（万延元年）」, 「家出人の届け状」, 「永豆腐株に関する文書（安政4年）」, 「山木売買に関する証文（安政4年）」, 「大工, 木挽関係文書（改化4年, 天保14年）」, 「江戸送りの酒荷に関する文書」, 「大阪向け商品の種目, 数量を求める文書とその回答文書」, 「明治5年の鉄砲の数」, 「天保13年における一朱銀調査抄録」, 「屋根ふきかえに関する文書類抄録」, 「奉公人給金に関する証文（天保3年）」, 「器物毀損事件訴状・附幾解決の事を記す（天保14年）」, 「無法人取締願書（天保13年）」以上の写し。

048 瀧畑Ⅲ 大谷（人事）

B5判 横書き 148頁

天保以来平井谷氏に代って庄屋になった大谷家の文書の写し。

[目次]

1. 人別送り・往来手形 2. 村役人・太夫成 3. 検使 4. 家出人跡附

[内容]

人別送り・往来手形——往来手形13通（文政6～明治5年）, 生きだおれ調書（天

保8年), 座送り証文2通(寛政3~4年), 離村・宗旨送りの手形3通(嘉永3, 元治2, 弘化5年), 嘉永5年の宗門帳からの氏名抜書き, 宗旨送り手形(元政元年), 訴状(文政7年), 百姓相続関係文書13通(文化4~13年), 諸物価取締帳(文化2年)の写し。

村役人・太夫成——「村役人表(文政13年, 天保7年)」, 「組頭名の表(天保8, 10, 12~14, 弘化2~5, 嘉永2, 7, 安政4, 7, 万延2, 文久2, 3, 元治元, 慶応2, 3, 明治1~3年)」, 「文化十年7月氏神の太夫成帳」, 「地券改正時の瀧畑の世帯主名表」, 「弘化4年太夫成出銀帳」, 「村役人技書(寛政8, 文化5, 弘化5, 天保7, 8, 10~14年)」, 「五人組改帳(天保15年)」, 「村役人技書(弘化2~4, 嘉永2, 安政4~6, 万延元, 文久1~3, 元治元, 慶応元, 明治1~3年)」以上の写し。

検使——「行き倒れの検使願並に持物」, 会計の報告書36件(嘉永3, 弘化10, 文政13, 天保2, 安政5, 文久2, 嘉永4, 明治25年), 「司農局へ嘆願書」(明治3年), 「行き倒れの検使願並に持物」, 会計の報告書4件(天保年)写し。

家出跡附——夜逃げ, 駈落ち, 身代限り等の遺留品の目録(家出跡附帳)を「村方懸り入用控帳」から6件(天保9~12年)と他から35件(うち重出4件)(弘化10, 11, 享和2, 3, 弘化3, 嘉永6, 7, 天保9, 万延元, 文久元)の写し。

049 瀧畑 IV 猪狩・献立

B5判 横書き 84頁

この村で, 冬期殿様以下家中によって行われる特殊行事としての猪狩の記録と, 猪狩及び香儀, 祝儀, 年中行事の中に出る献立や食品名の写し。

[目次]

1. 猪狩 2. 献立

[内容]

猪狩——「御殿様御□□見御所入目録書(安永5年)」, 「御殿様御巡見御猪狩右ニ付入用(安永5年)」, 「御家中御宿(内容は略されている)」, 「御上様より村方江□□下」, 「人足覚」, 「家賃銭」, 「殿様御巡見御狩帳(享和2年)」諸の注意・御前廻り献立・被下金銭・宿割・狩の手順, 「御殿様御巡見御狩入用(享和2年)」賄の記録, 「御殿様御巡見御狩目録帳(天保13年)」準備・宿割・献立・狩の手順, 「御殿様ししかりお成村方入用帳(嘉永元年)」賄帳, 「人足勘定帳(嘉永元年)」, 「御殿様猪狩ニ付諸処入用帳(嘉永3年)」人足割当・賄・被下金銭, 「御殿様猪狩ニ付入用割方内より人足勘定(嘉永3年)」, 「御殿様御猪狩目録帳(嘉永4年)」役目割・献立・賄・獲物, 「御家中猪狩御延引ニ付買物□□帳(嘉永4年)」, 「御殿様御所入御猪狩一条帳(嘉永5

準備・宿割・献立・献上物品・買物，「人足帳（嘉永5年）」，「御殿様御順檢御狩山記録帳（文久3年）」準備・入用覚・献立・買物・献上品，「御殿様猪狩雜用覚帳（文久3年）」賄帳，「御家中下宿割帳（天保13年）」，「御殿様御巡見御狩ニ付村方入用帳（天保13年）」賄帳，「光滝寺造用付立帳（天保4年）」賄帳。

献立——「此度庄屋本役下仰付村方江ふるまい覚（天保14年）」，「光滝寺諸什物相改控（嘉永7年）」，「光滝寺諸用帳（安永5年）」そのうち2月7日の献立部分，「諸道具買帳（文化9年）」文化9年から天保13年までの払金額と相手の名，「婚礼覚帳（嘉永6年）」，「婚姻受祝儀覚帳（昭和3年）」酒と祝儀人名，食品名を記す，「支配帳（安政2～明治3）」松茸茶がみられると記すのみ，「大般若経奉献（嘉永3年）」食品名4つ，「大宮屋根替普請勘定帳（弘化4年）」，「平藪一件土砂方掛り（嘉永6年）」，「光滝寺賢梁得度之節諸口覚（享保8年）」賄・献立，「神殿祝儀覚帳（明治12年）」酒の量と祝儀人名，「婚礼祝儀請取簿（明治35年）」祝儀品とその代価，「線香料覚帳（安政3年）」，「紛失物届書（嘉永4年）」，「平井谷香儀帳一覧表（明治30～昭和23年）」6件，「関谷祝儀」，「香儀帳一覧（明治24～昭和28年）」25件。

050 瀧畑Ⅴ 左近・産業・公事・戸籍

B5判 横書き 114頁

左近熊太翁旧事談から書き抜いたノートと産業に関係した文書の写し，禁令文書の写し，戸籍からの抜書き。

[目次]

1. 左近熊太翁旧事談 2. 産業 3. 公事・法度 4. 戸籍

[内容]

左近熊太翁旧事談——アチックミュージアム彙報23「河内国滝畑左近熊太翁旧事談」昭和12年宮本常一著の頁を追った要点の技書。

産業——「物産之品書上帳（明治3年）」，「炭の値上げ願書，茶種売拂値段書上帳（天保11年）」，「油密移出わび状（天保4年）」，「訴状 炭焼の特権の願い出（寛政6年）」，「申渡状 土地の売買の許可（寛政10年）」，「訴状 延納者への催促願（明治2年）」，「減刑嘆願書二通（明治2年）」，「炭の値上げ嘆願書（文政6年）」，「同嘆願書（文化2年）」，「上書（文政9年）光滝寺住職快栄から上毛の炭の売却は大目に見てやってほしいという願書，町役人から村役人への依頼状（天保9年）」，「逃散事件の明細書（宝暦のころ）」，「田地下作手形（享保2年）」，「田地下作手形（宝永1年）」，「下作請証文（嘉永7年）」，「草山下請証文（弘化2年）」，「下請証文一覧，取替証文

(嘉永6年)」、「平藪田地小作の件(嘉永7年)」、「平藪田地小作の件文書一覧」。

公事・法度——「郡中申合書(天保4年)」、「郡中申合書(天保4年)」、「滝畑村若者取締(文政7年)」。

戸籍——家族の名前と年令、婚姻関係を戸籍から抜書き。

051 瀧畑 婚姻圈資料

B 4判 25枚 34.5×39cm 1枚

平井谷家文書・大谷家文書による瀧畑町の村内婚・嫁入・養女のアンケートとそれをまとめた表。

052 諸国聞書

B 5判 58枚 未製本

後にフィールドノートとして製本する予定のものと見られ、中を内容ごとに分けてあり、本のケースに入れられている。各地の聞き書きであるため、内容、年代にはばがある。途中ハガキ2葉と封書一通がはさまれている。

[目次] なし

[内容]

吉野放談——昭和44年9月7日 吉野昇雄氏と西川清三郎氏ともに放談したあらまし。「考証篇」、「江戸前篇」、「雑談篇」と分かれている。

奄美群島、その他——昭和46年10月26日 北白川で、アマミ旅行の時の様子を記したものと思われる。

日向——昭和27[29]年宮崎県東臼杵郡延岡付近の海岸農村での調査のメモ。年中行事とそれに付随する料理、生活の様子等を記している。

鹿児島——昭和28年に行われた鹿児島の料理についての調査のメモと思われる。

薩摩坊の津——調査年代は不明であるが、9月16日の日付の入った、鹿児島県川辺郡坊の津町秋目での食生活についての調査のメモ。

今村駿一郎「さつま物語」——読書メモ。昭和41年7月12日松ヶ崎宅にての日付がある。

九州大村——年月日不明。九州大村の鮓についての調査メモ。

松任談——近畿ツーリストKKの森成義氏の松任の話を書き記したもの。

越前・岡本・酒——越前岡本村での調査で写した文書と思われる。「御尋之御答書 上納酒屋共」とあり、上納酒屋に対し出された質問や下知に対しての解答、申しひらきを記した書付けである。

篠田統資料目録Ⅰ（フィールド・ノート）

一般、すし（西内手紙）——西内正からの四国のすしに対する手紙と、それを白地図に示したもの。昭和30年2月28日の書き込みあり。

大分県佐志生——昭和45年6月25日の日付の入った聞書き。朝日学芸部記者の高橋徹から大分県臼杵市の佐志、隣の一尺屋の生活状況を記している。

宮崎県のすしの種類と作り方のアンケート

大分県、宮崎県、熊本県で行なったすしのアンケートの統計資料。

江戸——昭和29年2月の日付があり、東京の古くからの鮓について種類、製法を記している。

東海道線——昭和29年2月の日付あり。東海道沿線の地方の行事とそれに付随する料理を記したもの。

鶯亭金升談 西洋料理——昭和27年7月4日、NHK が放送した番組からのメモ。明治の舶来物として当時の料理の話をのせている。

053 丹波

B5判 横書き 246頁

昭和29年から34年にかけての丹波地方での風俗を地方別に綴ったものに年中行事とその食生活のアンケートを付して一冊にまとめたもの

[目次]

1. 柚原 2. 犬甘野 3. 綾部、山家、園部 4. 稲畑人形 昭和29年 5. 立杭 昭和29年 6. 篠山 昭和29年 7. 神楽 昭和29年 8. 佐治 昭和29年 9. 香良、成松、絹山 昭和34年 10. 小川、香良 昭和29年 11. 和田 12. 沼貫 13. 葛野 昭和34年 14. 氷上一円（香良を中心に）昭和31年 15. 福住 昭和29年 16. 年中行事／柏原、山南、氷上 17. 年中行事／青垣、市島、春日

[内容]

柚原——よろづ風俗の聞書き。

犬甘野——社寺他の聞書き。

綾部、山家、園部——士族屋敷を目的とした聞書き。

稲畑人形——伏見人形の系統を引く稲畑人形に関する聞書き

立杭——焼き物に関する聞書き。

篠山——紺屋での聞書き。

神楽——よろづ聞書き。

佐治——産業の聞書き。

香良，成松，絹山——よろづ聞書き。

小川——よろづ風俗聞書き。

和田——よろづ風俗聞書き。

沼貫——よろづ風俗聞書き。

葛野——よろづ風俗聞書き。

氷上（香良を中心に）——よろづ風俗聞書き。

年中行事／柏原，山南，氷上——年中行事のアンケート用紙を綴ってある。

年中行事／青垣，市場，春日——年中行事のアンケート用紙を綴ってある。

054 京 大阪 昭29～37

B 5 判 横書き 170頁

昭和29～37年のあいだに記録した京都，大阪の鮓屋，酒・酢醸造業者，和菓子屋，羅宇屋，売薬，アンマ，焼イモ屋，船頭などの商売に従事する人々からの聞書き，薬史学会講演記録，先生の住居があった北白川の風俗，缶詰，都市ガスに関するノートなど。

[目次]

1. 重兵衛（昭和29年） 2. 伊豆卯（昭和29年） 3. 末広 4. 桜戸 5. 千鳥，松井の杜氏 辻留（昭和31年） 6. 秋山（昭和29年） 7. 秋山（昭和34年） 8. 俵屋（昭和34年） 9. 上尾 平井（昭和35年） 10. 薬史学会（昭和37年） 11. 愛郷会座談会 12. 北白川（おくに） 13. 羅宇や 14. 按摩 15. 淀（土族やしき） 16. 大阪／焼いも・大豆あん・ねや川船頭・缶詰大学・大阪ガス

[内容]

重兵衛——京都の鮓屋「重兵衛」での鮓，料理に関する聞書き。弁当の盛りつけの図あり。

伊豆卯——京都の鮓屋「いづう」でサバ鮓のつくrikatを主とした聞書き。同店の包装紙が貼りつけてある。

末広——京都の鮓屋「末広」での鮓関係の聞書き。

桜戸——酢づくりの聞書き：腐敗酒からの酢づくり，同店の文書のうつし。

千鳥酢——酢づくりの聞書き。

杜氏——域崎郡杜氏組合長からの聞書き。「京都における酒造業調査計画内容」という6枚の孔版印刷が貼りつけてある。

辻留——「辻留」主人からの京料理に関する聞書き。

秋山——酒造関係の聞書き，昭和29，30年の2回ぶんあり。

俵屋——京菓子に関する聞き書き、『京菓子』（菓匠会 昭和30年）の目次および部分をぬき書きし、菓子の形をうつし色鉛筆で描色したものあり。

目薬——京都の上尾庄兵衛商店の従業員から同店の「上尾目洗い薬」の歴史と「雨森無二膏」,「奥谷蘇命散」,「井上目洗い薬」について聞き書き。

養神膏——京都の「養神膏」の平井氏にこの薬の歴史、製法などについて聞き書き。

薬史学会——昭和37年4月4日の宗田一氏の研究発表「江戸期京都における製薬」,おなじく川崎道太郎氏の「京都舎密局のことども」のノート。

北白川愛郷会——昭和37年10月4日におこなわれた北白川の昔について語る座談会のノート。

おくにさん——北白川の昔についての聞き書き。

羅宇屋——住居近くの道で会った羅宇屋からの聞き書き,「羅宇屋」（『風俗古今東西』所収）にまとめられている。

アンマ——目の不自由なアンマの女性のライフヒストリー。

土族屋敷——淀の土族屋敷のメモ。

焼芋屋——大阪の小株町で会った焼芋屋から商売について聞き書き,ボイラーの図あり,「焼芋屋」（『風俗古今東西』所収）にまとめられている。

大豆餡・別品餅・船頭——東大阪市徳安橋の果物屋で昔つくっていた大豆の餅について聞き書き,「くるみ餅」（『風俗古今東西』所収）にまとめられている。おなじく,徳安橋で大豆を原料とする別品餅と木津川船頭の話しを聞き書きしている。

缶詰学校——東洋食品工業短期大学の松本氏から,缶詰についての聞き書き。

大阪ガス——同社西島工場での聞き書き。

川原正明氏への手紙の写し（先生の書かれた手紙ではないと思われる）。

055 標野ぶり 1

B5判大学ノート 横書き 80頁

昭和20年代におこなわれた中野村（現在、滋賀県八日市市）調査記録を整理して浄書したものである。中野村が『万葉集』に「茜さす紫野ゆき標野ゆき」と歌われた場所にあたるため、このタイトルがつけられたものであろう。この調査結果は『滋賀県立短大雑誌 B』中野特集号（1954年）にまとめられているほか,「江州中野村の場合」（『暮しの知恵—考える生活科学』『家政学序説』第一部 化学同人社1968年を改題）所収）にこの村の人口動態について,「山の神」（『風俗古今東西』所収）に山の神信仰について発表している。

〔目次〕 なし

[内容]

村の概要——地名、戸数、村の歴史、村の地図。

年中行事——月別に行事の種類を記す、5月に鮎鮎つけの方法が記されている、山の神信仰に関するスケッチ、野神の神木スケッチ、墓地のロウソク立てのスケッチ、絵馬のスケッチ、西老蘇の「へび」スケッチ。

村の風俗と生活——村の歴史、作物、魚の移入経路、農作業の労賃、肥車スケッチ、屋根の雪どめスケッチ、主食と餅、忌禁、宮座のお供え、野獣、若衆組、宮座、結婚、出産、還暦、庄屋、一統、村への移住者、地図、蛇とり、社寺、社寺の石像スケッチ、地誌、伊勢音頭の文句、絵馬スケッチ、寺の建物の一部スケッチ、祠堂スケッチ、中野神社祠堂配置図。

寺講証文、正徳年間から元治年間にいたる宗門帳を表化したもの。

056 出雲 1 (大芦、加賀、講武、佐陀、和田)

B 5 判 横書き 192頁

先生は昭和20年代後半から、昭和30年代前半まで島根県立女子短大の非常勤講師をしておられた。島根に出講のさいに調査したものと思われる記録が「出雲」1、2と「雲州献立集」として合本されている。「出雲」には調査時の不明な聞ききがおおい。

[目次]

1. 木次線／大東、東中、三成、横田、油木 2. Bus 3. 秋鹿 4. 大芦 5. 加賀 6. 講武 7. 佐陀 8. 松江 9. 和田

[内容]

小タイトルなし——大東町、八束地方のイカ、オカラ、サバ、鮎と五目鮎、ブリの肝料理、沖すき、茶の漬物、味噌漬、井戸水の水質。寮の学生の食事：食費、栄養価、3食献立20日間。木次線車窓風景。車中での聞きき：三原郷の年中行事とその食物、講、結婚、相続、三成の概況、ササマキ、節句の食事、八川の年中行事とその食物、油木の概況。

Bus——鉄道、島鉄バス、日ノ丸バス、備北バス、ニコニコバス、鞆鉄バスの時刻表を手写。

秋鹿（昭和33年）——酒造関係の聞きき：酩酊歌の歌詞、醪歌の歌詞、杜氏の出身地と人数、技術伝播経路、杜氏の職制、杜氏の賃金、出雲の酒造における杜氏の歴史。年中行事と食物、鮎類、神社と祭。

大芦——大芦の概況、主食、結婚、衣服、農業、行事と食物。

加賀——粟と雑穀、加賀の概況、隠居、結婚、小豆善哉、鮎、密造酒。

講武——祭、祭りの飾りのスケッチ、小豆善哉、茶、婚礼のしきたり、牛に食わせるズイキ粥。

佐陀——正月の雑煮と食物、この地方の酒造業者のリスト。

松江——この地方での酒造に関して杜氏の出身地と歴史、直し灰（?）、八雲塗、カマボコづくり、行事食。

和田——直し灰（この調査をもとに「直し灰」『風俗古今東西』所収が記されている）。

出雲杜氏組合杜氏名簿——出雲杜氏組合、昭和28年刊、本文17頁を合本してある。

酒品——12銘柄の酒（おおくは出雲産）の味についての印象を記してある。

057 出雲 2（出雲、八神、広瀬）

B5判 横書き 160頁

056『出雲』1を参照。

〔目次〕

1. 松江〔昭和29年〕（又ハもっと古い） 2. 松江（昭和31年） 3. 松江（昭和37年）
4. 松江／士族やしき（昭和32年） 5. 松江 鰐渕寺文書（宗門関係） 6. 出雲（昭和29年）
7. 須佐（昭和30年） 8. 八神 9. 道中（昭和30年） 10. 道中（昭和31年） 11. 道中（昭和32年）
12. 道中（昭和36年）

〔内容〕

松江——端午の節句用のチマキ、ササ、カシワの葉、ショウブ、ヨモギ、アオイなどの聞書き、それに竹崎嘉徳博士（島根県出身元京大教授、島根県立農大・島根県立女子短大の学長であった。1975年没。篠田先生とは50年間親しかった。）のアオイを食用とすることについてのコメントがつく、春日神社神職藤脇進氏から、同社の神事についての聞書き、同社の間取り図。

松江・広瀬（昭和32年）——藤布づくり、紺屋のアイ染め、アネサマ人形づくり、広瀬の吉田運一氏からの酒造聞書き、広瀬高校。

松江（昭和37年）——花づくり、昔の茶屋、一畑坂下集落地図。

士族屋敷（昭和32年）——かつての士族屋敷のたたずまいを7人から聞書き。

鰐渕寺文書（昭和32年）——天明5年～嘉永4年にいたる宗門帳のうつし。

出雲（昭和29年）——宇井の行事食、境の行事食、今市の行事食とアイ染のオムツ、大社のアイ、綿づくりと海苔づくり。

須佐（昭和30年）——牛市の祭、行事食、藤布、郷土料理、高校の話、牛飼い、結婚式、この地方の概況。

八神（昭和30年）——村の概況，年中行事とその食物，講，牛市，木炭，縁組，相続，地方の有力者，機織，食事。

道中献立（昭和30年）——5月16～29日までの3食の献立。この間の食費等のリスト。駅弁の包装紙，箸袋，柚べしの包装紙を貼りつける。

道中献立（昭和31年）——2月24～28日までの食事献立。

道中献立（昭和32年）——5月27日～6月4日までの食事献立。松江市の印刷所の名刺代の領収証とてんやものの代金を記した紙，菓子，鮓，駅弁の包装紙と箸袋，旅館の領収書，出雲民謡の歌詞を記した松江市観光課のチラシ，三瓶山観光案内チラシが貼りつけてある。

道中献立（昭和36年）——6月6日～11日の食事献立。

058 チマキ，雑煮記録

B4判 12枚 B5判を3枚つないだもの 2枚

島根県・鳥取県におけるちまき，かしわ餅，小豆雑煮に関する記録。製作年代は不明であるが調査地域や内容が「出雲1・2」と重複しているのでこの順番に並べた。

[内容]

端午の節句を新暦・1月おくれ・1日暦で行う，現住所による端午節の食物，主婦の出身地別，端午節の食物，小豆雑煮の種類等，各記録が白地図に色分けされて記入。

059 大和

B5判 横書き 110頁

昭和20～30年代に調査した大和各地での聞き書き，文書のうつし，士族屋敷についてのノート。

[目次]

1. 十津川（昭和27年） 2. 下市（昭和33年） 3. 田原本（昭和27年） 4. 酒 5. 緋（昭和34年） 6. 年中行事 7. 飯田文書 8. 士族やしき（昭和32年）

[内容]

十津川——柿の葉鮓のつくりかた，柏餅，サバ鮓，アユ鮓，雑煮，神社，相続，男尊女卑，村内婚，シイタケ栽培，サル，磁鉄鉱，林業，炭，キノコ。

下市——「弥助鮓」での聞き書き：アユ雑炊，サバ鮓，柿の葉鮓，服装，茶粥，ツルベ鮓，弥助鮓の歴史，弥助鮓に関する過去帳のうつし。

田原本——間取り図4件。

酒——並川氏から大和の酒屋の歴史聞き書き，今西氏より同酒倉での酒づくり，奈良

の酒の品評，杜氏の話。

大和餅——西手英子氏が天王寺分校ゼミナールで「大和の地機」という発表をしたときのノート。

大和年中行事——機織，油屋，雑煮，年中行事と食物。

飯田文書——文化2年安産祝儀受納リスト・餅くばりの人名リスト・おひあけの人名と献立，「文化3年ちまきくばり」，「節句始諸入用」，「節句初受納控帳」，誕生日献立。

士族屋敷（近畿）——芝，柳本，高取，櫛羅，新庄，郡山，小泉，田原本の武家屋敷のたたずまいなどのメモ。

060 土佐日記 続編 昭30

B5判 横書き 204頁

昭和30年1月の四国旅行の記録であるが，旅行行程や日程については記されておらず，記録採集別にとじられている。巻末の道中献立から判断すると1月5日に香川県仏生寺に着き，香川，愛媛，高知県の各地を周遊したのち1月15日に帰洛したものである。

[内容]

志度——地勢，鮓。

高松——酒造関係。

香西——杜氏関係。

丸亀——地勢，鮓。

比地——農業。旧庄屋の向井氏文書が67頁にわたって筆写されている。江戸，明治初年の記録である。その主な内容は行事のさいの献立，贈答録，宗門改帳，買物帳，三野郡物成帳，向井氏家系，過去帳。

川之江——年中行事と行事食。

今治——年中行事と行事食。

小田町——年中行事と行事食。

大州——年中行事と行事食。

樽原——地誌，農産物，衣服，年中行事と行事食，保健関係，食生活一般。

佐川——酒造関係，年中行事と行事食。

弘岡——鮓，年中行事。

高知——茶，鮓，うどん，年中行事と行事食。

池田——鮓。

脇町——年中行事と行事食。鮓，そばめし。

鴨島——藍，そば。

桑野——酒造関係，鮓，年中行事と行事食，機織。

道中献立——旅行期間中の食事の記録。

061 たたら日記 昭和30・7月

A 5判 横書き 136頁

昭和30年7月3日から17日までの松江行のさいの聞書きと記録。

[内容]

手間——五千石で風俗聞書き。

米子——車中での聞書き。

隠岐——押田教授からの聞書き。

佐陀——酒造の話の聞書き。

片句——老婆他からの種々の風俗聞書き。

吉田——種々の風俗聞書き。

阿毘縁——種々の風俗聞書き。

帝釈——種々の風俗聞書き。

道中記——献立と費用と旅程とが記入されている。

附録——箸袋や弁当の包装紙などが添付してある。

062 火の国 上（宮島～高鍋） 昭30

B 5判 横書き 192頁

昭和30年10月5日～18日の九州旅行の時のノートの前半分13日の途中までの分である。聞書きが主で旅程等は「火の国 下」にある。

[目次]

1. 宮島 2. 別府 3. 佐賀関 4. 一尺屋 5. 佐伯 6. 重岡 7. 臼杵 8. 野津市 9. 緒方 10. 竹田 11. 阿蘇 12. 内之牧 13. 高森 14. 高千穂 15. 延岡 16. 細島 17. 富高 18. 椎葉 19. 高鍋

[内容]

宮島——記載なし

別府——記載なし

佐賀関——江藤夫人から年中行事，食生活，人の一生等風俗聞書き。佐賀関の店頭風景。

篠田統資料目録Ⅰ（フィールド・ノート）

一尺屋——軽便の中のオバさんから近辺の生業，年中行事，食生活等風俗の聞き書き。

佐伯——豊南高校佐藤先生から食生活の聞き書き，片岡丈吉老から藩政時代に関して聞き書き，町で店頭風景と弁当の献立。

重岡——車中で老爺から食生活中心の聞き書き。

臼杵——高風荘の老女将から食中心の年中行事と料理法等の聞き書き。

野津市——バス停で老人から年中行事の聞き書き。メガネ屋さんでの聞き書き：雑煮，酢。

緒方——車中の女子高生から食生活の聞き書き。

竹田——写真屋の店員さんや宿の女中さんからの生活の聞き書き，浜口という八代出身の高校の校長から鮓の聞き書き，さらに話者不明で年中行事から各種の調理にわたる食生活の記録が竹田として記されている。

阿蘇——神社のパンフレットがあるのみ。

内之牧——宿の主人の永田さんから年中行事にまつわる食生活とその他食品等，食生活の聞き書き，酒の話。

高森——高校長から鮓の話を聞き書き。

高千穂——高校長と佐藤先生から鮓と雑煮等の話，話者等不明の棒術と神楽の所作や曲の内容の記録，小手川善次郎氏他の諸氏からの風俗聞き書き。

延岡——記載なし。

細島——話者不明，風俗聞き書き。

富高——宮島高校斉藤教頭から風俗聞き書き。

椎葉——おたけおばさんに家の間取りと鮓，行事食の話，那須銀蔵のバサマから風俗聞き書き，那須二世と那須教官から風俗聞き書き。

高鍋——酒造の話。

063 火の国 下（妻～牛窓） 昭三〇

B 5 判 横書き 172頁

昭和30年10月5日～18日の九州旅行の記録の後半，13日以降の聞き書きと費用や時刻の記録，パンフレット，箸紙類を添付。

[目次]

1. 妻 2. 宮崎 3. 内海 4. 都城・須木 5. 佐土原 6. 村所 7. 多良木 8. 五木 9. 五箇荘 10. 人吉 11. 熊本 12. 備中美袋 13. 牛窓・虫明 14. 献立 15. 道中記

[内容]

妻——米や芋による酒造に関すること，年中行事，織物の生産，杜氏の墓誌，年中

行事の食物。

宮崎——記入なし。

内海——記入なし。

都城・須木——記入なし。

佐土原——農事談。

村所——農産品，産業，家造食品，間取り，年中行事とその食品。

多良木——酒と焼酎の銘柄と産地と味，間取り，食品，産業，杜氏の酒造談。

五木——間取り，農業生産，五木子守唄に関して，シシ，年中行事と食品。

五箇荘——年中行事と食品。

人吉——記入なし。

熊本——雑煮の話。

備中美袋——年中行事と食品。

牛窓・虫明——鮓と雑煮。

献立——10月5～18日の旅行期間中の食事の記録。

道中記——着発の時刻の記録，金銭支払記録，領収証や案内パンフレット・箸袋・マッチ・包紙を添付。

064 速野村1 一間取図一 昭30

B5判 横書き 118頁

昭和30年滋賀県でおこなった調査の記録，速野，幸津川，立田，小津，中村での聞き書き，死因統計，文書の写しなどが記されている。

[目次]

1. 速野村 2. 幸津川・立田・小津・中村 3. 死因統計 4. 山本庄作文書 5. 幸津川文書

[内容]

速野村——内田教授談（7月30日）：条里制，天保の新田開発，大曲のこと，大きな家，養子，女のヘソクリ。舩にて由本院生談（8月1日）：獲れる魚，西牧野の小舩，船，水泳。中野 猿飼準三郎氏談（8月1日）：紺屋，野洲町の紺屋，藍瓶。川西中北恒治氏談（8月3日）：キビ染め，鮎鮓，村の生業。山本庄作氏談（8月2日）：無常講，村のボス，堤防番，生業，足入れ，もらい風呂（今浜），婚姻。内田教授談追加：「伊勢南」，掬いめし。山本庄作氏談（8月4日）：慶応3年宗門帳の抜書き，幕末の頃のこと（一揆，三上騒動，新田，照久寺 野洲宿，助郷），博奕，酒。上村教授談：青花，紺染。鵜飼での聞き書き：野洲郡の紺屋。地酒6銘柄について，それぞれの

コメントを記す。遠藤母子談：酒の飲み方，遊び。補遺：オマハン，パーチカル，イチビ，長脚絆，帯，医師，言葉（わせる），近鉄バス時刻表写し。

幸津川・立田・小津・中村——幸津川にて神輿もり，野洲郡の神職，造酒屋，講，寺，前髪，若衆，番太，龍骨車，パーチカル，成年式。立田区長 本城氏談：神社の祭礼，左座と右座，オトナ，正月オトナ入り，ユリワ座，屋敷神，株の財産，婚姻，結婚式（結納，三日帰り，部屋見舞，足入れ婚）。小津 三品教官談：米作り，給食。

死因統計——昭和25～29年の総死亡者数 224 名について死因別（13項目）の人数と割合を示す統計を記す。また各年ごとに，「死亡した日，地区（水保・洲本・木浜・今浜），性別，死因，年齢を記す。

山本庄作文書——明治5～9年の出生について出生月と性別，死亡について死亡月と性別・年齢，結婚・引越などによる転入出について，戸主と本人の氏名・続柄・年齢・旧住所あるいは転出先，転入出の理由，人口（男女別）・戸数・寺社数を写す。

（以上明治8年まで開発西村，9年以降は洲本村のものと思われる），「天保4年五人組覚帳」（大曲）写し，組ごとの人数を控える。「慶応4年戸口御改帳」（大曲）写し，19戸の石高，戸主氏名，年齢，家族の続柄，氏名・年齢を控える。

幸津川文書——「御祭礼当番式法記 四番組（安政5年）」，「天保3年新川大明神並ニ龍神社雨乞御礼踊り役割帳」（新庄），「御神事道具目録（嘉永6年）」の写し。

065 速野村 2 —中北文書— 昭和30

B5判 横書き 190頁

滋賀県速野村の中北文書を写したものである。筆写された文書は，近世後期のものであり，その内容は野洲郡内の酒造業に関するもの。野洲郡内の酒の製造，流通を知ることができる。野洲郡南組に属するもの。

[目次]

1. 酒屋数造石高
2. 独占・酒価統制
3. 株譲替・休潰株
3. 献立・酒原価・その他
4. 拝借銀

[内容]

酒屋数造石高——「嘉永六丑年十二月 江州野洲郡南組 酒造屋仲ヶ間名前帳」，「文政十年江州野洲郡南組 酒造屋仲ヶ間名前帳」，「天保四己年九月改栗太郡甲賀郡野洲郡高嶋郡酒屋名前帳 [控]」，「元治二年二月 酒造并桶御改帳 [控]」，「慶応四辰四月 酒造米高御冥加銀書上ヶ帳」，「享和元酉年覚（酒造株高ニ付）」，「巳二月 忝恐奉願口上書（清桶の儀ニ付）」，「寛政十二年申八月覚（酒桶新調，御消印願等ニ付）」，「享和二年

戊九月覚（酒造高御届ニ付）」、「文化十四年丑五月口上覚（酒造桶新調願）」、「文政五年七月口上覚（酒造桶新調願）」、「丑五月口上覚（印鑑差出ニ付）」、「寛政十三年酉三月覚（造酒高ニ付）」、「寛政十三酉年二月（造酒米高ニ付覚書）」、「享和元年酉三月覚（酒造高ニ付）」以上酒屋数造石高。

独占・酒価統制——寛政元年から慶応四年まで計四十二点、野洲郡内の酒造屋仲間間、酒造株などに関する文書を写す。

株譲替・休潰株——安永十年から嘉永二年まで計三十一點。野洲郡内の酒造株の名義の移動、酒造の停止などについての文書を写す。

献立・酒原価・その他——享和三年から明治十一年まで計三十四点。酒造仲間間のさいの献立、酒原価などに関する覚。

拝借銀——文政三年から弘化四年まで（但し年未詳多し）。計二十二点、銀子拝借に関する証文。

066 江州 鷺田・中北・白井文書 昭30

B 5 判 横書き 232頁

滋賀県野洲郡小篠原村の鷺田家の酒造関係、吉事・凶事に関する覚など、滋賀県川田の中北家の酒造関係文書、また角文書・白井文書も酒造についての文書で、これらの文書の写しを合冊したもの。

[目次]

1. 小篠原／鷺田文書（酒造） 2. 小篠原／鷺田文書（雑） 3. 小篠原／鷺田文書（横帳類 吉事） 4. 小篠原／鷺田文書（横帳類 凶） 5. 川田／中北文書（株） 6. 川田／中北文書（造石高） 7. 角文書 8. 川田／中北文書（献立・勘定書） 9. 白井文書

[内容]

小篠原／鷺田文書（酒造）——「文久元年酒造兼勘定帳」写し。

小篠原／鷺田文書（雑）——「卯之歳御物成下札之事」、「未之歳御物成下札之事」、「申之歳御物成下札之事」、「酉之歳御物成下札之事」、戌年の断簡、亥・子の年の「御物成下札之事」、「江州篠原村申之御年貢米之事」、「江州小篠原村酉之御年貢之事」覚書3通、「五人組前書?」、「延享4年 朝鮮人来辰之年参向帰国御廻状写、卯4月日」。

小篠原／鷺田文書（横帳類 吉事）——「甲宝暦四歳 婚礼祝儀請納帳 戊八月十九日」、「寛政4子年 蔵普請覚帳」、「酉天明8年 居家普請 お覚帳 二月吉日」、「庚寛延3年 日お覚帳 午正月吉日」、「享保8歳 普請ニ付お合力帳 卯ノ2月21日」、「癸寛政5年 婚礼祝儀請帳 丑正月吉日」、「文政6年 婚礼祝儀并部屋見舞受納帳

篠田統資料目録Ⅰ（フィールド・ノート）

未2月15日」,「戊嘉永元年 御祝儀覚帳 申九月廿四日」,「丁慶応3歳 土蔵諸入用扣帳 卯四月吉日」,「見舞受納扣へ」,「明治四年未三月吉日新宅ふしん手伝見舞扣へ」,「明治5年壬申9月27日 新宅家移ニ付浄人並悦受納帳」,「嘉永2酉年11月15日 おふさ婚礼一件諸入用通」,「嘉永3年戊12月 おふさ安産方への口覚」,「嘉永6丑6月4日朝立 おしへ婚礼之萬扣」,「安政4巳4月22日朝 おいそ婚礼萬扣 当村利右エ門殿へ」,「安政4巳4月22日朝 お磯婚礼色々扣 酒屋平助」,「安政6年未2月□□るい おしへ大津五右エ門方遣ス 婚礼受納扣」。

小篠原／鷺田文書（横帳類 凶）——「安永4年乙未正月5日往生 役人付并香奠覚帳 法名釈尼妙体 おさつ」,「安永6年 釈教俊香奠帳 酉11月11日往生」,「巳寛政1年 釈妙玄香奠帳 酉7月27日往生」,「寛政8年辰3月日 宗春妙春御仏躰」,「壬享和2年 香でん覚帳 戊正月20日 平助」,「癸享和3年 香奠帳 釈宗春往生 亥正月23日」,「文化4丁卯年9月10日往生 御香奠并役人附帳 俗名おすみ15歳」,「嘉永4亥とし 釈せいげん様五十年忌 正月廿日当日」,「嘉永5丑7月22日往生 葬式役人附并香儀帳 俗名嘉兵エ60才」,「嘉永5年丑7月22日 葬式香儀帳」,「嘉永6年 入用之扣帳 丑7月22日」,「嘉永7年 父親一周忌 寅2月21日勤候也」,「明治2年 釈徳量拾七回忌并ニ母法躰覚帳 巳3月10日勤」,「明治3庚午正月十日往生 葬式役人附并香儀帳 俗名おみよ年66才」,「庚明治3午正月日 葬式香奠帳 釈尼知善俗名おみよ年66才」,「辛明治4年 釈尼智善, 釈誠登童子, 一周忌扣帳」,「明治5年申2月9日勤ル, 5名の法事覚え」。

川田／中北文書（株）——酒造株仲間についての文書 16通。

川田／中北文書（造石高）——酒造仲間の造石高についての文書 7通。

角文書——「嘉永六丑歳十二月 江州野洲郡曲組 酒造屋仲ヶ間名前帳」,「天保4巳年以前迄之造高」。

川田／中北文書（献立 勘定書）——扉に「食料関係のみ摘出, 人夫その他ののは省略す」とある。買物覚など 6通, 金銭預り覚 5通「嘉永2酉年改 津川村貞蔵分, 小浜村伊兵エ分 滞り」,「慶応2年丙寅7月11日 六山一件ニ付 南 立会勘定帳」

白井文書——明治27年より34年まで各年の酒店卸決算覚。

067 江州 福谷文書 昭30

B5判 横書き 236頁

滋賀県野洲郡第四区永原村の福谷家の文書の筆写である。幕末から明治初めにかけての野洲郡北組に属する酒造業の史料を筆写する。

[目次]

1. 祇王福谷文書（酒造株） 2. 祇王福谷文書（酒造人名前帳，造石高） 3. 祇王福谷文書（桶帳） 4. 祇王福谷文書（会計勘定帳） 5. 祇王福谷文書（献立） 6. 祇王福谷文書（雑）

[内容]

祇王福谷文書（酒造株）——「乍恐奉願々口上書（北組分裂ニ付）」、「嘉永二酉年四月二十五日乍恐口上書（新年寄選出ニ付）」、「嘉永六年丑十二月請書（酒造問屋仲ヶ間之儀ニ付）」、「定（酒屋仲ヶ間株之儀ニ付）」、「安政6年1月乍恐口上書（酒造株譲渡ニ付）」、「安政6年正月晦日御請書（酒造株譲渡ニ付）」、「安政七年三月京都江壳捌出願之次第写并元来分之委舗」、「乍恐奉願口上書（無断造酒ニ付）」、「乍恐奉願上口上書（酒持込禁止願）」、「十二月御触書」写し、「明治四年十月御布告（酒造其他醬油類改正ニ付）大津県庁」他3通、「明治四年十月乍恐以書付奉願上候（造酒株税則御改正ニ付）」、「九月三十日治定（願書提出ニ付）」、「十月布告留（醸造税則改正ニ付）」、「安政七年二月疑定為取替一札之事（酒造稼之儀ニ付）」、「安政七年二月定直段」、「元治元年三月十日差入申一札之事（酒造株譲渡ニ付）」、「安政六年十一月為取替一札之事（北組分裂ニ付）」、「安政五年四月書付之事（印形差出を代人を以てすること）」。

祇王福谷文書（酒造人名前帳，造石高）——「文政三年正月酒造株高書附写」、「嘉永二年六月江州栗太甲賀野洲高嶋郡酒造人名前帳」、「安政五年度改野洲郡北組酒造屋仲ヶ間名前帳」、「慶応四年四月二十三日乍恐以書付奉願上候（酒造人名前等ニ付）」、「慶応四年四月酒造米高御冥加銀書上帳」、「二月野洲郡三番組酒造帳」、「明治六年四月野洲郡第四区酒造改帳」、「明治四年十月清酒醸造御免許御願書醬油醸造御免許御願書」、「明治四年十月酒造株税則御改正被仰渡之儀ニ付御嘆願書」。

祇王福谷文書（桶帳）——「享和二年酒造入用桶（覚書）」、「文化十四年酒道具切印請御消印書上帳」、「天保二年減石三分式造仕込仕訳帳」、「天保二年五月桶帳（公儀差上候写）」、「天保二年九月酒造桶道具帳」、「嘉永三年四月酒造桶御改帳」、「嘉永三年御見分ニ付桶数改帳」、「嘉永四年二月酒造桶改差上之扣」、「嘉永五年三月酒造桶改指上ヶ扣」、「嘉永六年四月・嘉永七年四月酒造桶御改指上候扣」、「安政二年二月・安政三年四月・安政四年四月・安政五年四月・安政六年四月・酒造桶御改帳」、「安政七年三月酒造御検分御改帳」、「万延二年・文久二年三月・文久三年四月酒造桶御改帳」、「元治元年七月・元治二年三月・慶応三年三月酒造并ニ桶御改帳」、「清酒改帳」、「明治六年清酒醸造方休業御願書」、「明治七年十月十四日清酒醸造廃業ニ付申上書」、「安政七年三月・文久二年三月・慶応元年七月酒造桶数買上ヶ帳」、「慶応三年三月酒造桶

数並有酒書上ケ帳」，「慶応三年 酒造 并 桶御改帳」，「（文久二年三月） 酒造人平造酒造高桶数御改帳」，「（元治元年七月） 酒造人平造酒造高書上」，「（文久二年三月・元治元年七月・慶応三年三月） 酒造并桶御改帳」，「明治七年四月清酒改帳」，「慶応三年三月 酒造并桶御改帳」，「明治七年四月二十三日・明治七年清酒改帳」，「安政七年三月・文久三年三月・元治元年八月・慶応二年二月・慶応三年三月 酒造并桶御改帳」 覚。

祇王福谷文書（会計勘定帳）——「乍恐 奉願 上 候口上書（安政四年・拝借銀之儀ニ付）」，「安政七年正月吉日酒造仲間御検分并年中諸入用覚帳」，「万 延 元年三月吉日 酒屋仲間間入用帳」，「文久三年正月吉日俵物通」，「元治二年正月吉日江州野洲郡北上組酒造御仲間間通」，「慶応二年七月十一日六山一件ニ付南北立会勘定帳」，「御役所勤方覚」，「安政三年四月十三日〔献立〕（御見分御出役松原千右衛門泊リニ付）」，「安政七年三月酒造御検分御改帳」，「万延二年酒造御改帳」，「嘉永六年五月御見分ニ付諸入用覚帳」，「安政三年四月十三日・安政六年四月三日御見分宿入用帳」，「天保六年七月 奉拝借証文之事」，「正月吉日酒之通」，「慶応四年七月五日乍恐以書付奉願上候（上納金分納願）」，「天保十五年十月（上永原仕法一件ニ付届書）」，「天保十五年三月差入申一札之事（上永原仕法一件）」，「覚（酒代）」，「十二月二十七日覚（米代）」。

祇王福谷文書（献立）——「文政十一年二月二十五日拾ヶ村参会当番諸入用帳」，「天保七年二月二十九日拾ヶ村参会備物買物帳」，「明治三年二月二十九日拾ヶ村井凌参会入用帳」。

祇王福谷文書（雑）——「絵図目録（文久二年七月十六日守山へ出ス）」，「正徳三年九月二十八日 覚書（御殿舗地惣高等ニ付）」，「御触書」写し，「文政十年二月膳所組助郷切附帳」，「天保十三年六月差入申一札之事（離婚ニ付）」，「嘉永七年六月八日往来一札之事」，「文政十三年十二月二十九日一札（又三郎遺骸受取ニ付）」，「安政五年二月差入申一札之事（孫三郎請状）」，「嘉永二年十二月奉誤一札之事（孫三郎之儀ニ付）」，「嘉永三年六月乍恐差入申一札之事（済状）」，「嘉永三年十月乍恐差入申一札之事（治左衛門伴治郎助儀ニ付）」，「嘉永三年六月乍恐差入申一札之事（半兵衛後家相続之儀ニ付）」，「弘化三年三月乍恐御書付御詫奉願上候」，「嘉永二年八月御詫一札之事」，「弘化三年三月乍恐以書付御詫奉願上候」，「天保十五年九月請書」，「土岐関係」六点，「天保九年六月取締証書（普化宗取締証書）」，「酉三月為取替一札」。

068 繁盛村 昭三一

B 5 判 横書き 180頁

繁盛村婦人研修会が7月18日に行なわれ、その時の講師として参加された旅行のノートらしい。日付も7月9日や7月13日14日等が散見される。

【目次】

1. 繁盛一般 2. 上岸田 3. 百千家満 4. 倉床・富士野 5. 横山 6. 黒原・太谷 7. 井内 8. 千町・草木 9. 三方 10. 下三方・神戸 11. 千種

【内容】

繁盛一般——風俗の聞き書きと村のかんげい茶話会でのメモ及び風俗の聞き書き(13日), 浦上伊勢子さんからの風俗の聞き書き, 太田校長からの風俗聞き書き, 繁盛村婦人研修会要項。

上岸田——傘屋, 日下種三郎の両氏から風俗聞き書き。

百千家満——薄木東太郎さん, 木下類一郎さんからの風俗聞き書き, 統計数量メモ。

倉床・富士野——松田さん, 梶浦春一氏, 梶浦六郎氏らからの風俗の聞き書き。

横山——解答者不詳と松本慶次郎氏からの風俗聞き書き。

黒原・太谷——小椋雄平, 小椋清一, 山本さん等の人達から主に木地屋に関する聞き書き。

井内——内山さんという人からの風俗聞き書き。

千町・草木——大植謙一さん, 大植清一さん等からの風俗聞き書きと宗門帳からのメモ。

三方——回答者不詳の聞き書き。

下三方・神戸——昭和31年7月13日伊和神社々司からの神社に関する聞き書き。岡本さんから14日に風俗の聞き書き。

千種——鳥羽教授からの聞き書き。

069 越前杜氏 附 知多杜氏・員弁杜氏 昭31

B5判 横書き 252頁

昭和31年8月3日から同月7日に行なった越前杜氏の出身地方, 福井県下での調査記録, 同年8月12日から13日に行なった知多杜氏の出身地方愛知県下での調査記録, 日付け不明であるが, 8月に行なわれた員弁杜氏の出身地方三重県下での調査記録が収められている。杜氏の酒造, 年中行事と食物, 信仰などが中心。内扉に同題あり。

【目次】

1. 大野 2. 勝山 3. 永平寺 4. 吉崎(塩屋) 5. 三国 6. 褒 7. 鮎川 8. 柴崎(蒲生) 9. 織田 10. 糠・宮崎・宅良附 11. 厨 12. 武生 13. 道中記(以上目次に記載) 14. 糠 京大病院ニテ 15. 知多・西浦・小鈴谷・野間 16. 知多・豊浜・武豊・半田 17. 伊勢

[内容]

大野——杜氏組合（大野市役所内）における聞き書き：組合の構成，酒造家，組合員。大野高校における南部エミ子先生からの聞き書き：同高校と大野城，城下町と現状，ニンジンづけ，スシ（サケ，マス，鮎，五目，イナリ，のりまき），年中行事と食物（正月雑煮，小豆粥），青田まつり，節句（3月3日～4月3日）・彼岸・節句（6月5日），灌仏，盆，祭り，赤飯，ズイキ，里芋，町の寺の宗派，年頭祝，勝山の布市，半夏生（大野，坂井郡竹田），紺布，名物，当地の家のつくり（図示）。願成寺における聞き書き：河濯大権現，祭神由来，寺の現況。

勝山——板基の女将からの聞き書き：年中行事と食物（正月雑煮，節句，盆，猪の子等），織物，紺屋，祭，鮎，にしんづけ，ホーキの実，ズイキ，正月料理，左義長，七夕，タバコ，家業，夕食献立。開禅寺における聞き書き：宗派，河濯大権現。久保氏からの聞き書き：地杜氏，勝山の杜氏の歴史と現在，勝山の歴史，開禅寺と河すそ祭，勝山・大野の映画館料金。島田氏からの聞き書き：小原の民俗，酒造，雑煮，主食，結婚，相続，宗門帳，キリシタン関係遺物，當屋，山之神，おみきすすぎ，ホーキ，朴の葉，食用植物，若連中，元服，トチモチ，縁組，雉，胡瓜，産，一乗谷，出土人骨，木地屋，民具，染織，石徹白，盆，神社（図入），ガマの穂，牛首つむぎ，アゼ織り，イロリ。河□氏からの聞き書き：神社，郷土史家，民俗品，民俗行事。

永平寺——中森殿司からの聞き書き：寺内の組織と役，日課，総持寺，住職，僧堂，世襲，雲水，修業。菅原典座和尚からの聞き書き：典んづけ，浜名みそ，瓜漬，鮎。

褒——島国氏からの聞き書き：杜氏の講習，酒屋の旧家，主な杜氏，祭，年中行事と食物（正月雑煮，祭，節句，初むろ，新酒，コシキタオモ，鮎，糘づけ，ホーキの実，そばおとし，盆，七夕，彼岸，切芋）。高橋氏からの聞き書き：阿弥陀割，記録類，紺屋，浅倉氏残党，為寄村と紺屋，近世文書，あいさつ，溜池の碑，大福帳写し（所有者の記載なし）。聞き書き（話者の記名なし）：年中行事と食物，ほうけんの実，ソダ・ボタモチ・半夏生，祭，赤飯，鮎，糘づけ，節句，盆，河濯権現信仰，講，家の間取り図，方言，蚕と馬の信仰。

鮎川——中学校の出村先生からの聞き書き：村況（戸数，学校，産業，出稼ぎ，海女），婚姻（婚約，結納，仲人，結婚式，足入れ，里帰り，荷物，自分の経験例），家の間取り図，庄屋，神社，年中行事と食物（正月雑煮，節句，半夏生，彼岸，七夕，猪ノ子，船玉，山之神。漁夫3人からの聞き書き：産業，船玉まつり・信仰，清水谷。バスの中で聞いた方言。

茱崎・蒲生——越廼中学校での聞き書き（話手の記名なし）：雑煮，小豆善哉，糘づ

け、近辺の産業（大味、茱崎、蒲生）、鮓、学校、酒屋。橋詰一雄氏からの聞き書き：火災、近世の支配関係、近世古文書。酒屋のおっさんからの聞き書き：ホーキサ、漁業、清水町。

織田——聞き書き（話手の記名なし）：年中行事と食物、雑煮、七草、節句、にしんづけ、猪の子、半夏生、神社祭礼、鮓。

糠——杜氏組合における聞き書き（大浦慎一、浜松伊之助の両氏からの聞き書きと推定される）：酒屋、越前の糠氏、下人、伏見への交通、暮の送金、神社の堂、糠の起源、糠杜氏組合沿革、糠杜氏と伏見の各酒造の関係、堺・灘・笠置・玉水・八幡・愛知中川・歌垣・金沢・福井・兵庫・フセ田・鯖江・福知山の酒造と杜氏の関係、主な酒造の米の高、糠の墓、酒造功労者、切支丹遺跡。糠の橋本屋での夕食の献立、朝食献立。学校前の墓の銘。大浦孫三郎氏からの聞き書き：氏自身の懐古譚（杜氏としての修行、経験）、伏見への交通、臼ふみ、宇津尾杜氏、県内良酒、村の産業別戸数、年中行事と食物、正月雑煮、七草、左義長、船神、山之神、養蚕、エビス信仰、祭礼、七夕、河濯権現信仰、盆、彼岸、猪の子、半夏生、報恩講、ホーキ、土地利用状況、近辺の産業、縁組、婚姻（仲人、式、膳、足入れ）、宮参り、大宿、染織、十九社。小学校の谷野先生からの聞き書き：年中行事と食物（正月雑煮、七草、節句、河濯祭礼、七夕、彼岸、半夏生、田植の朴葉めし、里帰り、猪の子、節分）、鮓、糰づけ、学校。大塚先生からの聞き書き：年中行事と食物（正月雑煮、鮓づけ、鮓、節句ちまき）、祭礼、杜氏、いろり。

厨——城崎北小学校の津田先生からの聞き書き：年中行事と食物（正月、節句、河濯権現信仰、サツキマツリ、舟神、山之神、盆、宗派、祭礼、ボタモチ、鮓、金比羅信仰）、村誌、庄屋。

武生——墨流鳥の子紙製造者、広瀬治左衛門氏からの聞き書き：源氏小紋島の子紙の製造法、墨流しの歴史、価格、染料、帯、色紙。『無形文化財墨流の由来』のリーフレット貼付。芳春寺における聞き書き：宗派、河濯大明神。

道中記——盲学校の先生からの聞き書き：鮓、酒。8月3日から8月7日までの日程、同期間の献立、京福電鉄の『沿線案内』、大野名産けんけらラベル、菊酒由緒書、『河濯大権現略縁記』のリーフレット（宝円寺）、8月3日から7日までの支出表、あゆ寿司包紙、箸袋（今庄駅）、鯛鮓包紙、箸袋（敦賀駅）、勝山市料理旅館板基の領収書、箸袋、鮎川の石丸旅館の領収書、吉崎の相茶旅館箸袋、北国新聞、福井新聞の新聞名切抜き等を貼付。

糠／京大病院ニテ——京大病院における宮本氏、橋本氏からの聞き書き：杜氏として

の経験談，加賀杜氏・越後杜氏，月給。

知多・西浦・小鈴谷・野間——西浦小学校の入山先生からの聞き書き：年中行事と食物（正月，節句，盆，農やすみ，彼岸，祭，猪の子）。古場の瀧田酒造における聞き書き：知多杜氏，酒造家，杜氏。小鈴谷バス停における聞き書き：年中行事と食物（正月雑煮，節句，祭，押ズシ，盆，酒働き）。野間における聞き書き：餅つき。

知多・豊浜・武豊・半田——豊浜の東西屋の夕食献立。東西屋における聞き書き：小学校のボイラー，年中行事と食物，正月雑煮，舟神，七草，山之神，節分，節句，彼岸，花まつり，農あがり，川裾まつり，七夕，盆，祭，鮓，氏神，エビス講，猪の子，婚姻，小学校，朝食献立。山長の斎藤駒吉氏からの聞き書き：古文書，万葉の地名，東風，初神，年中行事と食物，正月雑煮，鮓，庄屋，文書所在について，船，漁法，赤禪，夜這い，婚姻，染織，漁網，酒屋，土地利用。武豊における聞き書き：年中行事と食物（正月雑煮，節句，鮓），学校，給食室間取り図。板垣氏からの聞き書き（半田と推定される）：カプトビール，酢屋，米酢，昼食弁当献立，名古屋の寿司店紹介，海老，師崎から内海の漁業，酢醸造業，料理づくり方アンケートの結果（中部都村の三千人対象），豊浜の東西屋旅館の領収書と箸袋，おにぎり弁当包紙と箸袋（名古屋駅），サンドウィッチ包紙（米原駅），8月12日から8月13日の日程，同期間の献立。

伊勢——白子高校における聞き書き：酒屋，年中行事と食物（正月雑煮，舟玉，山之神，猪ノ子，年越し，節句，野上り，花まつり，菖蒲湯，川裾祭，盆，婚姻，月見，七夕，盆踊り，伊勢講，他講），御弁当包紙，箸袋（京都駅），（なお，この調査は員辨杜氏に関するものであると思われるが，その日時が明記されていない。この弁当包み紙の印は薄くなっており，8月の何日であるか断定できない）。

070 島根県庁文書ノ四 諸家 難船 昭三二

B5判 横書き 140頁

内扉には「県廳文書」と記されている。文書の写し，または抄出であるが，内容の箇条書きも一部含まれている。背表紙に昭三二とある。

[目次]

1. 人狐 2. 難船 3. 差出帳類 4. 日記 差出控 5. 古文書 旧記

[内容]

人狐——「寛政6 甲寅正月御触，人狐之儀御触」，「文化3 年付召仕小人の人相書・服装」，「文政4 年 人狐についての文書」，「天保13年 書物統制についての文書」，「文久3 年 軍用硝石についての文書」。

難船——「越中国射水郡放生津新町油屋七兵衛の船の積荷目録」，「越中国富山壳葉

師五右衛門の荷物目録」, 文政11年の奥書がある。

差出帳類——「萬差出帳」と次頁にある大根嶋 宝暦13年末3, 16の日付あり。(明治2年の写し), 島の大きさ, 周囲の土地への距離, 村の名, 戸数, 人口, 持舟, 寺院, 神社, 舟役などの諸役を記す。宝暦4年, 神門郡南方(大正10年写し)。本田石高, 小物成, 人口(職別人口), 家, 牛馬の数, 村町役人の数, 灌漑施設の数などを記し, 最後に村別細説(人口, 軒数, 石高等)を記す。「明治4年, 大原郡, 村別明細」, 「明治8年, 仁多郡, 村別明細」, 「寛保元年, 寛政4年の村別明細」, 「寛政4年12月飯石郡中萬差出帳(大正3年写)」, 「宝暦4年以降多根村萬差出帳つづり(大正3年写)」この内容は宝暦4年, 寛政4年, 明和8年のもの, 最後に明治10年, 村誌編輯志料, 寺社の記載とある, 「十郡村浦石高御成稼隠岐国共 広瀬御分知村名寺社領高宗門人高御制札場所並数御茶屋御番所ヶ所郷町数寺社堂家牛馬御立山失箇山農家役人給来威箇鉄山鉄穴炭釜紙漉名所旧跡名産松江橋々数(明治45年写)」。

日記・差出控——「宝暦拾庚辰年拾月朔日ヨリ日記(大正3年写)」主に米相場(松江, 尾道, 大阪)についての記事, 「元治2年乙丑正月吉日奮記(大正3年写)」, 「慶応2年丙寅正月萬見聞留(大正3年写)」, 「宝暦4年御制札拾三枚写し」, 「長澤家古文書」天和3年, 宝暦2年, 享保12年の3通, 「菰川郡平田町石橋弥八蔵(大正3年写)」, 「寛政3辛亥年世事記録(明治45年写)」, 「鋳物師ノ旧記由来概要(大正4年写)」, 「歳時記 安政3年辰3月より(大正1年写)」正月・二月分, 「(畠谷氏蔵書) 覚蝶, 登城御奏者, 御先番, 御代参, 雑(昭和3年写)」, 「文化14年巳五月願出江戸日記(大正4年写)」, 「寛政年中ヨリ文政十, 七月迄, 記録(大正4年写)」, 「寛政3辛亥年世事記録(明治45年写)」, 「安政6年差出留(大正12年写)」。

古文書・旧記——「那賀郡石見村岡本文書」巻1, 2をはじめとして12種の旧記・古文書の内容覚え書き, 書写年代の明らかなものは大正1年より3年。

071 島根県庁文書 酒造・巡見・諸家

B5判 横書き 228頁

内扉に「島根県庁文書(2)」と記す。文書の年代は, 近世が大部分で酒造, 幕府の巡見, 産業などの資料がある。

[目次]

1. 酒造 2. 巡見 3. 産業 4. 船 5. 井尻・内田 6. 布智・春日 7. 八川・糸原 8. 雑 9. 武家

[内容]

酒造——「元治元年九月 御用留」, 「天保五年午正月～未十二月, 文政十三年, 天保

八年，文政十一年，文化年間，天保十一年，天保十五年御用留」，「天文二年使用日記」，「慶応四年 慶応三年正月吉日御用留」，「安永五年酒屋宝座日記」，「寛政十一年広飯秘鑑」，「文政5～9年御用留」，「寛政十一年広飯秘鑑（酒屋五軒分運上銀）」。

巡見——「享保十七年十月二十三日御目附様 御巡見仁多郡 御通筋村々手鏡帳」，「寛政元年四月大田北村案内帳」，「遠藤源五郎様御巡見書」，「天保九年四月御巡見様御尋之趣御答申上候覚書」，「天保九年四月公儀巡見使諏訪縫殿様巡見使一行名簿」，「延享三年五月御巡見様御尋事可申披覚書」，「延享三年御巡見御用留」，「寛政元年御巡見様御用諸事手配書」他二冊，「寛政元年五月私領御巡見様御案内手扣」，「公儀巡見使石尾七兵衛様御案内口上書」他三点，「寛政元年四月御料御巡見様御用留」他二点，「御料御巡見案内実録」，「天保九年九月私領御巡見様御案内帳」，「御巡見様御尋之節御答申上候覚書」，「天保九年正月御巡見様御通行一途留帳」，「寛政三年正月仁多郡諸色値段書出帳」。

産業——「享和元年六月朔日雲州干鮑新規稼取極候受書」，「述摩郡湯里村竹内正重文書」他七部，「大原郡木次町紙市 専行願書」，「文政八年九月南村油木御運上木高寄人別帳」，「文政八年九月南村油木減少仕候ニ付愁訴申出御運上錢猶稼被仰付ヶ所別帳」，「鉾山発達史」，「寛政十一年広飯秘鑑」，「御願申上一札之事（借米願）」，「古書古記」，「寛政十一年広飯秘鑑」，「天和二年十一月千家直治公火継之旧記」，「御用留」，「永代売渡申田畑之事」，「温泉津村巳年畑方新開改帳」，「簸川郡日郷崎村古庄武之助蔵文書」，「仁多郡横田村岩屋寺蔵文書」，「御用留」，「文政九年憶中覚帳」，「郷方古今覚書」，「大原郡木次町野家文書」，「宝暦七年十一月仁多郡湯村槻屋村卯秋紙漉御法被仰渡承知割形帳」。

船——「天保七年正月・文政十一年七月～十二月御用留」，「五十猛・林受吉蔵願書控等」，「目久曾出入訳書」，「御制札拾枚ノ内字誌浦」，「延享二年十月直政公御直書」写し2通，「寛政十一年広飯秘鑑」，「簸川郡日郷崎村古庄武之助蔵文書」，「長崎道中記」，「伯耆国西伯郡經久学蔵文書」，「寛政四年三月改口田儀灘損願書類数々留」，「飯石郡飯石村佐藤家古記録」。

井尻・内田——文政二年から明治三年までの「御用留」八点。

布智・春日——「安政十二年，文政十三年，文政十一年，天保十三～十五年，文化御用留」，「寅年御巡見衆道具印並人数附」他三点一冊，「文政十一年，文政五～九年，嘉永二～三年御用留」。

八川・糸原——「糸原家御用留（八川糸原武太郎蔵）」，「糸原家御用留」。

雑——「寛政十一年広飯秘録」，「出雲山田氏家譜要略 抜萃」，「簸川郡日郷崎村古庄

武之助蔵文書」,「神能の由来・神能考」,「阿位の見聞雑誌八束郡津田村永井列蔵文書」,「戸籍正月,明治四年,明治三年四月,明治二年三月三日御改正後,午八月御用留」,「諸用日記」,「郷方古今覚書」,「岡本甚左衛門事績文政九年憶中万覚帳」,「寛政四年三月改口田儀灘損願書類数々留」,「天明四年八月村定法物見合帳」。

武家——「斎木様江天保二卯年入御覧六月言上の覚」,「寛政四年正月二十六日松江御家中知行高順附」。

072 雲州献立集

B 5判 横書き 174頁

年代は不明であるが,内扉に「島根県庁文書 献立 食物 ト蔵献立」とあり島根県庁文書より,献立,食物に関する文書を写しているのでこの順番にいたした。

[目次]

1. 献立／食物 2. 献立／ト蔵

[内容]

献立／食物——田中精一蔵 田中朝房「秋大凶作日記」(天保7年12月～)のうち喰物の記を写書,第346号の4母黒藩「御用留」(天保8,天保12,天保13)のうち食物に関する公儀御觸書,第273の2「御用留」(文化),第102「寅年御巡見衆道具印並人数附」第4点合冊より 石州聞書の献立,第1300～1「二度之御巡見様御社参覚」等3点合冊より 巡見日程と献立,第906～11「廣飯秘鑑」より献立,第96「御巡見御用留」より 公儀御精進日之事料理材料等,第壹,300号2 21枚,「寛政元年官使両度御巡見御社参ニ付諸事留帳」より,御巡見御社参ニ付御料理献立のうつし。第447号「弘化五申二月七日御殿於御軍役御張紙之間御料理被下置候節順列心得書写」(ト蔵扣)28枚より料理心得・作法・献立,第906～11「廣飯秘鑑」132枚より 田植給物のマセ飯についての觸,第3546号「(寛曆七年)長州参着并徳山岩見日記」13枚より 宿の献立,第1299・2「御順見御社参記」(延享三年寅六月)36枚より献立,「寛政三年酉五月大御順見御渡海御登山一件」より献立。第1299号,一「天保九戌閏四月十一日御巡見御社参記」32枚より献立。第壹,300号ノ3「文化六年巳四月廿九日公御役人高木氏御社参諸色入用覚帳」他二編より 文政六年社参の節の献立,第1726「諸用日記」より 金山寺味噌伝来之事,第1310「御料御巡見様御用留」より献立,第695「御巡見ニ付何備心得日記」(天保9)より 御本陣御献立等献立。

献立／ト蔵——第647ノ1「献立其一」(弘化2年正月吉日),第1684号ノ1,2,「献立其一」(弘化2年正月吉日)414枚より 料理人言上書・客の名簿・献立・饗応役割

・千秋万歳楽写し、以下、各々の場合の献立を記している。「弘化二巳九月十九日立毛御用之節地方様御宿」,「弘化三年四月十三日元祖貳百年忌法事」,「弘化三年九月八日客来」,「弘化四年四月二日郡奉行小川太祖右衛門様御宿仕候節」,「柳多様御巡行（弘化4）」,「法事（静安院泰嚴寿清大姉,茂林内貞信女）（弘化4,5,10）」,「検見一行（弘化4,9,11）」,「代々階具合羽,生涯名字御免の祝（弘化4,7）」,「五蔵帯直し祝儀（弘化4,11）」,「有次様御巡御（弘化5,3）」,「出世御礼のための寺方招待（弘化5,4,19）」,「玄英童子33回忌（嘉永2,5,10）法事」,「立毛御用（嘉永2,8,10）（ただし記載なしの注あり）」,「仁沢宗安居士十三回忌（嘉永2,10）法事」,「つね帯直祝儀（嘉永3,11）」,「安政五年道菴正恒居士四十九日法事」,「生涯お目見得の祝（安政2,4,29）（祝儀は10月に行なわれた）」,「御勝手方御奉行并鉄方様順御（安政6,3）」,「祖母上様87之賀の祝い（安政6,3,8）」,「道菴正恒居士一周忌（安政6,8,29～）」,「於新宅祖母上様88御祝之節（安政7,2,16）」,「安政七申三月十四日祖母上様八十八御祝昼客表座敷」,「菴正恒居士三回忌法事（万延元,8,29～）」,「菊月七日地方頭取佐野周右衛門宿船通山上」,「万延元申十二月五日并尻間屋分養女罷越候節」。

073 丹波大山一 聞書

B5判 横書き 170頁

昭和32年「丹波国多紀郡丹南町旧大山村調査記」で地域別の聞書き。「丹波大山」のタイトルで製本・未製本あわせて17のフィールド・ノートがある。製作年代不明のものもあるがこの時の調査として並べてある。他に、アンケートにも同タイトルのものがある。

[目次]

1. 一般 2. 追入・宮 3. 荒子新田・上 4. 高倉・石住・一卯谷 5. 新・徳永・町
6. 田・長安寺 7. 北野新田・北野・下・明野

[内容]

一般——中学統計（学年別生徒数・地域別生徒数・教員担当課目）、村勢統計、小学生数、産業統計、学校の先生から教育と杜氏に関する話。

追入・宮——酒屋その他の家系と屋敷、社寺と講、交通、屋号、神仏、寒茶、大山宮、生活体験談、酒屋ゴム印集、杜氏の行き先、山での作業、大来寺の現況。

荒子新田・上——屋敷神、祖先、講、部屋割、年中行事、酒の味、杜氏の体験談、中門造、花卉栽培、農産物、紺屋、機織、酒銘柄、神祭り、石碑。

高倉・一卯谷——檀家、住職系譜、離村数、葬式風俗、年中行事、百日後家、出か

せぎ、砂糖入番茶、お札、杜氏の風習、蔵人、産見舞、婿入り、雑煮、山のしごと、嫁名、家系、機織、人の一生。

新・徳永・町、田・長安寺——村の由来、盆と正月、杜氏の行先、講、杜氏の体験談、神社と祭り、モンペと脚絆、魚の経路、床、他所からの這入り、家々の伝来、家祈禱、株、昔の歌、油屋、紺屋、酒屋。

北野新田・北野・下・明野——愛宕神社の由来、酒造家、道標、寺、講、村の生活状態。

074 丹波大山二 外廓聞書（篠山・岡屋・沢田・宮田・柏原）、死亡原因、戸籍（高倉・一卯谷・明野）

B 5 判 横書き 228頁

戸籍の抜書きと死亡者の年令と死因の表、調査地の外廓をなす地域での聞書き。

[目次]

1. 大山死因表 2. 大山戸籍 3. 外廓——篠山、東岡屋、沢田、宮田、木之部、板井、柏原

[内容]

戸籍——高倉・一卯谷・明野各集落の戸籍から家族の名前と生まれ年月・婚姻関係を抜書き、姓の表、縁組数。

死因表——役場の資料から明治43年から昭和32年までの死亡者の月日と集落名と氏名年令死因の表。

灘——菊正・白雪で会った丹波杜氏 畑栄吉・今井忠孝氏より：水配、摺配、菩薩、直し灰、醪かけ、菊正、会津若松、天田部、宇川、小西藏、衛門、スッポン仕込、余り米、精米、灘の水配、速醸。

篠山——台湾の酒、紅酒、米酒、考紅酒、紹興酒、中支の米、日本の米の分布、ユルゴダング、但馬小代の稗食、間取り図、藩士の役名、城、寺。

東岡屋——諏訪神社祭礼、御頭屋、頭わたし、頭屋が預るもの、神輿、神主、区長、庄屋、天道花、粽、ぞうに、スシ、神饌、神事。

沢田——雑煮、天道花、脚絆、松尾講、山神、いせ講、愛宕講、春日講、念仏講、観音講、寺、鰻祭り、当家、頭わたし、鯛祭り、もちつき、式日、スッテンテン、踊子、おみき持、相伴人、猿田彦、働き人、祭礼、供物、玉串、膳、席次、諸役、祭りの料理、正月料理、機おり、綿、藤、麻。

宮田——麴、甘酒、酒名、旧家、寺、五穀豊饒のいのり、柏餅、チマキ、利酒、墓・ミバカとキヨバカ、年中行事、食事・鯖すしと巻きすしと餅と甘酒、猪の子、正月

料理，地神，株，縁組，出生儀礼，講，伊勢大神楽，墓掘り，婚礼，村八，祈禱，山椒，榎，宿屋での19日夕から26日朝までの献立，寺，養老院。

西木之部・上板井——寺と宮さん，観音講，山之神，ヤシキ神，地神，株，講，猪の子，行者，柏もち，ちまき，神職，祭り。

柏原・31/VII '57——米ふみ，百日，天神祭の料理，八幡様の料理，間取り図，柏原にすぎたもの，武家やしき，柏原藩士，士族の内職。

075 丹波大山四 園田文書イ 吉事献立・系図

B 5 判 横書き 110頁

大庄屋の園田家の文書の写し。

[目次]

1. 園田文書——系図，年中行事，吉事横帳類

[内容]

系図——秀郷8世の孫成実からの系図。年代は元亀1から大正9年。

年中行事——明治十年分年中行事（明治10年6月から26年，行事の人数・賄・献立・入用）。

祝儀——「太助元服祝儀帳（文化2年）」，「お柳之節嫁見祝儀帳（文化4年）」，「目録らしき文書」，「お節嫁見祝儀覚帳（文化8年）」，「収引取并貰物万心覚（文政3年）」，「厄年祝儀録（文政12年）」（覚の文章と献立が付記），「出生男子祝儀帳（文政13年）」，「おひさ引取に付祝儀帳（文政13年）」，「披露宴献立」，「巽蔵普請帳（天保3年）」（祝膳献立付記），「多之助瘡瘡見舞覚帳（天保5年）」，「御母様瘡瘡御熄ニ付見舞万事取斗始末（天保6年）」，「出生ニ女子祝儀心覚帳（天保6年）」，「多祐婚礼并万事心おほへ帳入袋（天保6～明治11年の横帳5冊在中）」，「厄悦ひ貰物帳（天保6年）」，「大三郎婚姻祝儀万事心覚帳（天保10年）」，「家督并ニ婚儀披露（嘉永4年）」，「目出度（明治3年）」，「祝儀貰物帳（明治11年）」，「お八重嫁入一件（天保10年）」（献立，天保10亥大三郎女房引取ニツキとも），「壮年賀 歛祝儀帳（天保15年）」，「見舞心覚帳（嘉永2年）」，「相続之節祝儀帳（嘉永4年）」，「田文平 聳入（嘉永4年）」，「母様還暦之御賀祝儀帳（文久2年）」，「出生男子祝儀帳（元治元年）」，「初老年賀祝儀帳（明治4年）」，「出生男祝儀帳（慶応4年）」，「お千勢田氏に嫁入一件（明治7年）」，「婚礼祝儀帳（明治9年）」，「結納目録（明治19年）」，「お量引取祝儀帳（明治19年）」，「聳入の土産（明治20年）」，「御献立ひかゝる（明治23年）」，「見舞到来覚（明治29年）」，「到来見舞扣（明治31年）」。

076 丹波大山五 大山文書イ 香奠調査・講当

B 5 判 横書き 134頁

講当と香奠帳の写し。

[目次]

1. 講当——宮村愛宕講, 追入明神講, 新村伊勢講 2. 香奠帳——上村石川氏, 高倉岡田氏, 荒子新田大崎氏, 長安寺森本氏

[内容]

宮村愛宕講(田中弘氏)——「明治41年調大山宮村下愛宕講(一箱)」, 「明治23年愛宕参宮造用帳」, 「講当改正規約及献立記(明治41年)」, 「愛宕講当文帳(文久2, 慶応4, 明治7, 9, 13, 14, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29年) 賄

いと決算の覚」大正8年まであるうちの抜書き。

追入明神講(水船実二氏蔵)——「明神講覚帳(文久3～慶応3年)」, 「明神講覚帳(明治2～15年)」, 「明神講覚帳(明治17～昭和11年)」。

徳永・新・伊勢講(酒井勝男氏蔵)——「明治29年度村費地価戸数割勘定帳」, 「明治33年度村費勘定帳」, 「表紙欠・講順や賄の覚帳(安政5～元治2年)」, 「伊勢講当文勘定帳(明治12～22年)」, 「伊勢講当文帳(明治22～39年)」, 「伊勢講当文帳(明治39～大正2年)」, 「伊勢講当文帳(大正3～10年)」, 「伊勢講当文帳(大正11～昭和5年)」。

上村・石川秀一香奠帳——「香奠帳(安政5年)」, 「香奠帳(慶応3年) 亮雄信士」, 「香奠帳(明治14年)」, 「香奠帳(明治24年) 石川さと」, 「香奠帳(明治24年) 石川しげ」, 「香奠帳(明治24年旧8月)」。

高倉・岡田丈太郎香奠帳——「御香奠帳(明治21年)」, 「香奠帳(明治42年)」, 「香奠帳(昭和7年)」。

荒子新田・大崎丑太郎香奠帳——「御香奠帳(文政2年)」, 「御香料帳(天保4年)」, 「香奠帳(嘉永2年)」, 「御香奠帳(元治元年)」, 「香奠帳(大正5年)」。

長安寺・森本六太郎香奠帳——「香奠帳(嘉永5年)」, 「香典帳(安政7年)」, 「香奠帳(慶応3年)」。

077 丹波大山七 園田文書ロ 酒造関係天明～文政

B 5 判 横書き 154頁

大庄屋の園田家の文書の写し。

[目次]

宮村・園田文書／酒造関係——横帳天明～寛政, 横帳享和～文化, 横帳文政, 文政

八年廻酒一件

[内容]

横帳天明～寛政——「酒造書上帳（天明7年）」,「酒株高造高書上帳（天明8年）」,「多喜郡酒株他表紙なし（天明8年）」,「酒造方御改帳（天明8年）」,「酒造方諸入用割帳写（天明8年）」,「酒造方諸道具御改帳（寛政1年）」,「酒造方諸道具御改帳（寛政4年）」。

横帳享和～文化——「酒家諸入用割帳（享和元年）」,「酒造十分一役米（享和3年）」,「桶改封印帳（享和3年）」,「文案と思われる写し（文化3～5年）虫食い多し」,「文化年中酒造棚卸（嘉永3年）」,「酒造売上勘定（文化4年）」,「酒造売上勘定（文化5年）」,「酒造売上勘定記（文化6年）」,「次来卸酒掛方勘定記（寛政7年）」,「酒造売上ヶ勘定記（文化7,8,9,10,11,12,13,14年）」。

横帳文政——「文政稔中酒造棚卸台帳（嘉永3年）」,「酒造売上ヶ勘定記（文政2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12年）」。

文政八年廻酒一件——「廻酒新規願立一件（文政8年）」,「廻酒新願諸記録（文政8～9年）」。

078 丹波大山八 園田文書ハ 酒造関係書信

B5判 横書き 106頁

大庄屋の園田家の書信・觸書・証文の写し。

[目次]

宮村・園田文書／酒造関係——書信・書信・觸書・証文

[内容]

書信——「差入申一札之事（嘉永5年）」,「約定一札之事（文政8年）」,「引合之事（文政10年）」,「乍恐奉願頼仕口上（文政10年）新酒造願・原稿」,「乍恐奉愁願侯口上（天保3年）廻酒の行事願書」,「乍恐奉内願口上之覚（天保5年）原稿・善三郎酒造願」,「荷物輸送の断り状（年次不明）」,「西京ニ而十二人集会江戸へ出状之覚（宛名・日付なし）」,「出店断り状（年次不明）」,「江戸積酒造屋積方之儀（文政8年）」,「買酒苦情応答書状（年月不明）」,「江戸送り酒の連絡状（3月25日）」,「摂州伊丹泉町加勢屋小助様と上封の書状（5月4日出）虫食い内容不明」,「大山上村真佐蔵殿用書と上書の書状（5月8日）」,「江戸酒問屋より来書（嘉永6年）」,「四月十二日を後入用覚（人名以外内容不詳）」,「七夕之御祝儀目出度」,「売附仕切目録（嘉永6年）」,「薬仕切之事（嘉永5年）」,「通（腐食甚だしく内容ほとんどなし）」,「正月16日出24日着書状（荷送り連絡状）」,「入船覚（2月8日）」,「11月16日発・2月9日着書状（酒

の船入津の件)」、「入船覚(11月19日・11月26日)」、「覚(丑2月9日)」、「入船覚(正月23日・正月26日)」、「無名虫くいダラケ書状(3月12日)」、「追啓で始まる書状(11月26日)」、「別啓で始まる書状(11月26日)」、「追啓で始まる書状(正月6日)」。

書信・觸書・証文——「譲り申酒株之事(享保6年)」、「売渡申酒道具事(享保18年)」、「預り申酒株譲り証文之事(丑12月13日)」、「譲り相渡申酒株之事(享保18年)」、「覚(正月22日)」、「預申銀子之事(享和3年)」、「酒造抑制の觸書の抜き写し」、「覚(注記に日付ナシとあり)」、「寒酒40石(11月7日)酒造用具封印して酒造を40石とした書面」、「乍恐口上手扣(申4月・酒造業を続けたい願い文)」、「店売之儀御定直段他」、「他所売捌他」、「乍恐奉願上口上書(文化3年)酒造渡世を続けたい旨の願書)」、「口演と題するかざりやの型録」、「荷物船積所の所と名」、「追啓で始まる書状(3月12日)酒の着荷の連絡文」、「御度目出度で始まる書状(正月6日)相場の連絡」、「六日限一筆致で始まる書状」、「覚(嘉永5年)江戸へ酒積下しの書状」、「改年之御度…(正月29日)」、「西田何太郎船送状(子10月)」、「新酒15駄受(正月26日出2月9日来)」、「其地2艘中国4艘入津御座候の書状(子12月16日出丑2月九日着)」、「子11月11日出丑2月9日着書状」、「其地9艘中国8艘ノ入津御座候の書状(子12月6日出極月下旬)」、「子12月21日出丑2月9日着書状」、「番船着案内の書状(正月19日出丑2月6日来)」、「着船連絡状(正月26日)」、「追啓当月割…の書状(2月16日)」、「入船覚(3月2日)」、「船積申送り状」。

079 丹波大山九 西尾文書イ 酒方諸記録他

B5判 横書き 64頁

西尾家の酒造関係文書の写し。

[目次]

1. 西尾文書酒方諸記録 2. 西尾文書文政八年廻酒一件

[内容]

酒方諸記録——「酒方諸記録」、「天明8年酒株造高書上帳写」、「享和2年造酒書上帳写」 「覚(享和3年)」、「乍恐奉願上候口上之覚(享和3年)」、「覚(享和3年10月27日・亥10月23日・亥11月23日・亥11月24日)」、「乍恐奉願上口上書(文化3年)」、「酒家中へ連絡文(寅11月14日)」、「預金申銀子之事(享和3年12月)」、「覚(年月不明)」、「乍恐奉願上候口上覚(享和3年7月)」、「文化6年大山酒家中源吾方会合」、「文化6年酒家年番受取」、「廻酒仕込水(文化6年)」、「廻状の控(12月19日)」、「五尺桶の価(文化6年)」、「五尺桶の規格(享和2年)」、「酒株譲り願書(文化7年)」、「譲相渡し申候酒株之事(文化7年)」、「酒仕込水之事(文化7年)」、「申冬酒

仕込水定（文化9年）」、「桶代金（文化7年）」、「酒家年番受取（文化10年）」、「杜氏交替の事（文化10年）」、「酒仕込水（文化11・12年）」、「酒火入（戌年）」、「同（亥年）」、「酒桶竹入用・古米モ為造酒之事・白酒作法・子ノ酒火入・年番よりの触書（文化14年）」、「酒方諸記録其二」、「五尺桶の価（丑年）」、「酒年番交代（文化14年）」、「杜氏交替の事（文化14年）」、「酒仕込方」、「酒価格通達（10月11日）」、「年番交替（文政1年）」、「男柱仕替入ル（文政3年）」、「桶の価（文政4年）」、「酒屋年番交代（文政8年）」、「京都御触書（文政9年）」、「新酒造一件之扣（文政12年）」、「一札之事（文政12年）」、「六尺桶仕立（文政13年）」、「五尺桶仕立（天保2年）」、「酒造年番（文政13年）」、「六尺桶寸法仕立（天保3年）」、「文化子年御公儀へ書上ケ写」、「酒船仕立（天保3年）」、「御触書（天保2年）」、「覚（天保2年）」、「覚（天保2年）」、「年番より廻書（天保3年）」、「郡取ノより廻書（天保3年）」、「御触書（天保4年）」、「廻状（天保8年）」、「明治8年5月清酒腐酒売上税金先納目録」、「其二見聞記」、「其三見聞記（文政11年）」。

文政八年廻酒一件——「酒方諸記録其二・文政8年廻酒一件・約定一札之事（文政8年）」。

080 丹波大山十 西尾文書口 雑 見聞記 年時考 来客記

B5判 横書き 188頁

丹波大山における様々な記録、文書の写しを合本したもの、多くの文書に、「西尾邦直」の名がみえ、西尾氏に伝来したものであらうと考えられる。

[目次]

1. 西尾文書／雑 2. 西尾邦直／見聞記1～3（享和3～文政11） 3. 西尾文書／年時考（天明6～天保9） 全3冊 4. 西尾文書／来客記付献立

[内容]

雑——「寅正月 大阪表御用向手扣 西尾与左エ門」、「弘化八末年十一月京撰筆記」、「文化9年申3月朔日発 京撰筆記」、「天保4卯2月 大乘寺経栄上人継目次来記録」。

西尾邦直／見聞記1～3（享和3～文政11）——「見聞記」、享和三年癸亥晩夏とあり、様々な薬・菓子・酒などの製法を記す。「其二見聞記 西尾邦直」文化10癸酉年とあり内容は先の見聞記と同様であり、さらに病氣に対するまじないなども記す、また俳句の写し、民間療法を記した巻物の写し、「其三見聞記 西尾邦直」文政11年子2月吉日の記がある。内容は先のもので大差なく、産前産後の養生法や人を尋ねる法など一般的なまじないなども記す。

年時考（天明6～天保9）全3冊——「年時考」天明6年正月よりの天候、稲・綿・小豆などの相場、天明7年の米・油・綿などの相場、天明6丙午年米値段記、天明7未初相庭、文政11子年の天候、相場、文政12丑年大阪初相場より12月までの相場、天候、以下、文政13年、天保2年、天保3年まで同様の内容を記す、「其二 年時考」天保3年9月～12月、天保4年、天保5年、天保6年、天保7年5月の天候、大阪米相場などを記す、「其三 年時考」天保7申年6月～12月、天保8酉年、天保9戊年初相場、（相場はいずれも大阪）を記す。

来客記附献立——内扉に目次あり、以下その目次の項目を記す、1. 文政8酉4月9日客6人 2. 文政8酉5月3日斎 3. 文政9戊8月24日法事 4. 文政10亥年春還暦正月11日・12日・19日・20日・21日・27日・29日・2月4日 5. 亥5月3日祥当 6. 亥12月12日 7. 文政11子正月12日子供節会16日16人（台所） 8. 文政11年4月5日青山公及供 9. 文政11年5月3日お寺さん斎 10. 文政12丑4月24日年忌 11. 文政12丑5月3日斎 12. 同5月21日郡奉公一行 13. 同11月7日家老一行 14. 文政13年2月9日家老 15. 同2月24日御山方3人 16. 同5月3日斎 17. 文政13寅8月21日内藤様外2人 18. 天保2年5月2日斎 19. 天保3年2月10日禰多蔵役目賀酒 20. 同5月3日斎 21. 天保4年4月7日閑居棟上 22. 巳5月15日閑居うつり 23. 同5月15・16日村方一同 24. 同12月8日柏原覚右衛門外 25. 午（天保5）5月3日斎 26. 同8月7日法事 27. 同エビス講 28. 天保6年1月12日～20日病氣本復祝 29. 同2月24日法事 30. 同5月3日斎 31. 同郡方役人 32. 同10月19日エビス祭 33. 同11月18日病氣本復祝 34. 天保7年4月1日太子講 35. 同5月3日祥当とあり、いずれも献立が記されている。

081 丹波大山

B5判 8枚 B5変形判 57枚 A4判 7枚 他に変形の用紙が10枚同封されている 未製本

[内容]

豆腐・油揚げ・高野豆腐・焼豆腐・こんにゃく・素麺・干瓢・麸・豆・小豆・小芋・竹の子・松茸・みかん・白米・酒・醤油・酢・砂糖・みりん・小鯛・はまち・しいら・ぶり・しび・ひらめ・鰯・ほら・鯉・鮭・鯉・鯉節・鯖・雑魚・いわし焼・あじ・こち・章魚・烏賊・するめ・牛肉・鳥・鯨・罐詰の値段の推移・明治43年～昭和31年にかけての年令と発病の割合。丹波大山婚姻圏の地図。主な物価の動きのグラフ。凶事到来物の表。各種祝儀のもらいもの。各種祝儀の献立の材料。病氣見舞。結婚祝品…食料品。出産祝。講の宴会の献立材料。結婚祝品…衣料品。年令別死亡割合。乳幼

兇死因比較。自殺年令別分布。結核年令別分布。全死亡に対する各種死因の割合。丹波と四国との関連についてのグラフ（杜氏の出身・すしの種類・作業衣・平常衣）。

082 丹波大山 西尾文書公私録第1～第6

B 5 判 横書き 24枚 未製本

西尾文書の公私録の写し。

〔目次〕 なし

〔内容〕

西尾邦直の享和3～嘉永2年までの公私にわたる記録で、寛政6寅年の日記、寛政7年～享和2年までの諸記に続くもの。

083 丹波大山 西尾文書公私録所収酒記事

B 5 判 横書き 8枚 未製本

西尾文書の公私録中から酒についての記事を抜き出したもの。

〔目次〕 なし

〔内容〕

酒記事——「覚・土佐削木香」,「霰酒」,「アラレ之仕法」,「荷樽寸法」,「酒仕込水之覚」,「銘酒」,「酒仕込水之事」,「乍恐奉願上い口上覚」,「文化4（1807）巳2月お觸れ」のうち。

084 丹波大山 西尾文書御用日記

B 5 判 横書き 18枚 未製本

西尾文書御用諸記録等の写し。

〔目次〕 なし

〔内容〕

御用日記——御用諸記録。「寛政三年辛亥年七月 西尾与左ヱ門・御用帳」,「寛政3辛亥年七月 西尾與左ヱ門・御用帳」,「西尾邦直・其二御用方日記・其三御用日記」。

085 丹波大山 宮村／園田文書 酒造関係 横帳 嘉永

B 5 判 横書き 6枚 未製本

大庄屋の園田家の文書の写し。

〔目次〕 なし

[内容]

酒造関係——嘉永5年，園田多祐手控，申合定書連印帳の写し。

086 丹波大山 園田文書流れ帳

B 5 判 横書き 6 枚 未製本

大庄屋の園田家の文書の写し。

[目次] なし

[内容]

流れ帳——金銀出入覚・覚・覚・横帳・覚

087 丹波大山 1. 上村／戸籍 2. 追入／戸籍・荒子新田 在住

B 5 判 横書き 54枚 未製本

戸籍の写し。

088 鳥取

B 5 判 横書き 128頁

昭和32年から昭和36年頃の鳥取での風俗の聞き書きを綴ったもの。

[目次]

因伯 1. 加茂，智頭 昭32 2. 川原 3. 浦富 4. 若桜 4a. 鳥取漢医蔵書 5. 鳥取
家政学会 6. 松崎 7. 赤松，大山寺，倉吉 8. 伯耆 9. 生山 10. 夜見 野澤文書

[内容]

旅行中の各地での聞き書きと，個人の蔵書の書名リストが何人かに関して作成してある。

089 第一回研修旅行—山陰— 昭和33年

B 5 判 縦・横書き 149頁

昭和33年7月31日から8月6日の大阪学芸大学生生活文化研究会第一回研修旅行として，山陰の旅が行なわれた。その時の孔版印刷の旅行案内と，先生の旅行のノートとを合本したもの。

[目次]

1. 賀露 2. 河原 3. 鳥取 4. 佐摩 5. 安来 6. 松江 7. 講武 8. 加賀 9. 楽山 10.
本庄 11. 美保関 12. 大根島 13. 富村 14. 大社 15. 日御碕 16. 宇龍 17. 島根の
鳥 18. 宍道 19. 書込み 20. 道中献立 21. 観察票 22. 雑品・小物等 23. 旅行案内

[内容]

賀露——7月31日賀露での風俗、主に生業と食生活の聞き書き。

河原——7月31日河原での風俗の聞き書き。

鳥取——8月1日記載なし。

佐摩——8月1日佐摩での風俗聞き書き。

安来——8月2日和鋼会館での鉄穴流しの聞き書き。

松江——8月2日夜松江で竹崎老他からの風俗の聞き書き。

講武——8月3日講武での風俗聞き書き。

加賀——見物のメモ。

楽山——8月4日記載なし。

本庄——意味の不明なメモが2行。

美保関——漁業に関する風俗聞き書き。

大根島——八束村公報の切り抜きと農産物に関する聞き書き。

富村——8月5日富村での風俗聞き書き。

大社——記載なし。

日御碕——記載なし。

宇龍——海辺の男からの聞き書き。

島根の島——新聞の切り抜き。

穴道——八雲荘での見聞。

書き込み——記入用紙を綴るが記載はなし。

道中献立——7月31日から8月6日までの旅行中の朝夕、時には昼も含む献立が記載。

観察票——車窓日記の用紙に記入したものが綴ってある。

雑品、小物等——箸袋、パンフレットの類のスクラップ。

旅行案内——生活文化研究会の孔版印刷の旅行案内で、旅程の時刻表、班別編成表、地図、問題のテーマ別の案内が付されている。

090 栄養学・食物史 講義プリント

B5判 横書き 172頁

大学での講義のさい受講生に配布したものと思われる孔版印刷の講義録類に書き入れたものを合本してある。これらの講義録のなかには『家政学序説』第一部（のちに『暮らしの知恵——考える生活科学』と改題した新版も刊行されている）にまとめられた論考がいくつも記されている。

[目次]

1. 書入本 一般營養学 2. ビタミン 3. 昭33 4. 昭34 5. 参考

[内容]

一般營養学——年度不明。先生自身の調査にもとづく図表がおおく含まれていて以下の12節から構成されている。Ⅰ. 營養学の種類 Ⅱ. 營養は家族の形態を支配する Ⅲ. 營養は社会現象を反映する Ⅳ. 山村と農村の營養のちがい Ⅴ. VI. 科学的であることのむつかしさ Ⅶ. 營養は総合的に考えねばならない Ⅷ. 間食も食品のうちである Ⅸ. 欠けやすい營養 X. 献立の固定 XI. 外国料理の導入 XII. 營養改善の方向。

ビタミン (1)——年度不明。「Vitamin の発見——新しい營養学の誕生と発展——」と題した講義に使用したもののものであり、図、表、化学構造式がおおく含まれている。

ビタミン (2)——昭和24年「ビタミンの発見」というタイトルが付されている。脚気についてのべている部分がおおく、わが国ばかりではなく中国古典からの脚気引用もある。図、表、化学構造式もおおい。

昭和33年度講義 (1)——おそらく家政学原論の講義であろう。女性の地位と家庭論に関する部分がおおくを占める。11節から構成されている。1. 營養学の種類 2. 我国本来の家庭の在り方 3. 人間性喪失以前の武士の考え方 4. 元禄以前の民家の考え方 5. 徳川家康の思想対策 6. 女大学の制定 7. 活動に則しない布令は空文化する 8. 武家法を民衆に強要した明治憲法 9. Rorschach 法と家族関係 10. 売春について 11. 死亡数に及ぼす生活実態 12. 饑じさと恋と寒さを比ぶれば、恥しながら饑じさがさき。

昭和33年度講義 (2)——一般營養学を講じたさいのプリント。冒頭にあげた一般營養学と講義の構成は似ているが、参照資料として使用した図表が主で33点ある。

昭和34年度講義 (1)——家政学原論にあたる内容で以下の構成をとる。序章——女大学とその背景 1. 結婚形態の変遷 2. 相続形態の変遷 3. 人間性喪失以前の武士の考え方 4. 元禄以前の庶民の考え方 5. 元禄以前の学界 6. 徳川家康の思想統制 7. 元禄以後の庶民の考え方 8. 町人の思想統制 9. 明治政府の思想統制 第1章——家族の形態は栄養を支配する 1. 家族の形態を支配する経済的背景 2. 饑饉と戦争 第2章——主食の問題 1. 主食の問題がクローズアップされたわけ 第3章——現実の營養状況 第4章——消化と吸収 (原本には章立てはしてないが第4章にあたる部分と考えられる) 1. 口腔 2. 胃 3. 小腸 4. 大腸。

昭和34年度講義 (2)——「食品学——ことに主食を中心に——」というタイトルで

以下の構成をとる。Ⅰ.問題の焦点 Ⅱ.古代の穀物 Ⅲ.アワ Ⅳ.キビ Ⅴ.イネ
Ⅵ.大麦 Ⅶ.小麦 Ⅷ.燕麦 Ⅸ.ライ麦 X.稗 XI.高粱 XII.玉蜀黍 XIII.鳩麦 XIV.
蕎麦 XV.麻 16.里芋 17.馬鈴薯 18.甘藷 19.大豆 20.小豆（以下ローマ数字
なしで）喰べ方の変遷 参照（文献リスト）。

参考資料——女大学を抄録したもの、石垣綾子の「女は自由である」という文章、
伝染病、逐年比較表（昭和13～23年）、昆虫と疫病、大阪鮓——雀鮓を中心に（文献
リスト）。

091 亥歳の出雲 松江の巻 昭34

B5判 横書き 150頁

昭和34年6月に松江を中心におこなった聞き書きと古文書の写し。

[目次]

1. 松江・附寮生郷里談 2. 片江・七類 3. 佐香 4. 河下・遙堪 5. 川津・池田文書
6. 杵築・恵比須講文書 7. 道中献立

[内容]

松江——竹崎博士（『出雲』2参照）談：沼下駄、鹿角と神社、壁麦、麦の穂刈り、
植物分類。春日神社神職の藤脇進氏談：神社由来、正月の熟饌、チマキ。長瀬の風俗。
真庭郡落合の行事食。岡山県の本陣。

片江・七類——七類にて漁業慣行、雑煮、病気、クワとタバコ畑、小・中学校、正
月飾り、芋、手織、ライ麦。片江にてビール麦、カラス麦、タバコ畑、漁業、雑煮、
チマキ、通学。

佐香——佐香の統計：職業別人口、漁業の種類、船舶、耕地、主食作物、教員。佐
香の風俗：年中行事と食物、漁業、病気、寺、農業、魚料理、味噌、食事、ワカメと
り、結婚、集落別の気風。小学校教員のこの土地の印象談。

河下・遙堪——村の概況、食事、海苔、漁業、舟玉、行事、神社。

川津／池田文書——明治31～32年の村における家屋建築万控簿（棟前などのさいの
到来品リスト、献立記、祝儀金リスト）。

杵築／恵比須講文書——寛政9年～昭和33年までの各年の講参加者人数、講のさい
の収支明細、献立などを記してある。

道中献立——6月3～14日の食事献立。

092 亥歳の出雲 布部の巻 昭34

B 5 判 横書き 184頁

「亥歳の出雲」松江の巻に記された調査ののちに布部の家島氏を訪ね、聞き書き、および同家に伝わる文書を写した記録。

[目次]

1. 布部 2. 布部／死因表 3. 布部／家島文書 1 労務 4. 布部／家島文書 2 横帳 5. 布部／家島文書 3 御殿様御成記 6. 布部／家島文書 4 鍬・鍛冶屋備品目録

[内容]

布部——家島氏一族からの聞き書き：庄屋であり、タタラを営んだ家島家の江戸時代から現在にいたる変遷、間取り図、小鳥、料理、行事食、漬物、炭焼き、神社、中学校、農地解放。

布部／死因表——大正8年～昭和34年にいたる布部の住民の死亡年月日、出生年、男女別、住所、死因をリストにしたもの。

家島文書 1／労務——文政年間以降の家島家使用人にたいする給金、給米、貸金証文、改手形、什器代金控など。

家島家文書 2／横帳——「文化9年安産祝到来留帳」、「文化9年初織留帳」、「文化9年破魔弓到来帳」、「文化10年証昌御領留帳」、「文政2年初老御祝儀帳」、「天保4年42年賀祝」、「天保9年61賀万調物帖」、「天保6年御礼廻勤帳」、「天保8年安産祝いとうらいものひかへ帳」、「嘉永5年縁談餞別到来物帳」、「嘉永7年誕生至来物控」、「嘉永6年出生祝」、「嘉永7年法事帳」、「明治30年万控帳」。

家島家文書 3／御殿様御成記——家島家にはしばしば御成りがあり、そのさいの記録文書から料理献立のみをぬき書きしたもの、安永4年、嘉永4年、嘉永7年、慶応3年。

家島家文書 4／タタラ・鍛冶屋備品目録——製鉄・鍛冶に必要な道具や使用人の什器などの品目、価格などを記したもの、天保9年、天保10年、天保13年、天保14年、天保15年、明治8年の8通が筆写されている。

093 葛野・沼貫 昭三四・八月

B 5 判 横書き 150頁

昭和34年8月18～24日のあいだ兵庫県氷上郡氷上町を中心とした地域を対象として、大阪学芸大学の家政学科教官、学生による生活調査がおこなわれた。この調査の一環として旧葛野村・沼貫村を調べた記録である。

[目次]

1. 葛野 2. 三原 3. 沼貫・小野 4. 福田 5. 油利 6. 新郷 7. 佐野・稲畑 8. 予備プリント 9. 香奠帳

[内容]

葛野——三田駅の駅弁の内容、遠身寺の僧侶から氷上の歴史を聞く、調査日程プリント、葛野婦人会研修会プログラムプリント（調査期間に開かれ、ここで先生は講演をしている）、中学校についての聞き書き、調査テーマ別人員配置表のプリント、調査日程・炊事と掃除当番人員配置・持参品のプリント、氷上町婦人会の夏期一日講習会案内状。

三原——三原集落内尾神社宮司の梅本馨氏からの聞き書き：黒見銀山・神社の概要、間取り図、明応4年の神社林に関する文書写し、講、年中行事、祭り、結願、肉食の禁と別火別器、年中行事を清書したもの（便箋に清書して合本）。

沼貫・小野——沼貫の戸倉誠司氏からの聞き書き：山の神の祭り、酒造業者、寺院、古文書、民間信仰、神社、柏原川について、一里塚。小野についての聞き書き：生業、手機、行商、戸数。

福田——旧福田村の寛政3年から明治5年にいたる諸文書から、戸数、人口の部分を書したものの。

油利——ここに残されている文書類のリスト。

新郷——伊尾神社、宝永6年灯籠寄進銘文の写し、社寺。

佐野・稲畑——戸数。

予備プリント——調査地の予備知識を得るために学生に配布したと思われるもの、および調査結果を主計した孔版印刷のプリント26頁。氷上郡地区の地質図、家族内での入浴順位集計表、家族内でのラジオ番組選択決定者の集計表、家族形態表、社会階層と家族形態の集計表、経過的内縁期間のグラフ、通婚圏集計表、社会階層と結納額の集計表、社会階層と購読雑誌の種類の集計表、社会階層と購読新聞の種類の集計表、新聞別購読者数集計表、調味料別使用量集計表、台所器具別保有数の表、燃料の種類別集計表、カマドの種類の集計表、煙突の有無の集計表、妊娠・出産・乳児期から現在にいたる健康状態に関する調査表集計、人口構成グラフ、死亡者の年令別分布表、死亡原因集計表、死産数集計表、生下時体重集計表、住居間取り図2。

香奠帳——上新庄の堂本八郎の香奠帳の写し：慶応元年・慶応4年・明治34年・明治42年・大正7年。藤原氏の香奠帳の写し：大正11年・大正12年。保田氏の香奠帳の写し：大正8年・大正9年。買物帳：大正9年11月の荻野氏の法事のさいの買物帳写

し。写真：名刺版の石碑1，キャビネ版の小学校舎1，農家の家屋2，土間とカマド1。レッテル：「はりま寿司」箸袋，三田駅の駅弁包装紙，丹波食品の甘酒・清酒「有家」「成章」「港菊」のラベルを貼りつける。

094 淡路島 昭和三四・十月

B5判 横書き 226頁

第14回日本人類学会日本民族学協会連合大会とその付属の淡路島観光の時の聞き書きやレジュメ等の合綴本。

[目次]

1. 学会関係・他国聞き書き 2. 由良・洲本 3. 市 4. 湊 5. 都志 6. 多賀 7. 郡家 8. 献立 その他

[内容]

学会関係・他国聞き書き——学会での配布品，交換した名刺と学会参加者からの聞き書き。

由良・洲本——由良中学小川先生からの聞き書き：由良で店頭風景，洲本の土族屋敷平面図。

市——三原高校吉田先生岡崎先生から風俗聞き書き：浜田湊小学校校長の瓦の話。

湊——二木屋での風俗聞き書き。

都志——酒造家での聞き書き

多賀——一宮中学校での聞き書きと酒造家，笹野蔵にての聞き書き。

郡家——川端常一氏とその家族の杜氏一家での酒造と風俗の聞き書き。

献立・その他——10月12日夕食から14日朝食までの献立，費用，時刻メモ，箸袋等のスクラップと一宮町の案内書，一宮中学校の学校要覧，三原高等学校の学校要覧。

095 四十四曲峠 昭三四・十一～十二月

B5判 横書き 184頁

昭和34年11月～12月に島根県立女子短期大学で食品学の集中講義をおこなった機会を利用して，岡山県と島根県下で調査をした記録。

[目次]

1. 周匝 2. 吉岡 3. 勝山 4. 美甘 5. 新庄 6. 新庄・戸籍 7. 新庄・死因 8. 新庄・大沢氏香奠帳 9. 江尾 10. 溝口 11. 二部・福岡 12. 母里 13. 賀茂・大東 14. 所子 15. 松江 16. 道中

[内容]

周匝——周匝高校の先生からの聞き書き：矢機，土壌，旧家，棚原鉦山，祭り，城跡，

篠田統資料目録Ⅰ（フィールド・ノート）

士族の家、水運、高校への通学圏、小作争議、雑煮、牛肉、鮓、神社。周匝で酒造業を営む小宮山義和氏からの聞き書き：家業の歴史、杜氏、酒造米、製造石高、酒造用の水、小宮山氏宅間取り図。

吉岡——吉岡で酒造業を営む石戸氏からの聞き書き：家業の歴史、経営規模、酒造米、眼科医。

勝山——勝山中学校長行本氏からの聞き書き：鮓、雑煮、勝山の歴史、畜産研究者。勝山で菓種業を営む三村興治兵衛氏からの聞き書き：家業の歴史、文書、看板、屋号、祭礼のさいの施菓、玉屋目菓、菓草採集、文化13年の「秘方集」処法あり、取引先き、松江の殿様の参勤交代と三村家、津山の士族屋敷。

美甘——美甘の人々からの聞き書き：学校、村の概況、雑煮、鮓、農業、気候、杜氏、鉾山、宗門帳の所在、木地屋、社寺、脇本陣、年中行事と行事食、味噌つき、機織り、紺屋、雑穀。

新庄——新庄の旅館「山田屋」女将の話：家業の歴史、雑煮と正月料理、従業員のしつけ、新庄の概況、テレビの普及、鮓、行商、キノコ類。新庄中学畦高義政先生からの聞き書き：木地屋、大田植、藤布、新庄の概況と歴史、社寺、ハンザキ、本陣、古文書。新庄教育委員会関係者たちからの聞き書き：平均耕地面積、赤米、雑穀、タバコ栽培、果樹、アイの栽培と紺屋、麻と藤布、気候、交通。新庄の村長らとの座談会での聞き書き：赤米、ソバ、雑穀、サツマイモ、わさび栽培、年中行事と食事、木地屋、交通と運搬、社寺、講、酒造業、味噌づくり、吊し柿の甘味料、村の概況、鉄山村のドブ酒づくりの神事、サンショウウオ、菜食い貧乏になる、政党地盤、野生食用動物。

新庄・戸籍——宗門帳および明治時代の戸籍を抄録する。

新庄・死因——明治時代から昭和34年にいたる死亡者の生年、年令、性別、死因を記す。死因、病名はたいていラテン語で記述されている。

新庄・大沢氏香奠帳——明治31年・33年・大正13年の香奠帳の写し。

江尾——江尾の酒造家大岩氏からの聞き書き：家業の歴史、経営規模、伯州の酒屋、地室。

溝口——溝口の紺屋加藤氏からの聞き書き：県下の同業者、アイの入手先き、技術の変化、需要の変化。

二部・福岡——二部の老婆からの聞き書き：藤布づくり。福岡の阿達酒造での聞き書き：家業の歴史、経営規模、杜氏、酒造技術の変遷、販路。

母里——母里中学校長潮氏からの聞き書き：士族屋敷、廃藩帰農のさいの話、士族の

村の気風，狐つき，タタラ。母里の家屋：シトミ戸，家屋間取り図2例。母里の紺屋：紺屋の変遷。母里の居酒屋で会った男の話：正月の幣。母里の寺と馬頭観音：寺名，墓地の馬頭観音卒塔婆銘文の写し2例。

賀茂・大東——賀茂駅長にサバの串焼きの行商について聞く，中学校で同和教育と鮓について聞く。大東の松本酒店での聞き書き：家業の歴史，杜氏，この地域の酒造業者の変遷，経営の話，田舎酒の運命。大東の食料品店で売の商品のリスト：魚屋で売る魚の種類，雑肉の部位別値段，野菜，乾物等の食料品のリスト。

所子——所子の概況を車中で会った老婆に聞く：農業，家畜，養蚕，雑煮，五月節句の餅，茶。

松江——島根県立女子短期大学の家政学関係の時間割の表に赤エンピツで斜線を引いたものが綴じてある。斜線部分が篠田講師の食品学の集中講座の時間割であるらしい。

道中献立——11月21日勇者区から12月3日昼に津山で求めた駅弁までの献立内容を記す。

道中費用——この旅行で出費したすべての費用の明細が記されている。道中で集めたレッテルなどを貼りつける：山田旅館（新庄），しげや（旅館），むらくも荘（公立学校共済組合松江宿泊所），山小屋（バー・松江市）のマッチ，むらくも荘の領収証，国鉄荷物指定切符，はしもとや（吉井町周匝の旅館）・しげや旅館・山田旅館・やくも（松江のうなぎ料理店）・むらくも荘・古浦屋（松江市・出雲そば）の箸袋，津山の駅弁包装紙，「諸白」・「御前酒」のラベル，7氏の名刺，島根県立博物館館の「現代美術名作展」の入場券を貼りつけてある。

096 京 大阪喰い倒れ—附犬其野，布施，河原城— 昭三四

B5判 横書き 120頁

昭和34～36年のあいだの記録。京，大阪の食べ物について，料理人その他からの聞き書き，放送，シンポジウムで京，大阪の町家のほか丹波，布施，河内での日常の食習慣や，献立なども記されている。

[目次]

1. 京料理／祇園祭 2. 京料理／白波瀬君 3. 京料理／秦さん 4. 奇応丸／秦 5. 丹波／犬其野 6. 喰倒れ／小倉氏 7. 喰倒れ／久保氏 8. 大阪の喰倒れ／松屋町筋献立・蛸竹しらべ 9. 摂津・布施 10. 南河内・河原城

[内容]

祇園祭の料理——昭和34年7月16日に祇園祭に関連した，放送に出演したさいのメ

もらしい。祇園中村楼で会合したもののようで、井口海仙、上村松篁、田中弥兵衛、辻重光、辻重彦、辻八重の諸氏の名が記されている。祇園祭のクジ改め、ハモ料理、稚児餅。

京料理／白波瀬君——白波瀬氏から使用人の多い京の商家でのかっての食生活を聞き書きしたもの。

京料理／秦さん——「奇応丸」が実家であった鈴木夫人から、かつての商家における食生活、年中行事とその食べ物について聞き書きしたもの。

奇応丸／秦——「奇応丸」の秦さんからの聞き書き：粥と家伝の漬物、年中行事とその食べ物、嫁いり、お産。

丹波／犬其野——亀岡市犬其野の歴史について和崎真一氏から聞いたノート。

喰倒れ／小倉氏——内容なし。

シンポジウム「大阪」打合せ——昭和34年10月に大阪大学において日本人類学会・民族学協会連合大会が開催され、そのプログラムの一環として10月9日には「大阪」という論題のシンポジウムがおこなわれ、先生は「大阪の生活」という題の研究発表をされている。同年6月26日に大阪大学医学部でこのシンポジウムの打合せ会が開かれたさいのメモである。宮本常一、宮本又次、榎垣実、蔵内数太、小浜基次、喜多野清一の諸氏の発言が記されており、主として大阪文化の地域特性について論じられている。

喰倒れ／久保氏——「美登利」本店で久保登一・久保やえ・西村清子の諸氏から、大阪の商家での日常の食生活と年中行事の食べ物についての聞き書きをしたもの。

大阪の喰倒れ／松屋町筋献立 蛸竹しらべ——大阪の松屋町筋の玩具屋、紙屋、菓子屋などの商店における5月から7月のあいだにおける（調査年不明）日常の食事の献立を記したもの。おそらく「蛸竹」に依頼して、データを収集したものと思われる。24件の献立が記録されているが、そのうち6日分の三食献立を記したものが2例、7日分が15例、9日分が2例、11日分が11例、毎日の献立を具体的に記したものではなく、三食の各々についての一般的な献立を記したものが3例ある。

布施・河原城——東大阪市に合併される以前の布施市水道局の好川建治郎氏から、同市の水道事情について聞いた記録。羽曳野市の河原城の大谷氏から南河内の民俗について聞く：木綿栽培と加工、農業、味噌、豆、朝粥、大晦日の善哉と雑煮、行事食、講、結婚。

昭和35年4月27日から5月10日まで新潟、長野県を旅行したときの記録。各地での聞き書き、見聞の内容のほかに、献立、会計なども記されている。

[目次]

1. 旅程表 2. 糸魚川 3. 高田 4. 潟町 5. 柏崎 6. 出雲崎 7. 新潟 8. 青柳／座談会 9. 内野・五十嵐 10. 味方・白根・燕・三条 11. 葛塚 12. 新発田 13. 津川 14. 村松・五泉 15. 中条・下関 16. 片貝・沼 17. 村上・岩船 18. 浦瀬・長岡 19. 小千谷・塩沢 20. 十日町・外丸・大割野 21. 飯山 22. 松代 23. 戸隠 24. 柏原 25. 道中献立 26. 市場・青物・魚介類 27. 道中会計

[内容]

旅程表——天気、乗物の発着時間、立ち寄った場所、宿泊旅館などを記す。4月27日大阪～糸魚川、28日糸魚川～柏崎、29日柏崎～新潟、30日新潟～内野～新潟、5月1日新潟～三条～新潟、2日新潟～新発田～新潟、3日新潟～村松～新潟、4日新潟～鷹ノ巣、5日鷹ノ巣～新潟、6日新潟、7日新潟～塩沢、8日塩沢～飯山、9日飯山～戸隠、10日戸隠～京都。

糸魚川——糸魚川高校斎藤教頭からの聞き書き：旧士族、三面川の鮭、雑煮、鮓、陣屋跡、士族町、江田屋敷、朝粥、漬菜、粕汁、バタバタ茶。平安堂（旅館）主人からの聞き書き：話者の紹介、バタバタ茶。小林氏（酒造業）からの聞き書き：慶安3年創業加賀之井、杜氏（三島郡から）。

高田——西城高校にて：食物指定校、足軽長屋、間取り図と説明。

潟町——大潟町中学校にて：天然ガス、新堀川の干拓、酒造業。藤縄（酒屋）若主人からの聞き書き：規模はほぼ300石、酒男、杜氏（大口村）、序列、蔵、釜屋。

柏崎——黒船館吉田正太郎氏からの聞き書き：黒船ものの収集、縮の行商、縮の品質、宝栄講（縮屋の同業組合）、古着の商い、土蔵、人力車、新聞、回漕業、鮓、御用、縁組。山田良平氏からの聞き書き：越後南部の旧家、小豆、正月の寺参り、法事のお供（蓮根の餡煮、お祝にも）、湿田、年中行事と食物、三島神社、諏訪神社、八坂神社、秋葉さん、三崎神社、市、通婚圏、足入婚。柏崎で耳にしたかわった言葉（2例）。

出雲崎——出雲崎駅売店の女性から吉田についての聞き書き：正月の雑煮、五月節句のちまきと笹だんご、毒消し売り、漬物。車中で中頸城清里村の中村夫妻からの聞き書き：酒、水、蔵人（中頸城から）、主人賄、山菜、酒造米。

新潟——酒造組合にて松本春雄氏からの聞き書き：越後の酒は北海道に送られた。醸造試験場の星野太郎氏からの聞き書き：杜氏（中頸城・刈羽・三島）、序列、蔵人、水、教育施設、道具、8水、山麩、県下で評判の良い酒、仕込の規模の大きい所。須藤賢

郎氏からの聞き書き：朝市，明治の建物，地盤沈下，マメノキ（餅菓子），ワッパ飯，鯛漁場，岩船の海女，中門造り，雲囲い，干拓，都城，雑誌「うまいもの」，クロクワイ，大福餅，コーレンボー（船），下関の渡辺邸，味方の笹川邸。税関にて五十嵐老からの聞き書き：税関の建物，「うまいもの」36号（1959年4月刊）pp 13～14，水沢謙一「食をめぐる越後の諺」抜き書き。山口賢俊氏からの聞き書き：収集農具についての説明。

青柳／座談会——民俗座談会，越佐民俗学会のメンバーによる，機，回漕業，鮓，行事食，弁当，漁業。

内野・五十嵐——内野中学五十嵐教頭からの聞き書き：生徒の家庭環境，行事食，海藻，天神講，朝雑炊，婚姻，行商，新発田のこと（食生活）。古俣文吉氏からの聞き書き：南瓜などの栽培作物，漁業（建網，大羽鰻・鰯）。某老からの聞き書き：栽培作物，道路。さる主婦からの聞き書き：住居。内野・五十嵐についてのコメント。

味方・白根・燕・三条——車中での話。味方 笹川邸案内の女中（三島郡塚山在）からの聞き書き：餡雑煮，部屋の名称。三条小学校校長からの聞き書き：生徒父兄の職業，朝雑炊，寺。

葛塚——葛塚中学校校長からの聞き書き：織物，正月餅雑炊，婚姻。酒屋一八田：杜氏。小黒岩人：蔵人，仕込，序列。五十嵐紺屋：家業の規模。

新発田——鶯塚邸間取り図，足軽長屋間取り図。

津川——高校にて：旧本街道，旧会津代官所，節句用笹ダンゴ，鮓漬，餡雑煮。

村松・五泉——村松の士族屋敷間取り図，志村邸間取り図，道中の見聞（早通所見図解付きなど）。

中条・下関——車中にて新発田から乗ったかつぎやの女性達からの聞き書き：海女，雑煮などの行事食，鮓，みそ汁。樋口中学校長の話。渡辺万寿太郎氏からの聞き書き：住居，水車，文書，画師豊州，正月，鮓，奥女中，下人，回漕業，酒造，大蔵神社とその祭礼。

片貝・沼——片貝～下関の車中での聞き書き：鮓，豆。菅原すみ子氏からの聞き書き：運搬具，作業着。片貝駅前売店での聞き書き：庚申堂。伊藤寅三氏からの聞き書き：運搬具，作業着，イロリ，山菜，鮓。沼小学校吉岡校長夫妻からの聞き書き：鮓漬，維新期のこと，三面のこと。

村上・岩船——肴町，あらもの屋の商品，若林家間取り図。岩船：家伝蒸饅頭。

浦瀬・長岡——長岡の町のコメント，博物館，青柴神社，積雪科学館。

小千谷・塩沢——小千谷東中学校にて：小千谷の概況。塩沢中学校にて：漬物，粽，

だんど、鈴木牧之の家。

十日町・外丸・大割野——車中の話、車窓からの風景。十日町高校下山次郎氏の話。
大割野津南小学校にて：鮎漬，秋山郷。

飯山——「三ツ和」女将の話。白銀（酒屋）：杜氏。

松代——松代高校にて：野沢菜。海津楼（酒屋）：蔵人。

戸隠——「今井」マダムからの聞書き：名物，生業，大祭，蜂蜜。小学校にて。

柏原——中学校教頭の話。

道中献立——旅行中の食事の献立を弁当も含めて44食分を記す。

市場・青物・魚介類——高田，柏崎，燕，葛塚，村松，小千谷，十日町，大割野，
新発田，中条でみた生鮮食料品の種類を記す。

道中会計——旅行にかかった諸経費の明細。

098 鯉節行（7月）について北海道

13×7.2 cm 横書き 104頁

「1931年祝小松教授在職二十年」の手帳を転用。昭和36年6月30日から7月9日までの旅行，研究会の記録。7月7日から北海道に入っている。

[内容]

旅行日記，交見演説。

099 江州酒屋聞書 附堅田・鶴喜

B5判 横書き 152頁

滋賀県の酒造業者から酒造関係の聞書きをしたもので「鶴喜」そばで聞いた話も収録されている。堅田，坂本「鶴喜」での調査が昭和36年におこなわれたことがわかるほかは，調査時期は不明。

[目次]

1. 栗太郡・野州郡酒屋名簿・附甲賀・高嶋 2. 川田・中北 3. 永原・祇王寺 4. 永原・白井 5. 永原・福谷 6. 兵主・酒屋 7. 小篠原・鷺田 8. 大曲・山本・野州酒造家の現状 9. アヒル・孫兵衛 10. 小堤・小三郎 11. 杉江・伊蔵 12. 辻町・六右衛門 13. 北村・奥村・ホカ 14. 木辺・八夫 15. 比江・小比江 16. 竹生・市三宅 17. 小南・仁保，江頭・井狩・ホカ 18. 小田・野田 19. 野村・須原 20. 江州堅田（昭和36年6月1日） 21. 坂本・鶴喜（昭和36年8月）

[内容]

酒屋名簿——栗太郡・野州郡・甲賀郡・高嶋郡の江戸時代における酒つくりの株仲

間の人名209を筆写する。

川田「中北」——江州各地の酒造業者について聞く。

永原／祇王寺——永原の祇王寺中村□尼生家での酒つくりについて聞書き。

永原／白井氏——両墓制，宗教と寺院，貧亡徳利，間取り図，白井家の歴史と酒造，年中行事の食事，庄屋。

永原／福谷氏——江州各地の酒造業者，文書目録（12点），屋敷神，福谷家の歴史，杜氏，間取り図，酒用の瓶。

兵主・酒屋——この地方で売れる酒の銘柄について記す。

小篠原／鷺田氏——庄屋，慶長検地帳，家業としての酒つくり，昔の経営規模，米踏み食事。

大曲山本庄作氏からの書簡——江戸時代の酒つくり株リストから，場所，名前，現在の氏名，現在の職業，酒屋をやめた年代，その他の欄をつくりもうけたアンケートをつくり，送付したものに山本氏が記入して返送したものを綴じる。

アヒル・孫兵衛——阿比留の富田孫一郎氏からの聞書き：酒つくりをやめた理由，水車，酒造道具，井戸，酒蔵。

小堤——小堤の堤卯三郎氏からの聞書き：家業の歴史，杜氏，蔵人。

杉江——玉津町杉江の中西伊蔵氏からの聞書き：家業の歴史，経営規模，技術の変遷，蔵人，酒造用の水，酒造米，他の酒造業者，村の歴史。

辻町——六右衛門で昔酒つくりをしたという話を聞く。

北村——奥村卯三郎氏ほか1名からの聞書き：杜氏，務めた蔵の経営規模，村の酒屋に関する馬喰唄。

木辺——百姓夫婦と八夫の大工から村の酒屋の消息について聞く。

八夫——かつて造酒屋をしていた苗村氏から家業の歴史について聞く。

比江——廃業した造酒業者についての聞書き。

竹生——岡野氏の祖母から，明治時代に造り酒屋をしていた頃の話聞く。

市三宅——土肥氏に同家で昔酒造をしていた頃のことをたずねる。

小南——昔の酒造業者について聞く。

仁保——川端氏から，かつての酒つくりの聞書きをする。

江頭——江頭の「朝日」，伊藤太一氏から，酒造について聞く。「寿酢」川村氏聞書き：合成酢と醸造酢，酒酢の仕入れ先き，腐敗酒の酢。江頭のかつての酒造業者についてたずねる。井狩氏からかつての酒造りとそれに関する文書について聞く。

小田・野田——かつての酒造業者についてたずねる。

野村・須原——かつての酒造業者についてたずねる。

堅田——中島七郎兵衛氏聞き書き：フナ鮓のつくりかた・粕漬けのフナ鮓，エビ・サバ・モロコ・ハス・ワタカの鮓，祭りとフナ鮓，フナ鮓の食べかた。「いせ屋」仲居の話：鴨猟，鴨料理，カイツブリの黒焼き。

坂本——「鶴喜」でのそばに関する聞き書き：原料入手，つなぎ，手打ち，家の歴史，粉挽き，そば饅頭，そば切り包丁，だし，土産物としてのそば，本店と支店，山かけ月見そば。

100 氷室村—学生実習— 昭三七

B5判 横書き 148頁

扉には『昭37 氷室村 見聞記』と記されている。この年，7月に枚方市の旧氷室村で学生実習の調査をしたさいの記録と思われるものが主で，ほかに同年の3月に同村の穂谷と尊延寺でおこなった聞き書きを収録してある。

〔目次〕

1. 穂谷・尊延寺 2. 酒屋聞き書き 3. 尊延寺雑聞 4. 横尾先生談 5. 山下先生談 6. 坂本さん談 7. 天王 8. 献立 9. 植物記 10. 採集品

〔内容〕

穂谷・尊延寺——通行中の老人からの聞き書き：ソウメンづくり，山仕事，石工。重村正篤氏からの聞き書き：集落の概観，寺社。

酒屋雑聞——「富士霞」の重村氏から酒造法について聞く。尊延寺の通りかかりの青年：野鍛冶のカラスキづくりなどについて聞く。「谷川」の田中家で酒造について聞く。山田五一郎氏宅蔵の嘉永2年と明治2年の譲渡証文の写し。（以上が3月の調査で，以下は7月の調査記録）。

尊延寺雑聞——島村鉦業所，村での食費，稲作と村民の家計，村の境界，祭，雑煮，縁組，出産，牧場，野鍛冶の話，住宅間取り図。

横尾先生談——学区の戸数と職業，生徒数，児童の体格と栄養，横尾先生の家族構成と農業，テレビ，洗濯機の普及率，果樹，野菜栽培，山林，村の職業，青年団，家号，村の株，結婚式習俗とその食事，葬式，出産，仲人の謝礼。

山下先生談——明治31年に生れ，天王寺師範学校を卒業した山下氏からの聞き書き：村民の生活と家計，野鳥，雑煮，山仕事の食事，味噌づくり，漬物，正月7日の食事，正月15日の餅あぶり（トンド），骨正月，伊勢講，愛宕講，太子講，観音講，節句，彼岸，田植休み，盆。

坂本さん談——料理仕出しに従事していると思われる坂本氏からの聞き書き：料理修

行、献立（どの行事のものであるかは不明）、50年前の祝膳献立、30年前の祝膳献立、葬式の食事、サバズシ、巻すし、柏餅など、コンニャクづくり、クワイ、ハス、竹、職業、家の歴史、鴨の羽盛り、ヒレ鯛の汁。

天王——旧普賢寺村天王での聞書き：農業、山林、年中行事、家の歴史、茶の栽培。

献立——調査期間の7月21日夕食から7月25日朝食までの献立を記す。

植物記——作物、果樹、工芸樹木、庭木類、草花類、野生樹木、野草類の7種類に分類し138種の植物を学名で記す。

調査表——調査地、男女の服装、作物、木、花、家畜、家屋型式などの記入欄のある調査用紙に記入したもの4枚。

採集品——宿舎と思われる「阪本」の箸袋、「富士霞」、「谷川」、「菊養老」（いずれも調査地付近の地酒）のラベル、道頓堀津ノ清の「粟おこし」ラベル、東京日々新報の木版風俗画3枚、木版美人画断片5枚、明治23年刊の木版本の台所用品の図の部分、印章のラベルを貼りつける。

写真——氷室小学校、尊延寺の社寺、庄屋屋敷跡、牧場、各種職業の家がまえ、ソウメン干し、水車小屋、民家、調査風景、学童の遠足出発風景などカラー1枚、白黒34枚の手札版を貼りつける。

子どもの進路のきめ方——同名のタイトルの枚方市教育研究会進路指導部が昭和37年2月に刊行した12頁のパンフレットを貼りつける。

101 竹翁聞書

B5判 横書き 98枚 未製本

後に製本するために整理されたフィールド・ノートと思われ、本のケースに入れられている。目次はないが、内容で分類されている。内容は竹崎嘉徳老人（元京都大学教授、島根県立農業大学長、島根女子短大学長を歴任）からの聞書きであり、昭和37年から昭和42年までの話が記されている。雑談めいたことが多い。

[目次] なし

[内容]

昭和37年——竹崎老人聞書き（昭和37年11月9日）：卵（受精卵、無精卵、胚他）、イモ（ダリヤ、自然薯、ムカゴ他）、水利、茶、サザンカ等について。昭和37年11月20日：神饌の米の鑑定、八重垣の山神のリングの写真。昭和38年11月7日：島根農大、短大十周年記念式参列の感想。早川喜四郎老の話等。

附録竹崎嘉徳老人 高原話——姓、鉄穴、隆起地形、葵、馬宿、ダンゴ、藤衣、物資。昭和39年3月14日夜：石見・安芸の国境についての問題、イランの米作、Mother

Language, 牛馬の冬越しの話, 陶器と窯跡等について。3月26日: 牛(神石牛), 藤布(ウムとツムグ), 国産紅茶等について。昭和39年6月12日: 石油のバクテリア, 遺伝, 『出雲と石見』という本について。竹崎姓について, 家系について他。

竹崎老人聞書(昭和38年)——竹崎老(昭和38年8月14日): 山林等の開拓の問題, 水質の問題。(昭和38年8月26日) 竹老: 県庁の政策の問題点, 白子の問題等について。竹崎宅にて: 中途より浜田稔同席。昭和40年2月14日。地質, 鳥の習性, 日本の茶等について。(昭和42年2月18日) 種子の発芽に関する問題, ムカゴ等について。(昭和45年11月20日): Family doctor, 藪北茶, 山刀等について。(昭和39年8月7日) 発芽機構, 竹, 民俗学の問題等について。(昭和39年9月18日) 北九州の博物館, 九州の茶, おいたち等について。(昭和39年11月23日) ハゼシタ茶, 米以外の穀物種(ヒエ, アワ等)等について。(昭和37年12月25日) 五島さんのこと, 花色の着色, 変化, 果樹, カルカン, 日本の政策に対する批判等。

102 伊奈の春

B5判 横書き 146頁

昭和38年3月25日～29日まで信州伊奈地方へ調査に出かけた際の記録。

[目次] なし

[内容]

東京酒造史懇談会, 韭崎附中談, 諏訪／諏訪杜氏縁起, 伊奈／高遠, 道中献立附費用資料, 酒屋萬流, 新聞記事, 水引の話。

103 佐目 附坂田の漢医 昭三八

B5判 横書き 126頁

昭和38年7月26～30日のあいだ滋賀県犬上郡多賀町佐目を中心にこの地方の生活の実態および民俗調査をおこなったさいの記録が中心で, その調査の前後の期間に彦根市の酢醸造業者と坂田郡の漢方医たちからの聞書きをしたもの。

[目次]

1. 佐目 2. 座談会—佐目にて 3. 大君ヶ畑 4. 後谷 5. こぼれ話 6. 日程・献立・その他 7. 附彦根・酢屋 8. 附漢医探訪—百々・常寿・有川

[内容]

佐目——川本弥三郎氏聞書き: 木炭, 養蚕, 農業, 酒造業, 集落, ゴボウ, 茶畑, 醤油屋, 味噌づくり, 炭焼き, 山仕事, 地主, 神社, 講, 縁組, 老人。遠久寺聞書き: 寺の歴史, 庄屋株, 頭分, 生業, 寺の文化事業。老婆聞書き: ライフヒストリー,

封筒はりの内職。関河酒店聞書き：酒銘，杜氏，家業の歴史。八百屋聞書き：商品と産地，仕入れ。百々氏聞書き：家族の経歴。百々氏蔵書：和刻本の医書を中心に38種の漢籍の書名を記してある。

佐目・座談会——佐目小学校に明治20年代に生まれた3名の老人に集まってもらい聞書き：婚礼，仲人，結婚域，婚期，足入れ，出生，里帰り，神主役，イロリの座順，主食の消費量，馴鮓，行事食，若者宿，雑貨店，組と入会地，家屋，講，報恩講の献立，南京豆，薬草，盆踊り，雨乞い，水争い，ワラビ，手機，紺屋，産後の食事，出産部屋，間取り，相続，葬式，地名説話，鍛冶屋，山仕事の服装。遠久寺での聞書き：集落の概況，農業暦，冬の仕事，祭りの団子，青年団，教員，暖房。

大君ヶ畑——菊川治雄氏聞書き：ライフヒストリー，農業，林業，藤細工，はきもの，年中行事と行事食，植物リスト，神社，姓，地藏盆，柿，自然薯，ワサビ，ツクネイモ，朴の木，乾燥野菜，炭焼き，田畑，茶，作物，馬子，野獣，講，チマキ，フナズシ。

後谷——作物，買物，祭り，野獣，農業，集落の概観，屋根ふき，出かせぎ，炭焼き，ウド，神社，寺。霜ヶ原聞書き：集落の概観，神社，祭り，野獣，作物，茶，雑煮，味噌づくり，年中行事，行商，縁組，間取り図，若い衆宿，集落，タバコ入れ，火打石。小原 久保点一氏から醤油づくりに関する聞書き：材料費，樽，酢屋，酒屋，集落の概況。

こばれ話——セメント工場の日給，伐採関係の日給，白子。佐目谷植物相：83種類の有用植物名を記す。大君ヶ畑，佐目の「実態調査資料」（孔版印刷）：職業別所得，生活保護世帯，テレビ台数，人口，世帯数，土地利用などを記した統計資料で，この調査のために作成したものと思われる。

献立——7月26～30日の調査期間の献立で，1日170円の予算のもの。スクラップ：「多賀」，「八景菊」，「猩々菊」，「出世誉」，「薄桜」，「龍王」（以上清酒）のラベル，彦根駅前の食堂「新海」の紙ナプキン，ノートを引きちぎりインクを滴してつくった即席のロールシャッハテストを子供に試みたものの記録2枚，腹薬「赤玉神教丸」の包装をはりつける。

彦根・酢屋——丸美屋酢店聞書き：店の歴史，酢のにおい，天然酢と醋酸酢，消費者の嗜好の変化，酢の原料として腐った酒を買う，各種の酢。

漢医探訪——山東町の漢方医・百々保氏聞書き：医家としての歴史。坂田郡常谷の医師・常喜郁郎氏聞書き：漢方医として続いた家の歴史。鳥居本・赤玉神教丸の有川市郎兵衛氏聞書き：江州の家庭薬の3系統，神教丸の歴史，宮家御用達のこと。

104 石見路 川本・矢上・波佐・出羽

B5判 横書き 128頁

昭和30年に志学・川本・矢上・波佐へ昭和37年と38年に出羽へ行った時の各種の聞き書きや切符・弁当の包紙等一切の記録ノート。

[目次]

1. 志学・川本・矢上・大田・浜田 2. 波佐 3. 出羽／武田・松川 4. 出羽／片岡・木村 5. 出羽／衛生統計 6. 出羽／戸籍 7. 出羽／松江よりの道中献立 8. 出羽／採集品 9. 出羽／波田野

[内容]

志学・川本・矢上——志学にて：小祠，一畑薬師。川本高校にて：年中行事と料理，大田植，すし。矢上 福沢屋にて：年中行事と料理，鮓，麻ノ実，そば，コンニャク，果物，芋，ワラビ，シイタケ，養蚕，麻，紺屋，藤布，縁組，講，一畑，旧家。石見太田談：正月5日，カリヤ。浜田長浜寮生長瀬談：雑煮。

波佐——港屋にて：雑煮，正月，年中行事，行事食，鮓，縁組。

武田・松川（昭和37年）——高善寺 松川さんからの聞き書き：アクヒ，クサギナ，ヤマゴボウ，カハラニンジン，ワラビ，ウド，フキ，タタラ，鉾山熱。松川さん：産婦，棟上，酒屋，正月，八幡神社，高原神社，行事食，出産，青年団，結婚，還暦，葬送，同族集団，畑作物，商品流通。武田さん：人口について，牛市，牛，出羽のマンサク買い，ダンゴ，オマン。

片岡・木村（昭和37年）——片岡さん談：サバズシ，カクスシ，マクスシ，キツネスシ，オマン，バラズシ，養蚕，泥おとし，雑煮，嫁入り，産婦，市宿，生ズシ，出羽市，ダンゴ。木村さん談：志津の露（酒の銘柄），杜氏，養父，酢屋，醸造道具。

衛生統計（昭和37年）——邑智郡瑞穂町の衛生統計資料，転業，未熟児，瑞穂町史，気象，近年の自殺。

戸籍——浜田県管轄第一大区第五拾五小区戸籍 石見国邑智郡出羽村・三日市・原村・和田村・高里村。

松江・出羽／道中献立（昭和37年）——6月3日の夕食から11日の朝食までの献立が書きだしてある。

採集雑品——旅行中に集めた切符・弁当及び箸の袋・パンフレット・菓子の包紙・酒のラベル等が貼付してある。

出羽（昭和38年8月）——波田野規子君からの聞き書き：作物，食事，タンパク源，若い者。

105 浜名紀行 横須賀から横須賀まで 昭和39年1月

B 5 判 横書き 214頁（そのほかに図表3枚をとじこんでいる）

昭和39年1月の愛知県横須賀から静岡県横須賀に至る沿岸における調査旅行の記録で主に漁業中心。内扉に同題あり。

〔目次〕

1. 旅程 2. 知多 3. 刈谷 4. 三ケ日・気賀 5. 掛塚・横須賀 6. 浜松・舞阪 7. 献立・会計・名刺 8. 植物相・服装 9. 資料・新聞・附い・行動図・附ろ・写真

〔内容〕

旅程——1月7日に京都を出発し同月10日に帰着する間の旅程。（列車の時刻，見学先，宿泊先）旅程の前頁に行動図あり。

知多——海苔問屋小浅商事における白羽茂専務からの聞き書き（横須賀）：海苔の養殖の現状，家業。野間漁協長山本源三氏からの聞き書き：海苔の養殖。豊浜の東西屋における斎藤駒雄氏からの聞き書き：漁業（ナマコ，若布，イワシ，タイ，アサクサノリ），盆，食物（くろまめ・雑煮）ビール，酒造，酢，家業（山長）。

刈谷——村上文庫蔵本の目録，刈谷市立図書館長竹中義三氏からの聞き書き：刈谷における旧家の現状。稲垣健太郎司書からの聞き書き：熊野信仰と当地の紀州風。

三ケ日・気賀——三ケ日小学校における女性事務員からの聞き書き：雑煮。給食担当の女性：ウナギ。佐久島生まれの男性教師：魚介，愛知用水。萬屋における宿の手伝い（三ケ日住人）からの聞き書き：年中行事とその食物（雑煮・七草・黒豆・15日・11日・2月旧正月・3月節句・彼岸・三ケ日祭・5月節句・盆・10月在の祭り・亥の子・12月餅つき・年越しソバ・ウナギ・貝・節分・戒講・みそ汁・月見・すし），野菜，衣料。気賀小学校長坪井貞治氏からの聞き書き：近藤縫殿助旧邸等当町に残っている現状，蘭栽培，本人の出身地二俣の製材業，近藤の子孫。

掛塚・横須賀——竜洋町長池田正太郎，同町教育長川島多喜郎，自転車屋からの聞き書き：回船問屋・交通・神社・寺・漁港・色町・鉄橋・河口砂利・天竜川岸における材木運送・川の交通・年中行事と食物，節句，船のりぞめ，伊勢講，庚申講，地藏講，ダンゴ，自転車，おやつ，食生活，農業経営，柑子，町長の家系，掛塚の港。横須賀三社会館における館主松浦勝治郎氏からの聞き書き：戦後の文書調査，旧士の現在，城下，熊野神社，鮓，漁業，遠州における寛永頃の石高，『郷土会誌』Ⅱ（-7）22写し（寺の収支表で明治18～21年のもの）笠岡郷土会編『郷土』巻1第四号（昭和22，11）の写し，（郷土の年中行事，1月初詣から12月冬至まで）

浜松・舞阪——浜松市連尺の宝林書房における店主近藤氏からの聞き書き（前出の気

賀の坪井氏からの情報で訪問)：近藤氏の歴史，子孫の現状，近藤氏の功績。浜名湖養魚組合における聞書き：ウナギの養殖。浜名湖食品株式会社における取締役杉浦昇氏からの聞書き：ウナギ加工，カキの加工，ミカン加工。

献立・会計・名刺——1月7日の東西屋の夕食から1月10日の名古屋での夕食までの旅館の食事の献立と駅弁の内容。同期間の会計，名刺13枚貼付，氏名のメモ4名分。

植物相附服装——1月7日の東海道線篠原から安土トンネル間にはじまる同月10日までの車窓から見た植物相・服装の調査表24枚。

資料——静岡鉄道バス時刻表，昭和38年海苔年度乾海苔入札篤割表（小浅商事），昭和37年度乾海苔受託品取扱表，海苔共販成績表，表題不明（価格表か？）（以上3点は愛知県漁連のもの），小浅商店の乾海苔の包紙，駅弁包紙，箸袋（大津駅萩乃家），観光豊浜のしをり，このわた（神忠商店）商標，もなか包紙（豊浜吉川屋），東西屋お手拭き包み，東西屋領収書及箸袋，刈谷市立図書館パンフレット「村上文庫について 村上忠順翁略歴」，駅弁包紙（岡崎駅鍵屋）及箸袋，万屋地図，領収書，佐野屋箸袋，駅弁包紙（浜松駅自笑亭）及び箸袋等，浜名湖養魚漁業協同組合パンフレット「浜名湖うなぎ」，くだもの皮入袋（鉄道弘済会），大須ういろ包装紙及び由来書，箸袋（松月寿司店），マッチ箱（万屋，佐野屋），新聞の新聞名切り抜き（中部日本新聞，名古屋タイムズ昭和38年1月10日付），新聞切り抜き（ガラナ飲料，東海産業欄，著者と著者欄）。

写真——目次，白黒六ツ切32枚，白黒八ツ切2枚貼付。

106 比婆・神石・名残りの松江 昭和39・2月

B5判 横書き 338頁

島根女子短期大学での「食用動植物」の集中講義2月10日～15日とその前後の旅行中2月7日～19日の種々の記録を綴ったもの。

【目次】

1. 鳥取 2. 松江 3. 新見 4. 東条 5. 庄原 6. 高野山 7. 比和・森脇 8. 油木 9. 府中 10. 道中献立・会計 11. 車中所見 12. 新聞キリヌキ 13. 名刺・写真 14. 資料 15. 地図・バス時間

【内容】

鳥取——蓮仏重寿郎氏からの聞書き：川的交通，工芸，産小屋。尾崎三智子氏からの聞書き：縫い針。

松江——短大山田清野先生に縫い針の話。白潟島根醤油組合今津惣兵エ氏からの聞書き：醤油業の生産規模と醤油の成分。堅町小西房吉氏からの聞書き（錦みそ）：家業

の規模、味噌の味の変遷。洞光寺（禅寺）にて通りすがりのおばさんからの聞き：大豆の数珠「念仏供養」について。松江／堅町と殿町の八百屋、花屋、魚屋の店頭に並ぶ商品を書きだしてある。

新見——岸本老人からの聞き：風俗、年中行事と行事食。

東条——東条中学校の先生呉出身の女性と双三部の男性からの聞き：年中行事と行事食、縫い針。武田酒店（浮心）：地元の酒の石高、杜氏。

庄原——庄原中学校佐々木先生からの聞き：5月節句の柏餅・ちまき、ワチゴ。

庄原ホテル主人福島氏からの聞き：帝国製鉄、タタラ。バス内で高話する2人：出稼ぎの日当。

高野山——山崎若マダム：家業、木材チップ、スキー。山崎老女将：正月の雑煮と料理、去年の雪、行事と料理、縫い物、寺、旧盆、亥之子、大豆、みそ、米、キノコ、タタラ、高校、医者、作物。山崎屋 追補：リンゴ、餅、牛乳。上高中学校長横川涉氏からの聞き：生徒数、進学率、雪、特産物、蠟石、タタラ。庄原バス道中：家の壁、土蔵の壁、南無法連華経の塚。

比和・森脇——谷口重清老からの聞き：牛の市、タタラ、ちまきと柏餅、信仰、雑煮、南無法連華経の塚。谷口さんからの聞き：寺、置き薬。毛利元旦氏からの聞き：タタラ、種牛。比和にて：看板、魚屋・八百屋の店先の商品を書きだしてある。

油木——油木中学校井上校長からの聞き：特産物、コンニャク、生徒数、コンニャクの生産高。永井信次郎老からの聞き：牛、牛市、神石牛、種牛、コンニャク。妻君からの聞き：縫い針、旧5月マキ、年中行事。帝釈～東条間バスでの話：材木について。

府中——橋本旅館 女中の問わず語りの大演説：本人のおいたち、瀬戸田の作物。番頭君談：温泉。府中二中 校長談：家庭科の設備、図面を書いてある。松岡ミソ店 横川常務 藤本氏談：生産高、原料、信州ミソとの比較、醤油、製法、樽、もやし、ミソを用いた料理。府中市内雑見：農具店、こんにゃく、青物店、瓦貼の土蔵。

道中献立・会計——2月7日昼から19日昼までの食事献立とその間の支出金の表。

車中所見——車窓日記と同様の用紙で2月7日から19日までの移動中の車窓からチェックしたもの。

新聞きりぬき——島根新聞、中国新聞、山陽新聞など旅行中の新聞からの切り抜き。

名刺・写真——旅行中に受けとった名刺と旅行中撮影の人物や風景の写真を貼付したもの。

資料——切符、勘定書、箸袋の類をスクラップしてある。

地図・バス時間——旅行した地域の略図とバスの時刻表を写してある。

107 河澄家系図

B 5 判 横書き 14頁

1964年4月19日の市原での調査の際に記録したもの。

[内容]

市原——中西家による聞き書き。明治36年～39年頃の市原の祭礼と食物に関するもの。

34×39.5 cm の河澄家系図が同封されている。

108 原

B 5 判 横書き 160枚 未製本

昭和39年5月15日から7月にかけて、高槻の原を中心に調査したもの。袋に入れられている。

[目次] なし

[内容]

原——婦人会副会長、酒屋、田中マチエ氏、清水寒天組合原試験工場、おばはん、浮円寺にて、高槻一中、岩谷先生、谷柳老人、田中平五郎婦人、岩谷ステラ氏らから雑煮、年中行事と行事食、寒天、氏神、酒。

109 都祁村 昭三九・七月

B 5 判 横書き 148頁

昭和39年7月22～26日に大阪学芸大学の2回生の実習調査が奈良県山辺郡都祁村北地区でおこなわれたさいの記録。

[目次]

1. 聞き取り 2. 死因 3. 調査計画 4. 資料 5. 写真

[内容]

都祁村周辺の略地図。

聞き取り——都祁村役場での聞き書き：くるみ餅、サバ鮓、トマト、役場の三役、寺、村会議員、地区の境界、村外就職、ゴルフ場、道路工事にともなう村外者が入りこむことについての対策、青年会、転出、村への行商、家計、便所と糞尿処理、飯場、野鍛冶、理髪師、畳屋、屋根屋、左官、大工、タクシー、医師、歯科医、洋服屋、靴屋、呉服屋、娯楽施設。都祁村村長東田氏の話：村の名物、村の産業、名阪国道開通にともなう村の将来、農業、畜産、園芸、温泉、村の人口減少傾向、村史、農業の合理化。

篠田統資料目録Ⅰ（フィールド・ノート）

下深川の酒屋での聞き書き：家業の歴史，経営規模，杜氏，動力の変遷，生産した酒の販路，酒銘，年中行事とその食事。下深川の石材店での聞き書き：石屋の数，取り引き先，原石，販路。下深川の雑貨・アイスクリーム店のおばはんの話：宮肴当番，荒神様へのお供え，ウシの鼻環，子供の買い食い。上深川区長の徳谷武雄氏の題目立の話。中峯山バス終点のおかみの話：かつての祇園社の祭り，金五郎餅，サバ鮓，亥の子のクルミ餅，富貴俵というにぎり飯，買物圈，粥，コンニャク。友田の「両白」醸造元西田氏からの聞き書き：家業の歴史，この地方の酒造家の歴史，酒造米，杜氏，販路，酒造道具。吐山の酒屋の話：地酒の評判，名所，クルミ餅，富貴俵，茶粥，サバ鮓，祭りの餅，4月3日のひし団子，彼岸のおはぎ，小豆餅，おし鮓，ちらし鮓，鮮魚。

死因——昭和37～39年のあいだの死亡者の本籍，住所，生年月日，死亡月日と病名を記す。

調査計画——調査日程，調査期間の日課，バス運行表，略地図，調査分担者，参考文献，人口と世帯数，地区別職業構成表，地区別家畜数，地区別農家経営面積表などの孔版印刷を綴じこむ。

資料——『奈良県総合文化調査報告書——都介野地区』（奈良県教育委員会 昭和27年）からの抜き書き：人口と集落，家屋形態，垣内，寺社，宗教，墓制，講，若者宿，職業，農業，畜産業，林業，鉱業，工業，商業，農業暦，役牛，植物。『無形文化財大和上深川の題目立』（小島俊次著 出版年不明 全4頁孔版印刷）を綴じこむ。『遺跡と文化財』（都祁郷土会高塚地区著 出版年不明 4頁孔版印刷）を綴じこむ。

写真——集落風景，民家，社寺，酒造道具，三枚歯の高下駄，酒壺，調査風景などの手札版に引伸した写真70枚を貼りつける。

110 筑紫湯 昭三九・十月

B5判 横書き 258頁

昭和39年9月30日から10月11日までの九州旅行の時の記録である。この旅行は宗像大社の放生会と長崎のオクンチを見に行きそれと共に北九州を回った模様である。

[目次]

1. 聞き取り——宗像・神の湊，小郡・秋月，城島，柳河・車中，佐賀・唐津，嬉野・有田・調の川，平戸・吉井，長崎・島原・口之津，日田・門司 2. 商品 3. 道中献立 4. 旅程・会計 5. 名刺 6. 資料 7. 切符・マッチ・酒・弁当 8. 新聞記事 9. 物価・天候

[内容]

宗像・神の湊——宗像大社葦津禰宣からの聞き書き：宗像大社，沖之島，神井の水，

飢餓祭り、放生会、社の職員、神楽。神湊小学校宿直先生からの聞き書き：小豆雑煮、雑煮、すし、ちまきと柏餅、養鶏、ミソヅケ。神湊泉館女中君談：雑煮、五月節句。

小郡 秋月——三井郡小郡小学校での聞き書き：雑煮、祭。山田隼人夫人からの聞き書き：柿ノ葉すし、小豆雑煮、寺、端午、粕つけ。秋月中学校安岡校長談：人口、柿ノ葉すし、寺、チマキ。

城島——城島酒造協会での聞き書き：四季醸造、杜氏、杜氏の鑑札（図入り）、杜氏の出身地、生産高、蔵人の呼び方、精米、上水道、酒唄。城島酒造会館ニテ中野タセ女史：雑煮、煮、鮓、カス汁、エツ（川魚）。城島小学校田中校長談：雑煮、寺。

柳川・車中——柳川小学校教頭某君談：雑煮、端午、行事食、ハゼ。車中の老人からの聞き書き：ハゼ、蠟工場、蠟製造法、米とわら、買物圏、エイギョーエイサ。

佐賀・唐津——佐賀図書館での聞き書き：佐賀城、砂糖、木蠟、農作物種子の輸入、生類哀れみ。中里忠夫氏からの聞き書き（唐津）：窯、ロクロ、土、灰、呼子、有田の美術館。中里弟君談：工業化、久留米餅、辻留、佐世保。

嬉野・有田・調の川——茶業試験場渡辺場長からの聞き書き：茶、栄西禅師、嬉野、窯いり茶、鹿児島・熊本・宮崎の山茶、鉄観音、茶の香り、芋、需要、価格。有田美術館主事？老談：柿エ門、古伊万里、唐津、古窯社、建物。有田中学校田代校長談：煮餅、雑煮、端午。中部小学校若菜校長談：雑煮。香の前の三婆談：ニガゴ、オクラ、チマキ。竹細工夫人談：竹細工、原料。汽車でのり合せた調ノ川産の若い男談：男節句、雑煮、正月・オクンチの料理、すし、炭鉱坑夫、亥の子。

聞取り／平戸・吉井——平戸市観光課佐保課長補佐からの聞き書き：鯨、主産物、酒屋、端午、亥の子、すし、隠れキリシタン。平戸図書館松本先生からの聞き書き：雑煮、正月の料理、端午、盆、鳶の巣、さつまいも、ハツタケ、川内浦、イヌマキ、コヒキ、千光寺、松浦微古館、平戸。平戸文化館某老談：コルネリア、お春の文。長尾直君談（後日北白川にて）：平戸の高校、城壁、カンチク、佐賀、士族屋敷の敷石。吉井中学校家庭科主任のオバチャン談：オクンチと料理、ちまき。

長崎・島原・口之津——グラバウ邸番人談：西洋ヤツデ、長崎見物。伊勢宮であったオバチャン：オクンチ、踊り、オクンチ料理、蛇船。桜馬場中学校教頭談：庭見せ、蛇踊り、雑煮、ちまき、盆。島原第一中学校にて聞き書き：雑煮、侍屋敷、餅控、梅、酒。口之津中学校にて：主食、口之津の船員、農作物、ハゼ、端午、猪の子、秋祭り、山茶。

日田・門司——日田月隈小学校教頭談：赤米田、香米。薫長主人安富談：店の由来、杜氏、消費量。古城小学校日直談：学校の規模、親の職業、糠味噌煮。

篠田統資料目録Ⅰ（フィールド・ノート）

お店のうりもの——福岡県神湊・柳川、佐賀県伊万里・日田の魚屋や八百屋においてある商品を書きだしてある。

道中献立——9月30日飛行機の中のおやつから10月10日昼兼夕食までの献立を書きだしてある。

旅程・会計——同期間の着発の時間と感想、経費を書きだしてある。

名刺——もらった名刺を貼付してある。

資料——しおり・パンフレット類を貼付してある。

切符・まっち・酒・おべんとう——切符とマッチ・酒のラベル、弁当の包紙を貼付してある。

新聞記事——新九州、佐賀新聞、西日本新聞、大分合同新聞、長崎新聞からの種々の記事の切り抜き。

物価・天候——新聞からの市況と天候欄の切り抜き。

111 文化十年山片重芳仙台下向日記

B 5 判 縦書き 68頁

内扉に「山片文書のうち 山片重芳文化十年仙台下向日記」と記されている。「山片平右衛門重芳十年仙台下向日記」の写し。山片重芳（1764年生）は大阪の豪商で。仙台藩の蔵元を務めた。有坂隆道氏による翻刻・紹介が挟んである。（『升屋平右衛門山片重芳の文化十年仙台下向日記』『関西大学文学論集』8巻4号所載昭和40年3月）。製作年代は不明であるがこの抜刷の年代から類推してこの順番に並べた。山片重芳の仙台下向経路の先生手描きの地図が添付されている。

[目次]

1. 本文に見える大名衆 2. 仙台藩職制 3. 本文に名が現われる著名人・名物等 4. 山片平右衛門重芳文化十年仙台下向日記 5. 山片重芳仙台下向経路（地図）

[内容]

本文に見える大名衆（旗本の一部を含む）——呼び方、本名、石高、領地の項目をもうけた一覧表。

仙台藩職制——職名、定数、本日記に見えるものとして席順・氏名を表にしたもの。

本文に名が現れる著名人・名物等——人名、品名など30項目をあげ、関連地名と頁を記す。

山片平右衛門重芳文化十年仙台下向日記——日記本文の写し。正月18日～5月3日の大阪・仙台間往復の様子を記したもの。旅程の他に食事の献立についても書き留められている。本文の上部に余白を設け、記載項目を略記す。57頁にわたる。

山方重芳仙台下向経路（地図）——B4版のトレーシングペーパーに、200万分の1縮尺の地図を写し、コースと宿泊地を記す。

112 芦生採菌行 昭四〇・七月

B5判 横書き 68頁

昭和40年7月23日～27日に京都大学の芦生演習林で日本菌学会関西談話会主催の採集会がおこなわれ、それに参加したさいの記録である。篠田先生は菌類にも興味をもち「学者聞書」（『風俗古今東西』所収）にくワッソン老人きのこ談——メキシコの幻覚菌——>の文章も残しており、しばしばキノコの採集に出かけている。この採集行の団長は親友の故浜田稔京大教授であった。

[目次]

1. 芦生演習林採集会 2. 生活資料 3. 採取菌類 4. 写真

[内容]

芦生演習林採集会——採集地の地図（ブルーコピー）、採集会参加者名簿（ブルーコピー）、行動表。演習林運転手の話：林業、縁組、キノコと山業、買物、行商人、祭り、山ノ神祭り、野獣、伊勢講、葛屋、木地屋、花卉栽培。もう一人の運転手の話：石数、学校、稲作、林業、亥の子餅、食用野獣、テレビ。トラックで一緒になったおばさんの話：年中行事と食事、生杉集落の概況、交通、買物、農業。鳴き声を聞いた鳥のリスト。出会った動物のリスト。菌以外の採集植物のリスト。

生活資料——地酒「初日の出」、土佐銘菓「陣羽織」のラベルを貼る。

採集菌類——採集した菌類36種の写生図に学名、和名、採集年月日、地名、図鑑、の該当頁を付記する。1種を1枚のカードに記し、精密な鉛筆のスケッチに色鉛筆で着色をしたカードを貼りつけてある。

写真——周山、芦生、生杉などで、集落、民家、宿舎、同行者、植物を写したものを手札判に焼きつけたカラー、白黒合計42枚を貼りつける。

113 飲膳正要 （山形）

B5判 横書き 92枚 未製本

昭和40年10月6日～17日の東北の調査旅行の折のものとおもわれる。フィールド・ノートとして、後に製本する予定のものと思われ、内容ごとに表紙がつけられている。また、各部の表紙となる部分に番号がはいっており、製本の時の順を記したものと思われる。

〔目次〕

1. 会計 2. 献立 3. 大山・湯野浜 4. 矢島 5. 金浦道中 6. 本荘 7. 亀田 8. 酒田
9. 仙人沢 10. 鶴岡 11. 新庄 12. 尾花沢・大石田 13. 寒河江 14. 山形・蔵王・山
寺・上ノ山 15. 米沢 16. 磐梯 17. 会津若松 18. 車中所見

〔内容〕

会計——6日から17日までの諸費用が、各日毎に記されている。

献立——6日から17日までの献立を三食ごとに、旅館名や値段も含めて、記している。

大山，湯野浜（10月7日）——鶴岡西高海老名八郎校長による話：西校の学区，山形県の料理，ハンコタンナ等について。加藤富三郎（富士一・酒造業）：大山杜氏，酒唄，文書，漆塗道具等について。湯野浜亀屋仲居（10月7日）：正月，節句，祭の料理について。

矢島（10月20日）——矢島高校にて：矢島の地方料理（あゆのすし，山菜）等について。佐藤敬一氏（出雲の雪・酒造業）より（10月8日）：地杜氏，酒唄，近江の酒造等について。

金浦道中（10月8日）——女（行商）：梨，柿，ハタハタ，鰯，カニ，魚料理，そば，祭料理。

本庄——本庄東小・松永校長（10月8日）：秋田の風土（県北と県南），正月料理，ハタハタずし等について。若松勝一郎（10月8日）：永泉寺（曹洞），鮭，ヨモギモチ，ハタハタずし，茸。

亀田——佐藤・清正蔵。

酒田（10月9日）——象潟・女学生3人：正月雑煮，すし，5月節句，果物，きのこ。酒田女子高校渋谷繁雄（教頭），小松しげる（家庭）（10月9日）：正月料理，粥ずし，むきそば。本間センセ（理科）：キノコ（食べ方，種類，方言），粥ずしの作り方。佐藤弥太郎，大淵光治氏（10月9日）：料理（箒の実，むきそば，山菜，雑煮，節句料理），祭，盆，講，産物。

仙人沢——弥宣（10月11日）：雪，湯殿山祀神。途中でバスにのった男：月山登山。宿の姐ちゃん：ベニマス，キノコ。田麦俣の少女：正月雑煮，五月節句，すし。

鶴岡——駅の売店の産物。致道博物館犬塚又太郎館長，上の博物館杉村勇造氏（10月11日）：ゼンマイ織，シナ織，藤布，田の虫よけ，蟹，ハタハタ，魚の料理法，納屋汁，納豆汁，むきそば，五月節句料理，法要料理。鶴岡北高校戸川安章（10月11日）：民俗，料理。

新庄——駅前市場(10月12日) 商品リスト。新庄南高校／早坂教頭・結城教諭(家庭)・武井教諭(社会)(10月13日): 正月料理, 肥しよい, 蓑, 山漆, マタギの風俗, 鮎ずし。渋江染物店: 織物について。

尾花沢, 大石田——尾花沢高校(10月12日): 雑煮, 料理, 山菜, 五月節句, センマイ綿。尾花沢の駅でおばあさん(10月12日): 正月料理, あんこ餅, こんにゃく, モンペ。

寒河江(10月13日)——八百屋の店先にならんだもの。宿屋の副業。寒河江高校にて: 熊木, 紅, 山で利用するもの, 五月節句, ヒヤシル, 男児7才の祝い, 庄内の年末年始の献立, 田ノ神の供物, 餅。山形県林産加工指導所: 方言, 食用キノコ, 培養むきのキノコ。

山形・蔵王・山寺・山ノ上——山形大学教育学部家庭科斎藤教授(10月13日): 紅, 紅花染, ぜんまいの綿, カスリ・シマの作業医。

米沢——米沢興譲館高校吉田先生(10月15日): 他の知識人の紹介。米沢東高校武田先生(10月15日): 酒造りと杜氏, 雑煮, 農業関係の祀神中心, 風俗, しか迎え, ぜんまいの綿, クルミの染色。安部英男(10月15日): 市観光課。

114 宮島詣 四一・六月

B5判 横書き 162頁

昭和41年6月3日京都発, 安芸宮島での日本風俗史学会研究会に出席したのち, 柳井から周防大島, 松山, 呉, 広島, 蒲刈島, 今治, 大三島, 因の島など瀬戸内の島々を訪ね, 尾道に出て6月11日帰路の旅の記録である。その旅程表およびルートマップが巻末に付されている。この旅行は「逢の水車」(『風俗古今東西』社会思想社 所収)にまとめられている。

[目次]

1. 宮島 2. 風俗史学会 3. 久画 4. 惣那 5. 呉・広島 6. 蒲刈 7. 豊島 8. 木浦 9. 岩城 10. 土生・瀬戸田・三原 11. 道中献立 12. 旅程・会計

[内容]

宮島——宮司から神社についての聞き書き: しもつかり。

風俗史学会——宮島研究会, 研究発表要旨プリントが主。

久画——酒造関係, 行商人, 漁業。

惣那——島の概要, いずみや, 鮓, 石工, 果物, 八百屋の店頭で売る品物, 雑煮, 海上交通。

呉・広——この地方の概況，教育関係。

蒲刈——農業，漁業，結婚，寺と学校，鮓，餅，雑煮，飯いろいろ，薩摩汁。

豊島——寺，漁業，結婚，鮓，雑煮，醤油飯，おたいや，報恩講，祭り，教育，食用野草，餅，甘藷，ミノ，機織。

木浦——連絡船，雑煮，餅，晦日そば，鮓，節分，餅，米，甘藷，ゼラニウム，船員と杜氏と，結婚，寺，宮ノ島の概要，八百屋の商品。

岩城——高校教師の話，水車，杜氏，菓子，島の歴史。

土生・瀬戸田・三原——製塩，連絡船，教育。

道中献立——旅行中の三食の献立を書く。

旅程・会計——旅程図と旅程の記録。会計のタイトルはあるが会計の記録はおさめられていない。

115 笠沙

B 5 判 横書き 192頁 未製本

昭和42年5月19日より29日まで，九州へ赴いた折のもの。

[目次]

1. 大牟田・熊本 2. 出水・川内・串木野 3. 甕島 4. 伊作・金峰・笠沙 5. 枕崎・鰻・指宿 6. 鹿児島・苗代川 7. 道中献立

[内容]

大牟田・熊本——大牟田，明光学園と熊本，市立高校の教師に鮓，雑煮，魚について聞書きしたもの。

出水・川内・串木野——タクシーの運転手，出水高校長，川内の釣道具屋，串木野，村浜 豊吉氏に，竹・鮓・産物について聞書きしたもの。

甕島——上村良平氏，和田直人氏，塩田末喜マダムから，風土病，産物，祭，雑煮，鮓について聞書き。

伊作・金峰・笠沙——伊作高校家庭科主任田中万亀さんから，鮓と正月について，金峰町役場，諏訪政行氏，大昭工業の運転手，黒瀬片平氏らに主に杜氏について聞書きしたもの。

枕崎・鰻・指宿——枕崎の運転手に土地柄を，鰻熱帯植物苗圃，鹿大指宿試験地石畑助手等から，植物の生態に関して聞書きしたもの。

鹿児島・苗代川——辻本，田島君から風土について，山元政明氏から焼酎について，荒木幹二郎氏，沈寿官婦人から陶業について，聞書きしたもの。

垂水・高山飴肥——十五郎そばの婆さん、野鍛冶、九州公豚社等での聞き書き。
道中献立——5月19日より29日まで旅行中の食事の献立が書き込まれている。
商店街——八百屋や魚屋等に並べられた商品が記してある。
雑——各所で気付いた、事柄が書き込まれている。
最後に5月19日より6月2日まで移動中の車窓から植物の生態を観察した、ノートが封筒にいれられている。

116 吹上日記 昭四十二（一九六七）年

12×7.3 cm 横書き 148頁

5月18日から6月3日までの九州旅行の旅日記。小形の手帳に記したメモでこれを転写した内容が115のフィールド・ノートにみられる。

[目次] なし

117 諸国聞書（北河内）

B5判 横書き 200枚 未製本

後にフィールド・ノートとして製本するために整理されたと推測されるもの。主として1967年から1969年の調査での聞き書きであるが同北河内地方での聞き書きを年代に関わりなく集めており、年代には幅がある。内容も生活一般から祭事等の幅広いものである。目次はないが、地域ごとにまとめて表紙がつけられている。話の内容は主として明治頃が中心で以下戦前までをのべていることが多い。

[目次]

1. 河内・鴻池新田 2. 鴻池・福田文書 3. 西諸福 4. 諸福 5. 片町 6. 蒲生・今福
7. 掘溝 8. 巢本・木屋 9. 常稻寺・古川橋・一番・稗島 10. 布市・小豆雑煮・吉原・石切
11. 木田 12. 松村・田中・南樋 13. 住道 14. 野崎 15. 徳庵

[内容]

河内・鴻池新田——好川清子（明治42年生れ）による鴻池旧事談：昭和41年6月22日・7月18日の聞き書き、寝屋川の船運、酒、米の値段、魚・野菜売りの様子、祭りと行事食、汽車の開設。寺川卯吉（明治10年生れ）による四条畷古事談：昭和41年7月15日の聞き書き。鴻池会所の草分け、会所の様子、鉄道の施設と鴻池との問題、物売り、川の決壊による浸水、祭。福田弥三郎氏マダムによる鴻池新田の古事談：昭和41年7月12日の聞き書き、実家の料理屋の様子、青物、魚売り、運搬船、祭、料理。おふみ（昭和41年10月18日）聞き書き：料理、宮参りの話。福田弥三郎孫娘：（昭和42年9月6日）三笠山 [料亭]。

鴻池・福田文書——鴻池新田，福田弥三郎文書「大正10～15年頃の船熊（船運送）のツケ」，「昭和2年婚礼御祝控帳 第1月27日」，「明治32年買物帳 3月22日」。

西諸福——東山辰蔵（明治25年生れ）：（昭和42年9月5日・14日）鴻池善右ヱ所門有の堰の堰守。堰・川岸の様子，舟宿，舟荷，平野屋の会所等について。

諸福（好川婦人）——好川清子による諸福の船頭の話：（昭和40年6月2日）船熊。水野植田安治郎（昭和44年10月30日）聞書き：肥料を専業にしており，そのための船や肥料集めの状況等。

片町——四ツ橋電気科学館に於ける（大正6年生れ）による片町の話の聞書き（昭和43年11月9日）：寝屋川船頭の船宿，夜店，汁粉，巡行船等。鍛冶や鍛冶元による片町の話の聞書き（昭和43年11月18日）：戦前の鍛冶元の話。

蒲生・今福——加藤富美江祖母（明治26年生れ）（昭和44年2月15日）：野崎参り，船頭，巡行船，実家。

堀溝・長谷川宗三老母，単本——長谷川宗三老母（明治27年生れ）による聞書き（昭和41年9月17日）：家業（モヤシ），麦芽業，舟運送，年中行事の料理，野崎参り等。バス停の男（堀溝鼻橋にて，昭和41年9月17日）：寝屋川と舟運送。長谷川宗三郎隠居による堀溝の話（昭和41年10月17日）：年中行事と料理，大阪への交通，織物，冠婚葬祭，井戸掘り。

巢本——中村喜一郎（明治29年生）の話（昭和42年9月20日）：農家，下肥の購入先，正月雑煮。

木屋にて——老人の（昭和44年3月17日）：枚方切れの碑，水争いの赤井堤。

城東興業KK——昭和44年10月30日。城東区内の下肥汲取業者の団結によって設置。戦時中，国家総動員によって統合，運送は別に興農運送を設立。

常稻寺・古川橋・一番・稗島——奥田繁太郎（明治38年生れ）による聞書き（昭和43年4月14日）：船頭家業，下り荷，上り荷，仕入れ先，川路の様子。古川橋老百姓（明治33年生れ）の話（昭和43年4月8日）：肥屋とその仕事場，京阪が出来るまでの交通路，古川の堰のこと蓮池。平田氏（明治41年生）（昭和43年4月14日）：船頭から後米屋となる，船頭の時の周囲の様子，御堂の報恩講。一番路傍の老人（明治29年生れ）（昭和43年4月14日）：蓮根とクワイ，料理法。表口義雄（大正6年生）（昭和43年4月14日）：古川岸の船頭，積荷及びその仕入れ先，蓮根・クワイの料理，正月の雑煮，祭の料理。三ッ島早瀬藤松（明治27年生れ）（昭和43年4月8日）：早舟家業のはじめ，利用客，蓮根，クワイの料理法，アヒル飼い，選挙権，農地改革等。稗島長谷川末吉（明治16年生）：古川べりの宿や，一膳めし，現在タバコや，舟宿，蓮根の食

べ方。岡田（明治37年生れ）（昭和43年4月8日）：菓舟の仕事。中道茂三郎（明治33年生れ）の話（昭和43年4月14日）：回遭の家業、早舟、積荷、盆栽、蓮根の料理、粽、アヒル、祭、衛生面等について。

小豆雑煮（吉原）——河内市（旧看津町）吉原、藤井信良老人（明治14年生）、生田清一郎（席かし）、大井嘉信（生駒郡富雄人 日下市箕輪 夫人里方にあり）、広藤隆夫青年（ガイド）、飯田喜代子女子（荷物持たせ）による（昭和30年2月24日）聞き取り調査。Madame：吉原の檀家、講の種類、氏神、祭。藤井老：村の始まり、雑煮、村役、宮座、墓、行事、若組、伊勢講。河内吉原生田夫人による河内市吉原の話：節句の料理、祭の料理について。河内石切日下にて藤井さんの話（昭和27年4月24日）：石切の水車業の特性。河澄（元日下村長）の話：河澄屋敷、酒等。井上氏の話（主人は春日山の小学校長）：香時計と宮管理の池。

今福——北井太蔵（明治41年生）（昭和44年3月24日）：肥家業、舟、縄張り、業者組合。

木田——楠芳二母親の話（昭和42年9月16日）：早船家業、舟、航路、船頭、積荷。

大利——平田熊次郎（明治42年生れ）による話（昭和42年9月16日）：早船家業、舟、航路、積荷、モーター船、肥屋との関係について。

木屋、樋口氏——樋口豊三郎（明治42年生れ）（昭和42年8月10日）：旧樋守で米卸し家業、舟積、周辺の家業、本家。

大森・荒木——荒木長次による秦大秦の話（昭和42年3月3日・13日）：寝屋川の船、明治41年の大火、古墳、汽車、タバコと木綿、野崎参り、秦と大秦の民俗の違い（特に祭り）。

中の 松村・田中・南樋——村松製菓御主人（昭30生れ—明治30年生れの間違いと推測）（昭和40年5月7日）：麦芽業としてデアスターゼを製造。製造法、収め先、ビールやアメ向けの麦芽の製造法。田中康夫の話（昭和40年5月28日）：家業の始め、収め先、製造法、製造時期、製造種類。角樋一三（寝屋川市堀溝）の話（昭和40年5月28日）：麦芽の製造法、収め先、蔵出し値、費用。角樋のオバアサンの話：麦芽業を初めた頃の状況。

麦芽——白井清太郎麦芽工場での聞き取り（昭和40年6月2日）：麦芽の乾燥、原料、生産量、アメ屋。

麦林——麦林猶一（野洲日本麦芽工業KK社長）、麦林樽太郎（同工場長）の話：（昭和40年6月26日）麦芽業を始めた状況。収め先の変動（アメ屋からビールへ）。製造法、製造種類、原料、製造量。

寝屋——松木源三郎（昭和43年3月23日）：寝屋源（雑貨屋）。天満朝市，商物，行事・節句の料理。

新喜多——老婆（明治26年生れ）の話（昭和44年3月24日）：八日びについて。

住道・赤井・御供・氷の——横山耕一（明治28年生れ）の話（昭和41年9月8日・17日）：早船，用水，河内木綿，相撲。川舟の種類と大きさ，伊勢参り，行政の状況。

東谷新蔵のこと——東谷信蔵（明治26年11月5日生れ）による新蔵氏の話。（昭和43年3月28日）：龍紋氷室への氷の運搬を家業としており，運送，他の船荷，価格。

住道・角谷——角谷老婆による住道の話（昭和42年4月10日）：通船からトラックの運送に転換。運送範囲，積荷，住吉神社，正月雑煮。

赤井——北西鶴吉による旧南郷村赤井の話：農家の船利用，寝屋川の舟，汽車，堰。

御供田——桑木氏による御供田の話（昭和42年8月24日）：大正12年頃，舟は既に下火であった。石田自転車店（昭和42年8月24日）：御供田の船頭，藤の漂白等について。

氷野——宮裏豊吉（明治40年生れ）による氷野の話（昭和42年8月7日・9月4日）：船頭の仕事，宿，船賃，祭りの仕事等。鴻池の堰の写真，赤井の写真，住道住吉，茨田浜。

野崎——野崎観音堂守の男（明治18年生れ）の話（昭和42年3月9日）：野崎参りの船，八日びの祭りの様子。広瀬さんの話（昭和42年9月6日）：鴻池の堰，水上り（洪水），野崎参り，肥や，もやし，交野の言葉。

津之辺，前川——前川老人の話（昭和42年8月7日）：床屋，舟福の舟頭，積荷の竹細工。

四条畷——植田老婆（堀勘の娘）（昭和41年9月19日）：麦芽業の初め，積出し，もやし業。

雁屋——堀内老（雁勘）の話（昭和42年9月6日）：早舟業，同業店，積荷，船頭，代金。

清瀧——平尾兵吾の話：長尾の王仁塚，相撲，浄瑠璃，酒造家，雁塚，寺小屋，賤民。

徳庵——徳野道一老の話（昭和42年3月13日・9月18日）：運送業の初め，住吉神社の勧請，船積荷，明治18年の大火，火の玉。写真についての話。今津の堰，鴻池の樋。「クラワンカ」について他。

茨田浜町——西本甚太郎（明治38年生れ）（昭和41年9月7日）：神武天皇の伝説，

村の生活慣習，船頭，明治18年の水害，クワイ，蓮根の料理，大阪への交通，祭，電気，寝屋川の舟の種類，買物。西本老母の河北の話（昭和41年9月18日）：河北の船頭，節句，行事の料理，宮座，講等について。

118 無題

14.5×8.7 cm 横書き 146頁

1968年大阪銀行の手帳を転用，フィールドでのメモ，研究会のメモとして使用。

[内容]

研究会発表についてのメモ（梁武の天蓋説・アマゾンの Ethnolotary・左？山人子集・アフリカ行・朝鮮研究）。醸造物の保存・調整剤，食品添加物について。

119 諸国聞書 近畿

B5判 横書き 140頁 未製本

フィールド・ノートとして後に製本する予定とみられ，本のケースに収められている。調査場所，日時についてははばが広く，何度か行われたものの中から近畿地方のものを寄集めたと考えられる。しかし年代としては昭和47～49年になっている。内容は各調査地によって分けられ，表紙がつけられている。

[目次] なし

[内容]

伊賀・音羽——音羽について，福森かずへ，稔増藤雄：寺と祀神，祭りのコノシロのつくり方，宮座等について。

同——福谷半助老，稔増藤雄老（昭和39年12月10日）阿山村音羽：コノシロ，乳の宮さん，祀神，寺社の祭と料理，行事の料理等について。

甲州談——小林泰重（昭和48年11月28日）：ブドウ栽培，保健所の問題，教育施設等について。国岡氏の話（昭和29年3月3日）：用ヶ瀬の旧家，家系，家業，当地方について。

生駒郡・富雄——富雄。宮座，厄年（42才）の料理等について。伊勢山田にて：厄年の行事について。辻井春雄（昭和29年1月1日）：家業の洋服屋について。

河内——河内長野，西条酒店（昭和28年9月26日）：酒造関係（杜氏，穴入，小作，糀他），家系について。高向（昭和27年2月）：祀神と祭，行事料理等について。

上賀茂神社にて——藤木保治氏（昭和43年12月8日）：上賀茂神社の行事，信仰，葵祭，建築等について。成田すぐき工場（上加茂）（昭和43年12月8日）：すぐきの作

り方について。

鮎すし屋由来——大溝喜多品店にて（昭和46年5月9日）：店の由来について。

靴具波志神社誰説——藤富士雄：加島町の歴史，鍛冶，稲荷祭神の祭，祭の料理・御供，正月雑煮，行事と料理，西淀川14社，藤姓等について。

山之芋掘り——昭和46年10月20日 京（北白川から比叡山にかけて）の山之芋掘りについて。

個人タクシー運転手——昭和47年3月30日。タクシー業について。

傘・提灯や——東野豊吉（昭和44年10月30日）：傘・提灯の販売，家業について。

松吉懐古——松谷吉蔵（昭和49年7月16日，7月29日）：宿屋業（客膳，客あしらひ，部屋等を現在，他の旅館と比較しながら）について。

タクシー運ちゃん——昭和49年6月13日，バプテスト～NHKの間。タクシー業について。

佐伯鉄工所——昭和49年7月13日。家業（自動車部品，修理）について。

大野高光——昭和49年9月12日。鍛冶家業について。

大和——結解料理献立 東大寺，御鯰屋獵助からのハガキ1枚 すしの作り方について

奈良，東山，昭和38年10月4日——水間小校長。水間，水間小学校について。水間小教員：水間について。室津バス停にて：生活着について。下水間橋のそばでの職工の話：作物と中辻家について。東山中の校長：学校の様子について。松尾の鉄工所：家業（製茶道具と農器具の製造），松尾の祭について。福谷野鍛冶：野鍛冶家業について。北野小前 バスマつ男：植林，炭焼き，行商について。

春日——波田野中 教頭・波多野小 校長：所属文化圏（伊賀），未解放部落，生活調査，食習慣等について。播久好氏：自家について。

市原聞書——瀬戸憲久老人（昭和47年9月25日）：村の作物と利用法，買物先，馬喰，祭り，雑煮，産婦等の生活慣習について。

同老人（昭和47年10月2日）：ハゼウルシのおはぐろ，鬼童丸伝説，塩，山之神・野神の祭，講（伊勢・あたご・観音・行者），山芋，山椒，またたび，蒨等について。

恵光院にて——昭和47年10月2日。寺の歴史について。

鯰ずし——北野オー（昭和47年9月23日）：三輪明神の祭礼に用いる鯰ずしについて。附，名刺2枚。

120 台湾山地聞書 1 タイヤル族のA 高德生

B5判大学ノート 横書き 60頁

昭和48年5月14～6月6日の間、台湾に行ったときのフィールド・ノートを整理し
 浄書したものと思われる大学ノートが5冊「台湾山地聞書」というタイトルで残され
 ている。その第1冊であるこのノートは、5月17～23日に南投県のタウザにおいて投
 宿した雑貨店の主人である高德生氏(当時55才)から、タイヤル族の民族や食物につ
 いて聞き書きしたものである。なおこのさいの調査の結果は「台湾山地民食生活瞥目」
 (同行した尾崎千恵子と共著、『季刊人類学』5-2 1974年)と「台湾風俗」,「台湾山
 地民聞書」(いずれも『風俗古今東西』1984年社会思想社所収)にまとめられている。

[目次]

1. 村の概要 2. 村の作物 3. 動物性食品 4. 調理・加工 5. 狩猟 6. 人生儀礼 7.
 その他の民族 8. 歌唱 9. 伝承 10. 補遺 11. 高家間取り図 12. 高家献立

[内容]

村の概要——南投県のタイヤル(トクダイラとセーザック。トロクとタウザガセー
 ザック), 学校。

村の作物——焼畑, 土地所有, 粟の耕作とその儀礼, 俗信, 収穫祭, コメ, 豆, 吉
 備, 芋類, 葉菜, 山菜, 茸類, 愛玉子, 調味料(食塩, 胡椒の代用品), 果樹, 麻,
 洗濯用,(4種の植物をあげる)。

動物性食品——家畜(牛, 豚等)。家禽(鶏, 七面鳥等), 野味(山豚, 鹿, 山羊
 等), 漁(もんどり, 投網, 釣, 魚藤, 川狩の行事等), げて物(蛇, とかげ等), 虫。

調理・加工——粟の調理法, 餅, 弁当, 鳩麦, 芋類, 竹の子の調理法, サマ, 漬物
 (魚・野菜), 料理法(煮る, 焼く, 干す), 火, 鍋, 竈, 三石竈。

狩猟——猟場, 小屋, 猟期。

通過儀礼——成人式(耳に穴, ブヌンは抜歯), 結婚式(猟, 餅), 里帰り, 婚約,
 入れ墨, 結納, 出産, 食べ物にまつわる禁忌等, 葬式。

その他の民俗——キリスト教以後の人生儀礼, 年中行事, 匙の使い方, 匙の凶, 呪
 師, キリスト教各派, 神観, 歯, 掘棒, 南十字星, 豚の殺し方, 病気。

歌唱——入山歌, 下山歌, 若者の歌, 娘の歌, 山の獲物のよかった時の歌, 宴会歌。

伝承——シン鳥の豪いわけ, 犬の舌はなぜ黒い, 2つの太陽, 猿のはじまり, 黄金
 時代, 人間のはじまり。

補遺——尾崎氏の筆によるとと思われる衣類の図と説明(女性用の上衣, 下衣, 手甲),
 田舎の駐在所, 除草, トロクの奥, 産業道路, 上方訛り, 霧社事変の思い出, 婚期,

あいさつの言葉。

高家間取り図。

高家献立——5月17日昼食～5月23日朝食までの献立。

121 台湾山地聞書 2

B5判大学ノート 60頁（44頁以降白紙のまま残す）

表紙に副題として「タイヤルのB」と記され、袁進丁、尤ワンジ、周治輝、何莫孫、孫光明、ワタンリ、大山てる子ら7人の話者の名が挙げられている。昭和48年5・6月、台湾を旅行した際、タウザ滞在中に行なった聞き取り調査の記録。

[目次]

1. 袁進丁 2. 尤ワンジ 3. 周政輝 4. 何莫孫 5. 孫光明 6. ワタンワリ 7. 大山てる子

[内容]

袁進丁（農業）——山の作物（果樹類、椎茸、木耳、麻）、サマ（茶になる）、その他の植物（里芋、野生瓜など）、動物（家禽、家畜、熊）、雑貨、病気、酒屋（酒の価格・種類）、ルブ、三石竈、廬山温泉、娘のこと、獺（狩獺の呪文、狩獺儀礼、禁忌、わな、獺期、鉄砲、山小屋、獲物の売買・交換、花蓮との交流）、口頭伝承（山間に住むようになった由来、霧社事変、女の始まり、人間のはじまり、2つの太陽他）。

尤ワンジ——作物（アワ・イモ・米他）、野生作物（マッカリ・山りんご他）、動物（野生）、鮓、食塩、酒、成年式、狩獺。

周政輝——穀物（米、粟、黍他）、豆類、芋類、葉菜、その他の植物性食物（大根、唐辛子他）、竹の種類、木（茶、枇杷他）、動物性食物（野生動物、家畜、蛙、蟹など）、食事（主食、調味料、食器）、衣類、衛生、住宅、救荒植物、今日の若者。

何莫孫——狩獺、漁、蜂（野生、飼育）、兵役。

孫光明——村の由来、動物（蛇・虫）、竹、近頃の若者、昔の若い男女、離婚、身の上話、従軍の思い出。

ワタンワリ（長老教会伝道師）——キリスト教教会、長老教会信者数。

大山てる子——村の由来、主食、副食、鮓漬、調味料、食事作法、調理法、箔。

122 台湾山地聞書 3 ブヌン、採集植物目録

B5判大学ノート 横書き 56頁

ブヌン族および、同族をよく知る者からブヌン族の民俗を聞き書き。後半は山地で採集した植物標本82点のリストがある。

[目次]

1. 巡査某 2. 呂天曉 3. 高陸男 4. 全春福 5. 全春榮 6. 黄金安 7. 語彙

[内容]

巡査某——仁愛郷のブヌ族部落名と戸数、狩猟慣行。

呂天曉——穀物、飯、豆と芋、動物性食品、塩、油、酒造り、救荒植物。

高陸男——食習慣、飯、粥、穀物、芋と豆、果実、ネズミを食べる、口嚼酒、機織り。

全春福——村の歴史、村の概要、穀物（粟、餅など）、野菜、調味料、香辛料、野生動物食、魚、酒造り。

黄金安——村の歴史と概況、食習慣、主食、芋の焼きかた図、作物、果実、調味料と香辛料、家畜、野生動物食、魚、酒造り。

ブヌ語彙——栽培植物、食用動物を主としたブヌ語彙26語をローマナイズして書いたもの。タイヤル語を対照させたことばもある。

採集植物目録——食用を中心とした有用植物標本82点について、ラテン語学名と和名と用途などを記してある。

123 台湾山地聞書 4 アミ、ピュマ、ルカイ、パイワン、道中記

B5判大学ノート 横書き 56頁

アミ族6名、ピュマ族、ルカイ族、パオワン族各1名からの聞書きと台湾調査の交通費、食費の計算を記したもの。

[目次]

1. アミ Aポクポク—張阿標・90老・教会婆, Bバターン—王錫山・呉仁考, Cタバラ—万仁光 2. ピュマ—孔仁志 3. ルカイ—陳紹寛 4. パイワン—趙生隆

[内容]

アミ——張阿標（アミ族、旧ポクポク社）からの聞書き：主食、副食、漬物、食用家畜、酒、漁業、塩、水、祭り、戸数、楽器、女の地位。90老（アミ族、旧ポクポク社）：主食、副食、酒。教会婆（長老教会の女性、旧ポクポク社）：主食、副食、チマキ、豊年祭。王錫山（アミ族、旧バターン社）：穀物（米、餅、粟など）、芋と豆、果実、香辛料、狩猟慣行、病人・妊婦に間食をさせる、魚（毒流し魚法）、塩、漬物、酒づくり、チマキ、海岸アミ族の概況。呉仁考（アミ族、旧バターン社）：主食の変遷、作物、塩代用植物、動物性食品、肉・魚の塩漬け（毒流し魚法）、キリスト教、歌と踊り（楽器）。万仁光（アミ族、富田村）：米食の変遷、副食、果実、酒造り、狩猟、魚、

塩、祭り、住居、大家族。

ピュマ——孔仁志（ピュマ族，台東県卑南郷利嘉村）：ピュマ族の概況，主食，芋と豆，野菜，野生食用植物，果実，狩猟，漬物，酒造り，塩。

ルカイ——陳紹寛（ルカイ族，台東県卑南郷大南村）：村の概況，穀物，野菜と香辛料，狩猟，酒造り，塩。

パイワン——趙生隆（パイワン族，大東県卑南郷新園村）：村の概況，主食，副食と野菜，肉，魚，酒，塩。

道中費用（劉君支払分）——5月15日から6月1日の間に支出した交通費と食費がリストになっている。おそらく，この間に同行した劉斌雄氏（現在，中央研究院民族学研究所長）に立替えてもらった費用を決算したさいのひかえと思われる。

124 台湾山地聞書 5 道中日程

B 5 判大学ノート 横書き 56頁（うしろの3頁は白紙）

台湾旅行の日記である。1日分を2頁に記し，左頁にその日の食事の献立と間食について書き，右頁に1日の行動について簡単に記している。

〔目次〕 なじ

〔内容〕

5月14日——尾崎千恵子氏と大阪空港発，台北着，中央研究院民族学研究所訪問。

5月15日——台北で入山許可をとる，中央市場，孔子廟，保安宮，大龍市場を見学。

5月16日——台北～埔里～愛蘭～埔里。愛蘭の平埔族部落見学。台北～豊原間の車窓より見た植生を栽培作物，園芸品種，野生に分類し32種記す。台北～埔里間では栽培・野生の2分類，17種，愛蘭村落内では栽培・野生の2分類，31種の植物を記す。埔里泊。

5月17日——埔里～霧社～タウザ。タウザ高德生氏宅に投宿。山胡椒，塩の実，馴れ鮓を見る。霧社・タウザ間に見た10種の植物を記す。

5月18日～22日——タウザを中心に周辺のタイヤル族の村を調査。

5月23日——タウザを出て，過坑のブヌ族調査。埔里に泊る。

5月24日——埔里～台中～台南～高雄。台南・高雄で市内見物，高雄泊。

5月25日——高雄～台東。市内見物。

5月26日——台東周辺でピュマ・ルカイ族調査。

5月27日～28日——台東～光復。その周辺でアミ族の調査。

5月29日——光復～花蓮。アミ族の調査。

5月30日——花蓮～台中～水里。

5月31日——水里～信義～和社～水里～台中。信義までの車窓より見た植物10種，
羅那付近の植物10種，和社の小学校付近の植生を記す。

6月1日～5日——台中～台北。台北で，博物館見学など。

6月6日——台北発，大阪着。

125 1 Tauza

B 5判大学ノート 横書き 70頁

昭和48年に台湾を旅行した際，タウザで聞き取り調査した記録。「台湾山地聞書 1・
2」はこのノートの内容を清書したものと思われる。

126 2 Tauza Bunun Ami

B 5判大学ノート 横書き 58頁

昭和48年5・6月に台湾を旅行した際の聞き取り調査の記録。「1 Tauza」と同じく「台
湾山地聞書 1・2」はこのノートを清書したものと思われる。

127 学者聞書 1 昭43・9月

B 5判 横書き 224頁

昭和37～43年，27人の学者から聞いた様々な話を記す。ほかに滋賀民俗学会（昭和
38年11月10日）のノートと発表資料，青木正児書簡を付す。この調査と「128 学者聞
書」の調査は「学者聞書」（『風俗古今東西』社会思想社 所収）にまとめられている。

[目次]

1. 赤塚久兵衛 2. 池田安之助 3. 石神襄次 4. 干景讓 5. 植木 6. 岡田 7. 後藤良
造 8. 雑賀宏 9. 斎藤実 10. 笹子義江 11. 佐藤巖根 12. 瀬川宗三 13. 全相運 14.
仙台 15. 園正三 16. 武居三吉 17. 戸谷徹三 18. 外山孟生 19. 外山軍治 20. 外山
二世 21. 萩原基衛 22. 浜田稔 23. 福本慶子 24. 藤田恒 25. 蓑内収 26. 村田治郎
27. Wasson 28. 滋賀民俗学会ノート 29. 青木正児書信

[内容]

赤塚久兵衛（昭和38年1月）——地質学：中国地方の調査，中瀬金山の作業。

池田安之助（昭和38年，昭和41年）——昆虫学：殺虫剤，殺鼠剤，薬の価格。

石神襄次（昭和40年7月）——泌尿科学：早熟問題「米と日本人」未来篇，不妊問
題，大阪医大のこと。

干景讓（昭和41年9月）——台湾：高粱酒，台灣問題，台湾の食物。

植木（昭和43年1月）——雑草学：雑草の防除，雑草の成長，除草剤。

岡田（昭和38年10・12月）——信州の話，原爆被災談：信州のみそ，たまり，果樹について，被爆経験，信州のクルミ，アズ，高野豆腐。

後藤良造（昭和38年8月）——紙：土佐の典具帖，和紙の需要。

雑賀宏（昭和38年9月）——細菌酵素：酵素の析出，工業廃水とその処理，ヒトデ，人口糊料，酵素，酵素の需要。

斎藤実（昭和42年7月）——海外技術者研修協会：協会の概要，留学生の世話。

笹子義江（昭和38年2月）——発生学：七面鳥の産卵数と孵化率に関する田原氏の研究，雉，雉の飼育，海外の鳥を食べる習慣，家禽の飼育。

瀬川宗太郎（昭和34年1月）——温室談：花の栽培，花の販売。

全相運（昭和43年）——韓国の科学史界：19世紀末以降の韓国科学史学界の動向，研究成果，研究者，研究施設，出版，書誌などについて。

仙台（昭和43年9月）——麴，もやし：麴栽培，灰（椿），酒用麴かび，もやし。

園正三（昭和37年11月）——追憶：京大農学部草創期のこと，工科のこと，人文科学研究所のこと，水道のこと，園氏の生家，日本人の潔癖さ，最近の学生など。

武居三吉（昭和38年11月）——蜂の仔：チバチの巣探しから巣を大きくするまで，蜂めし。

戸谷徹三（昭和40年5月）——象：名古屋東山動物園の象を解剖したこと。

外山孟生（昭和42年8月）——香料：タバコと香料，香料各種。

外山軍治（昭和38年8月）——阿波物語：吉野行（鮎鮓，上市・下市，吉野の弥助さん，洞川，壺坂），阿波（和三盆，常備菓子，土地所有，牛，鮎），島根（大社の大神楽，玉造，うなぎ，そば，めのう細工）。

外山二世（昭和38年）——ビール：ビール税，ドイツと比べて，サントリービール，四条河原町辺。

萩原基衛（昭和42年8月）——茨城談：私紙，食物，県の公害問題，鉱業，福島県いわき市のこと，菓子，教育事情。

浜田稔（昭和37～39年）——菌：マツタケ，ケンケラ，きのこの菌の成長，梅干，リンゴウメ，ナメコ，エノキ，毒茸，キヌガサタケ，寒天。

福本慶子（昭和38年9月）——愚痴：ほかに角型のミノのこと。

藤田恒（昭和38・41年）——診療記：病気や患者についての所感などを述べる。

蓑内収（昭和39年4月）——細胞学：近況報告，研究内容の説明，生物物理学のこと。

村田治郎（昭和38年12月）——古建築：信州別所三重塔、磚塔、南支那の家の軒。

R. G. Wasson（昭和38年10月）——菌談：中部メキシコ山地 Mazate の巫女（茸巫），菌の種類。

滋賀民俗学会ノート——昭和38年11月10日大津にて。研究発表「近江のイノコ」，「古墳時代における田遊び田舞について」。発表資料（各1枚）がとじられている。

青木正児書信——便箋2枚と封筒1枚が貼られる。手紙の日付は5月21日とある。篠田著「鮎考二篇」と「五穀の起源」にコメントを寄せる。

128 学者聞書

B5判 横書き 72枚 未製本

フィールド・ノートとして製本する予定で整理されたものと思われ、本のケースに入れられている。『学者聞書』とあるように、講演会等も含めての聞書きであり、内容、年月日ともにはば広い。

[目次] なし

[内容]

花背のおこり——井上頼寿（昭和46年2月27日）：花背のおこり，江州気質，シャッキリなる物について（麻製）。

大台原山ニテ——今関六也（昭和45年7月29日～8月1日）：キノコ（硬菌類）の用途について，特に薬用。樹木について他。浜田遼：台風と松茸について。相良直彦：森林施肥について。黒柳悦次：鳳来寺山の野草について。栗津邦造：京大周辺の環境変化について。大台山の家での食事，採集品，観察物のリスト。押花（楓類），大台ヶ原山の菌類のリスト。大台ヶ原山採集会参加者名簿。

藤田ドクトル——（昭和49年10月6日）患者の話。

Lavoisier の化学——島屋。化学史，特に我国の江戸時代の科学について。

黒の呪術——上村六郎（昭和46年1月23日）：呪術的な色彩を文献から抜き出している。

中国及日本生物学史——北村四郎（昭和54年11月27日）：中国及日本の生物学について（応用面発達，主要著書，植物とその利用法等）。

日本古代の食糧——岡崎一敬（昭和46年3月3日）：縄文時代の食糧（特にドングリ），弥生～土師時代の稲，地層と植物相等について。

新宿文化論——深作光貞（昭和46年6月2日）：新宿に人が集中することについての文化論。

台湾の竹鼠——池田安之助：竹鼠の害への対策と台湾の現状について。

信州飯田医療回顧——宇多小路雄一（昭和46年2月18日）：飯田の医療事情，習慣等について，年代不明。

池田安之助（昭和49年7月14日）：塩化ビモノマーの禁止後の始末について。

硬いキノコの話——青島靖雄（昭和43年7月28日）：硬いキノコの利用法について。

食品添加物について——岡村技師：食品添加物の種類，功罪，取締り，現在の問題等について。

藤田恒（昭和43年10月29日）：寄生虫の話。

山上伊豆母（昭和44年9月8日）：学者批評。

129 筑波嶺

B5判 横書き 98頁

昭和43年10月21日から11月3日までの間に茨城県，栃木県，千葉県を周遊したさいの聞き書きを主な内容とする。この旅行中に，東京家政学院大学において開催された第9回日本風俗史学会大会に出席，大会プログラム，発表要旨プリントが綴じられている。

昭和3年に篠田博士はこの地方を訪れているが，そのさいの紀行文を制吒迦童子の筆名で「関三州」というタイトルで『京都化学会会報』28号1936年に発表しているが，その別刷のほか篠田博士著「新あおむ物語」（『生活文化』第9冊1960年）ならびに篠田有策著「新あおむ物語蛇足」（『生活文化』第10冊1961年）の別刷も合本されている。

[目次]

1. 佐倉・木下・佐原 2. 鹿島郡民俗調査・茨城県教育委 3. 鹿島誌 鹿島町教委（B5変形判 タイプ印刷62頁） 4. 鹿島・銚子 5. 八日市場・東金・茂原・大原 6. 勝浦・清澄山・鴨川・千倉 7. 風俗史学会大会記事 8. 龍ヶ崎・土浦 9. 筑波・真壁 10. 笠間・水戸・茂木・益子 11. 結城・高崎 12. 栃本・古河 13. 境・塚崎・関宿 14. 道中献立 15. 店頭風景 16. 植生観察付動物 17. 交通 18. 道中小遣帳 19. 補遺・参考文献『風俗古今東西』96—121頁

[内容]

佐倉・木下・佐原——佐倉 そばや女主人からの聞き書き：町の歴史，名物，名所，鮓，雑煮。高校教頭談：町の様子。木下 銚子屋老婆からの聞き書き：宿屋，汽船，そば屋，すし，雑煮，行事と行事食。佐原 佐原東高校家庭科の先生：すし，雑煮。

鹿島郡民俗調査・茨城県教委——昭和40年民俗資料緊急調査報告書より：瓜木の漁

業，山之上年中行事，神野年中行事・宗教行事，息栖食生活・正月・餅のいろいろ・宗教・通過儀礼・年中行事，鹿島町全図。

鹿島誌——昭和43年に発行された鹿島の郷土資料，大地のなりたち，人々の住みつきと生活，鹿島の古墳，古代の鹿島神宮と郷土生活，鹿島略年表，文化財とは，という内容になっている。

鹿島・鮎子——鹿島渡辺さんからの聞書き：家人の事，書庫。鹿島吉見屋飯田平左衛門談：すし，雑煮，鰯，鹿島港。

八日市場・東金・茂原・大原——八日市場桐屋老主人談：近所着き会い，鰯のカラヅケ，甘藷，落花生，年中行事と行事食，社会状況，通過儀礼，すし。八日市場匠瑳高校教頭高橋利悦氏談：養豚，地域差，紀州。東金高校家庭科主任小飼雅子先生談：鰯のくさり鮓，年中行事，すし。繁原高校吉野先生談：鮓，年中行事，カラヅケ。大原汽車にのってた高校女生徒より：すし，行事食。

勝浦・清澄山・鴨川・干倉——勝浦朝市のオバハンより：品物の産地。清澄山老僧：寺の説明，上人像。鴨川長峽高校校長・教諭らより：鮓，行事食，ハバノリ，漁業。干倉運転手より：高家神社。

風俗史学会大会——プログラム。吉田幸平「韋駄天立騒にみる兜美濃国鏡島乙津寺」原稿抜粋。「戦国時代の武士の衣生活資料」。清田倫子「東山時代の宮廷行事一御湯殿の上日記を中心として」が挟みこんである。

竜ヶ崎・土浦——竜ヶ崎第二高校校長横田一二氏・家庭科中山先生より：代官屋敷，馴れ鮓，雑煮，煮鰯，年中行事，サメ。扇屋主人石塚政太郎氏談：すし，魚産地，鮓，船頭ずし，地名。土浦第一女高校長高塚半衛老談：鮓，雑煮，短大。

筑波・真壁——筑波：筑波山神社 西瓜の記念碑。筑波町，筑波納豆。真壁真壁高校校長富山徳四郎氏・家庭科オバハン・食品化学科若い男より：綿，紺屋，蕎麦，雑煮，鮓，行事食，祭礼，だいどう。

笠間・水戸・茂木・益子——笠間笠間高校堀川収校長：すし。水戸弘道館：陳列品。益子道祖本見目陶場にて：浜田庄作，益子焼。タクシー運ちゃん談：鮓，雑煮。

結城・高椅——結城結城二高小野昂校長 家庭科深谷さんより：関東と稿西，石岡，雑煮，正月料理，行事食，鮓，講，蒟蒻，豆腐，初茸，年越し。結城～高椅運ちゃん：鯉，結城紬。高椅 官守角田庄一郎談：高椅神社，鯉，文書，刀。下野国下都賀郡高椅鎮座 延喜式内県社高椅神社御縁起畧記が挟んである。

栃木・古河——栃木栃木二高校長・家庭科先生より：鮓，雑煮，蕎麦，蒟蒻，産物，粥，行事食，町の盛衰。古河二高吉田校長・社会科石川教諭より：雑煮，正月料理，

篠田統資料目録Ⅰ（フィールド・ノート）

鮎，鯉延寺。石川治「昭和43年度高校教育課程研究集会研究要綱」が挟んである。

境・塚崎・関宿——境町境高校蓮沼節哉教頭ほか2人：鮎，赤だし，猿島肝炎，行事食，雑煮，干納豆，そば，特産。 塚町大賀こう談：正月料理，鮎，油，左官，盆，生活食，特産物。関宿旧士族奥原謹由談：黒川家系図，雑煮，士族，舟問屋，正月料理，藩士会，氏族屋敷。「関宿雑記交通ノ変遷」，奥原氏よりの手紙と士族屋敷の間取り，制吒迦童子「関三州」，篠田統「新おあむ物語—機無女聞書一」，篠田有策「新おあむ物語蛇足」がはさんである。

道中献立——10月21日より11月3日までの旅行中の食事の献立が記されている。

店頭風景——佐倉・布佐・勝浦・竜ヶ崎・土浦・真壁・笠間・水戸・益子・結城・茂木・高椅・栃木・竜ヶ崎補の商店の店先に並べられた品物を記してある。

植生観察付動物——旅行中の上記の各地の植生及び鳥等の種類を書きだしてある。

交通——勝浦・竜ヶ崎・土浦・笠間・境からの交通の便。

道中小遣——旅行中の小遣い帳。

補遺——内容なし。

130 山草会資料

B4判 横書き 6頁

1977年7月10日の山草会での資料と思われる。

[内容]

カンアオイ属 *Asarum* の分布・分類・性質・特徴について。ぎふちょうの分布・京都府下産蝶と食卓。

131 実録 BALI 1977

10.5×14.8 cm 横書き 72頁

1977年8月22～26日まで，風俗史学会のツアーによるバリ島旅行の記録。

[目次] なし

[内容]

バリ島の旅行日記。献立，風俗等が書きこまれている。

132 BALI Selecta

10.5×14.8 cm 横書き 46頁

1977年8月22～26日まで，風俗史学会のツアーによるバリ島旅行の記録。

[目次] なし

[内容]

旅行記。風俗、植物等が書きこまれている。

車窓日記

133 土佐日記 附冊 昭29

B 6判 横書き 100頁

内扉に「土佐日記」と記されている。昭和29年7・8月に四国を旅行した際の記録「車窓日記」の調査票で、票数は45。7月22日から26日を除く8月2日までの日付が記載される。

[目次]

1. 旅程 2. 調査票

[内容]

旅程——第1日大阪発、船中泊小松島、第2日平谷泊、第3日甲浦泊、第4日安田泊、第5日赤岡泊、第6日田井泊、第7日日比原泊、第8日須崎泊、第9日入野泊、第10日清水泊、第11日岩松泊、第12日伊方泊、第13日京都市。13日間分、1日ごとに経由地と交通機関を記す。

調査票——記載されている調査地は次の通り。南小松島駅、羽浦、立江駅付近、橋、桑野、和喰、平谷、平谷～川口、川口、日和佐、牟岐、甲浦、佐喜浜、佐喜浜～室戸岬、室戸岬～奈米利、奈米利～安田、安田～安芸、安芸、田井、田井～日浦、長沢、日比原、日比原～伊野、伊野～宇佐、横浪～須崎、久礼～窪川、窪川～小野川、小野川～影野、影野、入野、入野～中村、清水、小筑紫～宿毛、岩松、岩松～宇和島、宇和島～八幡浜、八幡浜～伊方、八幡浜～伊予下灘、下灘～菊間、菊間～西条、西条～川之江、川之江～詫間、詫間～高松、茶屋町～岡山。

移動中の乗物の車窓からの観察が主になっていると思われる。

134 石見路 附録 附丹波稻畑 昭二九

B 6判 横書き 62頁

昭和29年10月19日と24日、27～31日の間の山口へ行った時および8月10日11日の兵庫県へ行った時の車窓や車内の記録を「車窓日記」の記録用紙へ記入したもの。

135 たたら日記 附録 昭和30／7月

B 6判 横書き 54頁

昭和30年7月3日～17日の松江へ行った時の車窓や車内の記録を「車窓日記」の記

録用紙に記入したもの。

136 車窓日記 越前（31） 近畿（34）

B 6 判 横書き 108頁

昭和34年10月12日から14日の淡路旅行，12月13日の近江旅行，7月2日，3日，4日，17日，10月2日，3月6日の期間の京阪神間の車窓からの記録を専用の記録用紙に記入したものと，昭和31年8月3日から7日の越前旅行，8月12日から13日の尾張旅行，8月16日の伊勢旅行の間の車窓や車内の記録を前半とは別の専用の記録用紙に記入したもの。

137 車窓日記 昭三三

B 6 判 横書き 136頁

昭和33年8月21日から24日の紀和旅行の間および6月1日の山陽，6月1日から8日までの間の山陰旅行，7月14日の山陰旅行の間の車窓からの記録を専用の記録用紙に記入したもの。

138 車窓日記 四十曲峠 昭三四

B 6 判 横書き 74頁

昭和34年11月21日から12月3日までの間の車窓からの記録を専用の記録用紙に記入したもの。

139 車窓日記 昭三四夏

B 6 判 横書き 100頁

昭和34年6月3日から14日までの松江へ行って帰った旅行の車窓からの記録を専用の記録用紙に記入したものでコースは山陽まわりで行き山陰まわりで帰っている。

140 車窓日記 山陰 昭34～36

B 6 判 横書き 82頁

昭和34年から36年の山陰旅行の車窓からの記録を専用の記録用紙に記入したもののまとめで旅行期間は34年8月18，19日と35年8月14日と，36年6月3日4日と，6月10日，11日の期間である。

141 車窓日記 越信道中 昭35

B 6 判 横書き 164頁

昭和35年4月27日から5月10日までの越信道中間の車窓からの記録を専用の記録用紙に記入したもの。

142 車窓日記 山陽 昭36～37

B 6 判 横書き 124頁

昭和36年と37年の山陽旅行の車窓からの記録を専用の記録用紙に記入したもののもとめて旅行期間は36年11月19日、11月23～25日、37年6月3日、6日～11日の期間である。

143 伊奈の春 昭38

B 6 版 横書き 114頁

昭和38年3月25～29日、京都・東京・諏訪・豊橋・京都間を列車で移動中の観察記録。「車窓日記」の用紙の票数46をとじてある。

[目次]

1. 京都～東京 2. 東京～韭崎 3. 韭崎～諏訪 4. 諏訪～水窪 5. 水窪～豊橋 6. 豊橋～名古屋(名鉄) 7. 名古屋～京都

144 道中記

B 6 判 70枚 未製本

昭和39年9月30日から10月10日まで、北九州をまわった折に、移動中の車窓から植物の生態を観察したノートである。

145 車中所見

B 5 判 2 ツ折り 横書き 78枚 未製本

車中所見。規定用紙使用。

146 [無題]

B 5 判 2 ツ折り 12枚 未製本

車窓日記。

147 朝妻船

B 5 判大学ノート 横書き 84頁

戸籍、計366名を記す。「当村」の記載あるも、どこの村かは不明。

[目次]

松原戸籍

148 池田市米山之口町宗門帳（文久2・3・4 元治2 慶長2・3・4 明治2・3）

B 5 判 横書き 88頁

表記各宗門帳より抜き書きして写したもの。

[目次]

文久2年

文久3年亥2月宗旨人別家数員数帳。

文久四歳甲子二月宗旨人別長。

元治2年丑2月宗門人別長。

慶応2年寅2月宗門人別長。

慶応3年浄土宗，禅宗，一向宗，日蓮宗，真言宗，宗門人別帳，卯十月。

慶応4年浄土宗，禅宗，一向宗，日蓮宗，真言宗，宗門人別帳，辰2月。

明治2年浄土宗，禅宗，一向宗，日蓮宗，真言宗，宗門人別帳，巳三月。

明治3年浄土宗，禅宗，一向宗，日蓮宗，真言宗，宗門人別帳，午2月。

149 歌

15.6×9.7 cm 縦書き 154頁

短歌・随想を書き綴ったもの。年不詳であるが途中に三高二部三年の文字があり、1920年前後かと推測される。途中、他のノートの断片が挟まれている。

[目次] なし

[内容]

雑記・短歌・醸造物の作成行程。

150 加賀杜氏の概要

B 5 判 横書き 6頁

加賀杜氏の推移を宝暦から昭和40年まで記したもの。

[内容]

丹波古流の酒造法を修得した加賀杜氏を，宝暦，天保，明治初年～30年頃，明治30年～昭和20年，昭和21年～40年の5期に分けて各々の概要を記したもの。

151 系図

B 5 判 53枚 B.6 判 64枚 未製本

調査年代不明。

152 月琴楽譜

B 6判 縦書き 170頁

月琴の曲を漢字とその読みの片仮名および楽譜の符号で書きあらわした楽譜の写本。

[内容]

等命曲・九連環・剪々花・抹梨花・四季・紗窓・賣脚魚・哈々調・萬壽寺宴・鳳陽調・補缸匠・親母鬧・漫波流水・久聞・鳳花集・璋州曲・富貴雙聯・滿江紅・魚水調
寶箭・尼姑思還・將軍令

153 讃岐酒史 浜政一

A 5判 横書き 56頁

内扉に「讃岐酒史 浜政一述 香川県発行（非売品）昭和12年3月 高松」とある。『讃岐酒史』を抄録したもの。香川県における酒造業の歴史を多方面から論じた著。数ヶ所、篠田のコメントと思われる記述がある。

[目次]

1. 目次 2. 本文抜書き

[内容]

目次——序文、写真、第一章 酒と人類の関係 第二章 1. 太古 2. 古代 3. 奈良、平安朝時代 4. 鎌倉時代 5. 室町時代 6. 安土桃山時代 7. 徳川時代 第三章 酒造制度 第四章 讃岐に於ける麴製造業及醴並に雑酒 第五章 讃岐に於ける酒造従業者と出身地 第六章 酒価・賃金其他 第七章 酒に関する伝説・奇聞・風俗集 第八章 酒に関係ある神社 第九章 酒に関係ある人物 第十章 研究機関。

本文抜書き——第2章1～ロ 三豊郡に於る忌部氏の活動 第2章2～ロ 神櫛王の酒造 第2章2～ハ 黒丸酒 第2章3～ロ 酒部黒麴の酒 第2章3～ハ 香河郡に於ける秦人の酒造 第2章7～イ 全国の状態（徳川時代） 第2章7～ロ 金毘羅酒 第2章7～ハ 仁尾の酒、米・粃・水の配合に関し篠田自身のものと思われるコメントが付されている。第2章7～ニ 観音寺和田浜の酒 第2章7～ホ 龍宮の酒 第2章7～ヘ 小豆島の酒 第2章7～ト 丸亀の酒 第3章イ 法令税制第3章ハ 酒造組合 第4章イ 麴と室本浦 第4章ロ 醴 第4章ハ 白酒、練酒、味淋其他 第5章イ 香西町と香西杜氏組合 第5章ロ 豊浜杜氏 第5章ハ 引田杜氏 第5章ニ 仁尾杜氏、小豆島杜氏 第7章イ 酒に関する伝説 第7章ロ 酒戦奇聞 第7章ハ 風俗民謡 第8章 酒に関係ある神社 第9章 酒に関係ある人

物 第11章 酒銘物語 第12章 統計表。

154 三正綜覧 王朝，奈良，平安初

B 6 判 横書き 120頁

A.D 581 年から天長元年（824）までの和暦と太陽暦との月日の対照表で，表も製本も篠田先生の手製。

155 三正綜覧

B 6 判 横書き 152頁

延暦十二年（793）から永長元年（1096）までの和暦と太陽暦との月日の対照表で，表も製本も篠田先生の手製。

156 三正綜覧 院政，鎌倉，南北朝

B 6 判 横書き 144頁

永保元年（1081）から応安元年（1368）までの和暦と太陽暦との月日の対照表で表も製本も篠田先生の手製。

157 三正綜覧

B 6 判 横書き 136頁

建武元年（1334）から慶長十年（1605）までの和暦と太陽暦との月日の対照表で表も製本も篠田先生の手製。

158 三正綜覧 抄 1601 A.D 以降

B 6 判 横書き 132頁

慶長六年（1601）から明治五年（1872）までの和暦と太陽暦との月日の対照表で表も製本も篠田先生の手製。

159 住宅図

A 4 判 84枚 未製本

調査年代は不明。住宅の見取図が1 m/m 方眼の用紙に書き込まれている。他にその住宅の場所，略歴，建築された年，改築の有無等について，記載されている。

160 新材木宗門帳

B 5 判 横書き 60頁

地方は不明であるが，新材木町の天保3・4・7・13年及び安政7年の人別帳を写

したもの。綴じられていないので、袋に一まとめに入れてある。

[目次] なし

[内容]

天保3年 辰2月 人別帳——旦那寺院を記して、それぞれの檀家の石高・氏名・年令・家族構成を記す。

天保4年 乙2月 人別帳——記載内容・形態は上に同じ。

天保7年 宗門帳並人別員数帳 申2月——記載内容・形態は上に同じ。

天保13年 宗門御改人別員数帳 寅2月——記載内容・形態は上に同じ。

安政7年 申3月 宗門御改人別員数帳——記載内容・形態は上に同じ。

161 杜氏名簿

昭和26年より35年にかけて集められた、各地の杜氏の名簿がA4サイズの封筒に収められている。

名簿は、昭和26年城崎、昭和27年西条、昭和29年備中・西宇和郡・丹後、昭和30年南部・能登・広島・美方郡・出雲、昭和31年丹波・南部・香西、昭和32年美方郡、昭和35年福岡県、年代不明能登・愛媛県の各組合のものがある。

162 調査旅行記

B5判 横書き 80枚 未製本

年不明5月24日～28日までの木曾調査記。後16頁が資料となっている。

[内容]

旅程、道中献立、各地の民俗調査。

163 春の鳥

B6判変形 横書き 18頁

孔版印刷でつくった私家版野鳥観察マニュアルに書きこみをしたもの。緑色無地の包装紙を利用した台紙に孔版印刷の部分を貼りつけて合本してある。作成時不明。

[目次]

比叡山概略図、凡例、本文、昭和七年観察実例。

[内容]

比叡山概略図—本文中に記した留鳥、漂鳥などの鳥の移動に関する分類の説明、鳴声の分類の説明を記す。

本文—98種類の鳥について分類番号、鳥名、科、形態の特徴、移動の種類、ハビタ

ット、オス・メスの鳴声の特徴、異名の欄をもうけている。これに見かけた月日、卵を発見した月日などを記入している。

昭和27年観察実例—5月28, 29日, 比叡山元黒谷青龍寺で早朝4時から朝の時間帯を, 30分間隔の時間帯に区切り, その間に発見した鳥の種類を記す。同様の観察を5月29日洛東の吉田山, 黒谷, 南禅寺でおこなったもの, 6月18日大文字山麓でおこなった記録も孔版印刷になっている。

164 吉野下市 宅田文書

B5判 縦書き 234頁

大和国吉野下市村の宅田家にかかわる文書を写したもの、宅田家の家業であった釣瓶鮎の献上などについてや下市村の宮座・村役人についての文書が中心である。

[目次]

1. 天和三年 みつ訴訟一件 2. (享保七年) 宅田文書 宮座関係・村政など 3. (享保十一年) 村役人・宮座役人 任命の件 4. 天明八年 (含享保十七年裁許状) 織田豊前守様御代 芝村御役所様江寂静寺願出候ニ付宮座筋目より奉書上候書付扣・宮座弥助 5. 寛政五年 和州吉野郡郡中潰百姓取立願控 丑二月, 「(寛政十年), 慶長拾九年 御代官様御支配書 并当村宮座之取共由緒書」, 「享和二年 銀札・屋敷の件訴訟, 江戸引越」, 「(嘉永三) 旧宅取戻しの件 附賃入証文 (文久三)」, 「年次不明 可成後のもの 御觸書」, 「(寛政七) 宮座・村政関係」, 「享保六年御用講釈覚」, 「(寛政3) 家督無沙汰ニ相統候出入」, 「明和九 天明五 献上釣瓶鮎書付控」

[内容]

天和三年 みつ訴訟一件——家督争いについての取調に対する言上書。

(享保七年) 宅田文書 宮座関係・村政など——宮座の欠員補足と要銀工面についての証文。

(享保十一年) 村役人・宮座役人 任命の件——村・宮座役人の補充, 宮座年寄・沙汰人・庄屋の勤方大概書, 老順など。

(享保十九年) 譲状——丁銀, 家屋, 山林, 畑などの譲状七通を記す。

天明八年 (含享保十七年裁許状) 「織田豊前守様御代 芝村御役所様江寂静寺願出候ニ付宮座筋目より奉書上候書付扣」, 「宮座弥助——吉野郡下市村の寂静寺と宮座の間の八幡宮神田・神料の使用についての争いに対する願書」, 「裁許状」, 「神事供物献立」。

寛政五年 和州吉野郡郡中潰百姓取立願控 丑二月——京橋柳町の藤右エ門の店に奉公している弥三右エ門き自分の故郷である下市村の潰百姓についての願上書, 銀札

引替納の立替銀滞りについての願上書。

(寛政十年)、慶長拾九年与御代官様御支配書 并当村宮座之取共由緒書——慶長19年よりの代官の任期、宮座の者の由緒(御用鮓献上、神田料用途など)。

享和二年 銀札・屋敷の件訴訟、江戸引越——銀札引替について、釣瓶鮓献上、鮓屋弥助の江戸引越願書。

(嘉永三) 旧宅取戻しの件 附賃入証文(文久三)——宅田弥助の家屋取戻の願書、差入引当証文。

年次不明 可成後のもの 御触書——釣瓶鮓献上についての触、2通。

(寛政七) 宮座・村政関係——庄屋惣八訴え、新規村役人の事等村政関係文書一通、家屋取戻願書一通(釣瓶鮓献上相勤とあり、おそらく弥助の出したものであろうと考えられる。)

享保六年 御用講釈覚——献上御鮓相勤諸役御赦免、御鮓所儀、御鮓差上ケ申訳書留、(鮓献上延期、鮓献上日、鮓取り日等覚、鮓鮓仕始、献上始、員数等覚、諸色新銀立通用仕御触、鮓通用新銀御値段ニ改メ、献上御鮓の作り方、差上ケ申済状之事、寛永拾七年～享保拾五年までの代官氏名、など。

(寛政3) 家督無沙汰ニ相統候出入——家督出入についての鮓屋弥助一家の願、銀札の事など11通。

明和九 天明五 献上釣瓶鮓書付控——村ごとの献上鮓の数、鮓取りの定め、鮓の外箱・内箱の定め、免札写し、釣瓶鮓献上の触、御絵符写し、献上鮓入目録、献上御鮓村割目録。

165 [無題]

18.8×12.8 cm 64頁

中国・朝鮮の名勝を漢詩を混ぜながら記したもの。表紙・裏表紙脱落。

[目次] なし

[内容]

釜山、東萊、蔚山、金海、梁山、密陽、清道、慶山、大邱、永川、慶州、迎日、高靈、碑泉、永同、滂同、大田、清州、菱岐、天安、水原、始興、京城。

166 [無題]

10.1×15.5 cm 縦書き 126頁

資料ノートと思われるが、表紙・裏表紙脱稿のため年代不詳。

篠田統資料目録Ⅰ（フィールド・ノート）

[目次]

松の葉（省景巻二巻四 抄巻一卷三巻五） 建礼門院右京大夫集（全）。柱頭（数種）。小住宅設計（数種）。鳥居（各種）。

[内容]

松の葉。建礼門院右京大夫集。柱頭図。住宅設計図。鳥居図。樹形図。仁勢物語上。伊勢源氏十二番女合。唯物史論。

167 [無題]

13.2×8.3 cm 114頁

台湾銀行の手帳を転用。フィールドに使用したノート、メモと思われる。

[内容]

南紀の死亡原因率。時刻表。食用或いは薬用食物の有用部分別メモ。

168 [無題]

B 4 判 横書き 2 枚

調査地、年月不明。天保8年～慶応2年まで及び天保8年～弘化1年までの出生・死亡・婚姻による人口の変動の表。

双方とも、フィールド・ノートに組込まれるものかフィールド・ノート製作用の資料と考えられる。

169 [無題]

B 5 判 横書き 5 枚

調査地、年月不明。家系及び家族構成に関するメモ。

いずれフィールド・ノートに組込まれる予定のものか、または、フィールドノートの下書きと思われる。

170 [無題]

B 4 判 2 ツ折り 1 枚 横書き

調査地・年月不明。文久1年～万延1年までの家族構成状況の表。

いずれフィールド・ノートにはさまれる予定か、或いはフィールド・ノート用の資料であったと推定される。